KYOCERA
mita

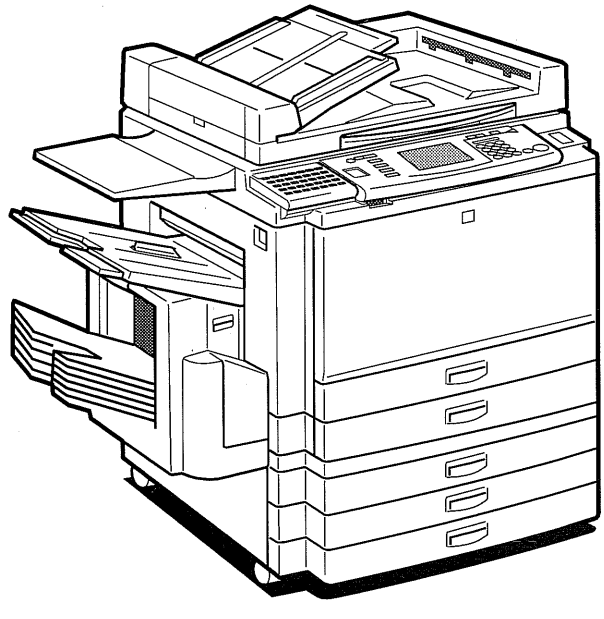
KM-3510w

静電複写機

使用説明書

＜コピー機能編＞

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。
お読みになった後は、所定の保管場所に大切に保管してください。



京セラミタ株式会社

KM-3510w をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

この使用説明書は、複写機を良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。
ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。また、お読みになった後は、所定の保管場所に大切に保管してください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ **警告**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

「注意一般」、

「感電注意」、

「高温注意」

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

「禁止一般」、

「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

「強制一般」、

「電源プラグをコンセントから抜け」、

「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

〈お願い〉
使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

当社は国際エネルギースターフログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

※ENERGY STARとENERGY STARのロゴは米国の登録商標です。

本資料の全部又は一部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法上での例外を除き、禁じられています。

この本の読み方

おもなユニットの略称

おもなユニットの名称は次のように表しています。

- 両面自動原稿送り装置RADF RF3e⇒自動原稿送り装置（RADF）
- 原稿台カバータイプB⇒圧板
- ステープルソーター AS-AC10⇒ステープルソーター
- 増設ハードディスクタイプW2⇒HDDユニット
- A2コントローラー タイプG1⇒プリンターユニット
- FAX System (D)⇒FAXユニット

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

誤って操作をすると、紙づまり、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

[ ]

画面のキーの名称を示します。

【 】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

- 画面の表示内容やイラストは増設しているオプションによって異なります。

目次

⚠ 注意ラベルについて 4
⚠ 機械を設置する時のご注意 4
⚠ 取り扱い上のご注意 5
⚠ コピー禁止事項 7
画面について 8
標準操作画面について 8
シンプルメニュー画面について 9
こんなことができます（標準操作画面） 12
こんなことができます（シンプルメニュー画面） 14
各部の名称とはたらき 16
おもなオプションの名称とはたらき（外部オプション） 18
操作部各部の名称とはたらき 19
おもなオプション別機能一覧 20

1. コピーを始める前に

原稿について 23
セットできる原稿のサイズと紙厚 23
自動原稿送り装置（RADF）にセットできない原稿 23
サイズを読み取りにくい原稿 24
自動的に読み取れる原稿サイズ 24
原稿サイズと読み取り範囲 25
用紙について 26
セットできる用紙サイズ、種類 26
使用できない用紙 29
用紙の保管 29
用紙の取り扱い 30
除湿ヒーターについて 30
用紙の補給 30
トナーについて 31
トナーの取り扱いについて 31
トナーの種類 31
トナーの保管 31
トナー補給のしかた 31
使用済みトナーの取り扱い 32
用紙サイズの変更 33
トレイ1、2の用紙サイズを変更する 33
トレイ3～5の用紙サイズを変更する 34

2. コピーする

基本的なコピーのとりかた 35
コピートレイガイドの切り替え 36
原稿のセット 38
コンタクトガラスへの原稿のセット 38
自動原稿送り装置（RADF）（オプション）への原稿のセット 39
基本機能について 42
カラー選択 42
コピー濃度調整 43
原稿種類選択 43
用紙選択 44
等倍100% 44
用紙指定変倍 45
ソート／スタック／ステープル（ステープルソーターが必要） 46
ソート／スタック（ステープルソーターが必要） 46
ステープル（ステープルソーターが必要） 47
回転ソート／回転スタック／電子ソート（HDDユニットが必要） 49
回転ソート／電子ソート 50
回転スタック 51
読み取りの中断/原稿の画像のクリア 52
手差しコピー 53
用紙厚／定着切り替えスイッチの切り替え 54
手差しコピー 54
プログラム 56
プログラム登録／変更 56
プログラム呼び出し 57
その他の機能 58
定形変倍 59
ズーム 60
寸法変倍 61
倍率補正 62
独立変倍% 64
独立変倍mm 65
分割 66
集約（自動原稿送り装置（RADF）とHDDユニットが必要） 67
機密管理ナンバリング 69
スタンプ印字 70
ユーザースタンプ印字（HDDユニットが必要） 72
ユーザースタンプの登録／消去方法（HDDユニットが必要） 74
日付印字 76
ページ印字 78
センター／枠消去 81
ダブルコピー 82
指定色消去 83
指定色変換 84
リピート（HDDユニットが必要） 85
とじ代 86
センタリング／コーナリング 87
反転（白黒反転） 88
ミラー 89
合成 90
フォーマットの登録方法（HDDユニットが必要） 91
機能組み合わせ一覧 92

3. こんなときには

コピーが始められないとき 93
メッセージが表示されたとき 93
コピーがきれいにとれないとき 95
思いどおりにコピーされないとき 97
用紙がなくなったとき 101
トレイ1~2の用紙を補給する 101
用紙厚の切り替え方法 102
トナーがなくなったとき 103
用紙や原稿がつまったとき 105
Ⓐ Ⓨ表示の場合 106
Ⓑ Ⓒ Ⓟ Ⓡ表示の場合 107
ステープラーの針がなくなったとき 109
ステープラーの針がつまったとき 110
キーカード／キーカウンターのセット 111
キーカードをセットする 111
キーカウンターをセットする 111
赤のコピーがきれいにとれないとき 112
カラー現像ローラーの清掃 112

4. 初期設定

コピー初期設定値の変更 113
初期設定の終了 113
初期設定値のオールクリア 114
機能一覧図 (コピー初期設定) 116
コピー初期設定の項目 118
コピー基本操作設定1/3 118
コピー基本操作設定2/3 119
コピー基本操作設定3/3 119
コピー基本編集設定1/2 120
コピー基本編集設定2/2 120
コピー印字編集設定1/3 121
コピー印字編集設定2/3 124
コピー印字編集設定3/3 128
コピー周辺設定1/2 128
コピー周辺設定2/2 129
フォーマット登録 130

5. 保守運用のために

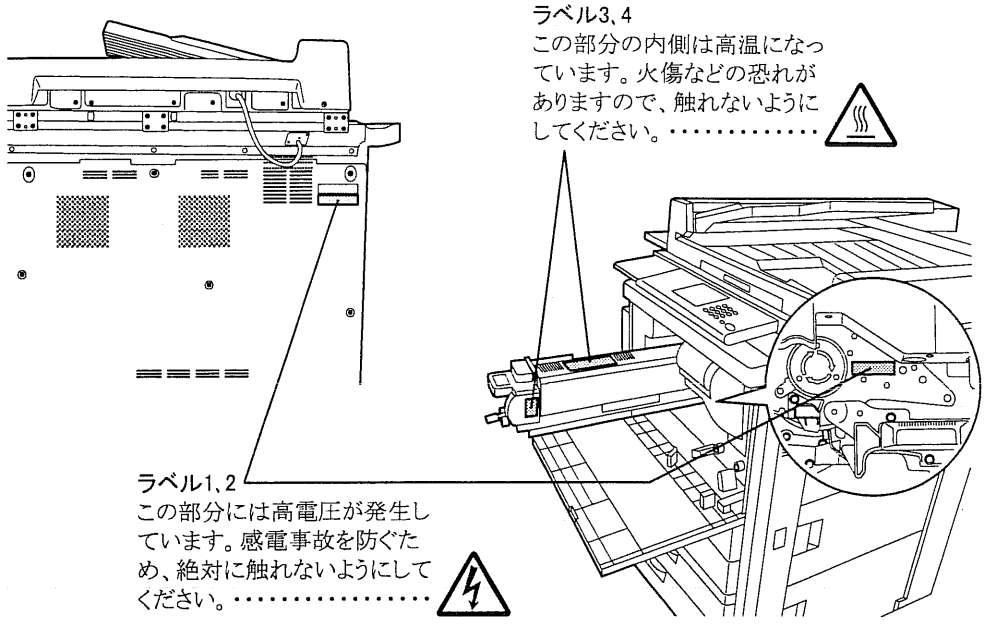
使用上のお願い 131
清掃のしかた 132
製品の保守サービスについて 133
保守サービス契約書について 133
補修用性能部品について 134

6. 付録

仕様 135
おもな付属品 137
オプションについて 138
消耗品 141
索引 143

⚠ 注意ラベルについて

本製品には、下記に示す位置に安全に関する注意ラベルを貼っています。紙詰まり処置やトナー補給時に火傷や感電などの事故のないようご注意ください。



〈お願い〉これらのラベルは、はがさないようにしてください。

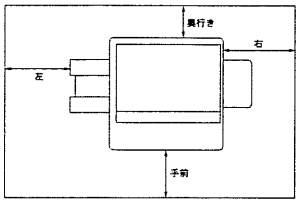
⚠ 機械を設置する時のご注意

■設置環境について

⚠注意

- 本製品をぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本製品を湿気やほこりの多い場所に置かないでください。万一電源プラグにほこりやゴミなどが付着している場合は取り除いてください。火災、感電の原因となることがあります。
- 本製品をストーブなどの熱源や可燃物が近くにある場所に置かないでください。火災の原因となることがあります。

- 本製品の冷却効果を保つため、機械の周辺は下記のスペースを確保してください。特に機械後側には通気口があり、壁などに近づけないでください。充分なスペースがないと冷却されず、発熱や性能不良の原因となります。



標準の時

手前　：70ｃｍ
奥行き：10ｃｍ
左　　：55ｃｍ
右　　：60ｃｍ

● 本製品を設置したらキャスター止めをしてください。動いたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。.....

その他の注意事項

● 本製品は設置する場所によっては外気条件が加わって、性能が維持できなくなる場合がありますので、常温常湿の室内（室温20℃、湿度65％ＲＨが適当）に設置し、下記のような場所は避けてください。

- 窓際など、直射日光の当たる場所や明るい場所
- 振動の多い場所
- 急激に温度や湿度が変化する場所
- 冷暖房の冷風や温風が直接当たる場所
- 通気性、換気性の悪い場所

■設置電源・アースについて

⚠警告

● 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。.....

● 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災、感電の原因となります。.....

● 必ずアース線をアース対象物に接続してください。アース接続がされないで万一、漏電した場合は火災、感電のおそれがあります。なお、アース接続ができない場合は、弊社製品取り扱い店等にご相談ください。.....

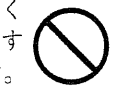
その他の注意事項

● 電源プラグは、本製品の近くの容易に接続できるコンセントにつないでください。

■ビニールの取り扱いについて

⚠警告

● 本製品に使っている包装用のビニールを子供に触れさせないでください。ビニールが鼻や口に吸着すると、窒息するおそれがあります。



⚠ 取り扱い上のご注意

■機械の取り扱いについて

⚠警告

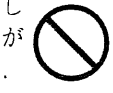
● 本製品の上に花瓶、植木鉢、コップや水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電のおそれがあります。.....

● 本製品のカバーは外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。....

● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。.....

● 本製品の改造や分解は絶対に行わないでください。火災、感電、レーザ光線への被爆のおそれがあります。レーザ洩れによる失明のおそれがあります。.....

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。.....



- 万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切りその後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして弊社製品取り扱い店等にご連絡ください。

- 万一、異物（金属片、水、液体）が本製品の内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社製品取り扱い店等にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

- 内部の点検・修理は弊社製品取り扱い店等に依頼してください。

⚠注意

- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。電源コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ず電源プラグを持ってコンセントから抜いてください）

- 本製品を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。電源コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

- 夜間等で長期間、本製品を使用にならない場合は、電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切ってください。また連休等で長期間、本製品を使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 本製品内部の清掃については弊社製品取り扱い店等にご相談ください。本製品の内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部清掃費用については弊社取り扱い店等にご相談ください。

- 本製品の清掃を行うときには、安全上必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 本製品を持ち上げたり、動かす場合は、所定の箇所を持つようにしてください。

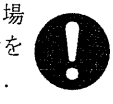
その他の注意事項

- 本製品の上には重いものをのせたり、衝撃を与えたりしないでください。
- コピー中には次のことをしないでください。
  - 前カバーを開ける。
  - 電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切る。
  - 電源コードを抜く。
- 本製品の使用中はオゾンが発生しますが、その量は人体に影響を及ぼさないレベルです。ただし、換気の悪い部屋で長時間使用する場合や大量にコピーが行われる場合には、臭気が気になることもあります。快適な作業環境を保つためには部屋の換気をすることをお勧めいたします。
- 転居などで本製品を動かす場合は、弊社製品取り扱い店等へご連絡ください。
- コネクタ・プリント板等の電気部品に触らないでください。静電気により破損する可能性があります。
- ステープルの針がついたままの用紙の再利用や銀紙、カーボン含有紙等の導電性の用紙は使用しないでください。火災の原因になります。
- この使用説明書に記載されていないことは行わないでください。

■消耗品の取り扱いについて

⚠注意

- トナーは吸い込んだり、口に入れたり、眼、皮膚に触れないようにしてください。万一食べた場合は、水で胃を薄め、医師の診断を受けてください。皮膚に触れた場合は、石鹸と水で洗ってください。眼に入った場合は、水で洗い流し、医師の診断を受けてください。



- トナーの長期にわたる過剰な吸入は、普通の塵埃と同じく肺への害がありますが、通常の使用では影響ありません。

- 子供の手に触れさせないでください。

- トナーまたはトナーの入った容器を火中に投じないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。

その他の注意事項

- 本製品をご使用になる前には、必ず消耗品の箱や容器の注意文をよくお読みください。
- トナーやトナーの入った容器の廃棄については国や地方自治体の規制に従ってください。
- 消耗品は冷暗所に保管してください。
- 本製品を長時間使わない場合は、用紙をカセットから取りだし、もとの包装紙に戻して密封してください。
- オゾンフィルター、トナー、感光体等の消耗品や部品は、弊社指定の製品により、安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、弊社指定のオゾンフィルター、消耗品または交換部品をご使用ください。部品の交換は弊社製品取り扱い店に相談してください。

コピー禁止事項

複写機を使って何をコピーしてもよいとは限りません。特に法律により、そのコピーを所有するだけでも罰せられることがありますので、次の点に充分ご注意ください。

1. 法律で禁止されているものには

① 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券は、コピーすることを禁止されています。
例えば、見本の印が押してあっても、コピーすることはできません。

② 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類のコピーも禁止されています。

③ 政府の模造許可を取らない限り、未使用郵便切手、官製はがきの類は、コピーすることを禁止されています。

④ 政府発行の印紙、酒税法で規定されている証紙類のコピーもできません。

(関係法律)

- 通貨及ビ証券模造取締法
- 外国ニオイテ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、証券、偽造変造及ビ模造ニ関スル法律
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙等模造取締法
- 紙幣類似証券取締法

2. 注意を要するものには

① 民間発行の有価証券(株券、手形、小切手など)、定期券、回数券などは、事業会社が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導によって、注意を呼びかけられています。

② 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体の免許証、許可証、身分証明書や通行券、食券などの切符類も勝手にコピーしないほうがよいと考えられます。

3. 著作権にもご注意を

著作権の目的となっている書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画及び写真などの著作物は、個人的にまたは、家庭内その他、これに準ずる限られた範囲内で使用するためにコピーする以外は、禁じられています。

画面について

画面には、操作の状態やエラーメッセージ、機能のメニューが次々に表示されます。

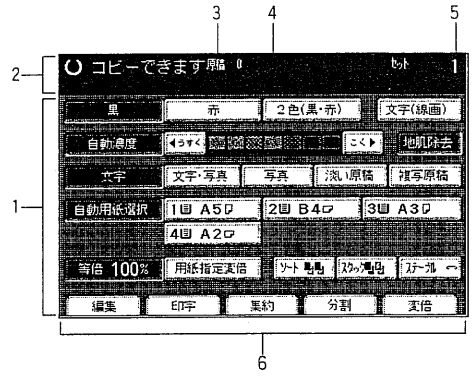
- 表示されているそれぞれの機能項目はタッチキーになっています。
  軽く押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。
- 選択・指定しているときは、自動濃度 のように反転表示されます。
  用紙指定変倍 のようなキーは使用できないことを表しています。

重要

❐ 画面に強い衝撃や約30N以上の力を加えないでください。破損の原因になります。

標準操作画面について

基本的な画面で操作と表示の関係を説明します。



1. **コピー濃度や用紙サイズなどを選択します。**

   参照
   ⇒P.35「基本的なコピーのとりかた」

2. **メッセージエリア**
   操作の状態やメッセージを表示します。

3. **原稿**
   メモリーに読み取った原稿の枚数を表示します。

4. **残メモリー（HDDユニット装着時のみ）**
   回転ソート・電子ソートを選択したときに、メモリーの残容量を%で表示します。

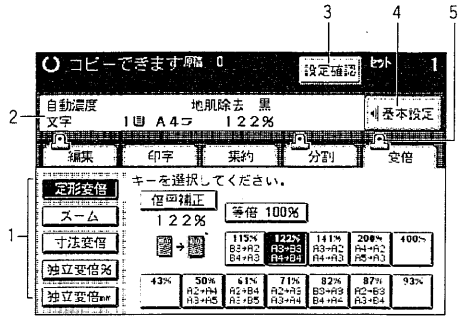
5. **セット枚数／コピー枚数**
   上段にセットした枚数、下段にコピーした枚数を表示します。

6. **原稿全体を加工する機能です。機能項目の1つを押すと、次の画面が表示されます。たとえば、[変倍]を押すと下から変倍の画面が上がってきます。**

   参照
   ⇒P.35「コピーする」

画面には次のように共通したキーがあります。

- [解除して閉じる]
  設定した内容を解除して1つ前の表示画面に戻ります。
- [設定したまま閉じる]
  設定した内容を確定したまま1つ前の表示画面に戻ります。



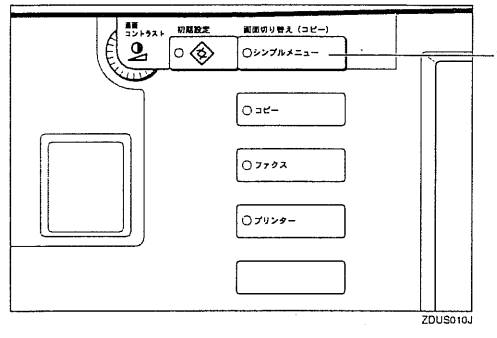
1. 選択・指定できる内容を表示します。
2. 基本機能の設定内容を表示します。
3. [設定確認]
   機能の設定をすると画面右上に［設定確認］が表示されます。設定した内容をまとめて確認するときは［設定確認］を押すと、画面で設定した内容が表示されます。
4. [基本設定]
   機能を設定したあとで基本の画面に戻りたいときは、［基本設定］を押します。
5. 機能を設定するとカードにクリップが表示されます。

補足

❒ 画面の表示内容は機種、オプションによって異なります。

シンプルメニュー画面について

よく使う機能が簡単に選択できる画面に切り替えることができます。

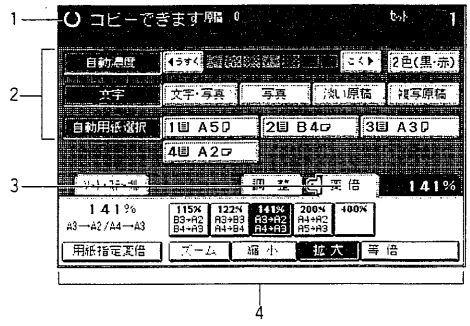


1. 【画面切り替え】キーを押すと画面が切り替わります。

補足

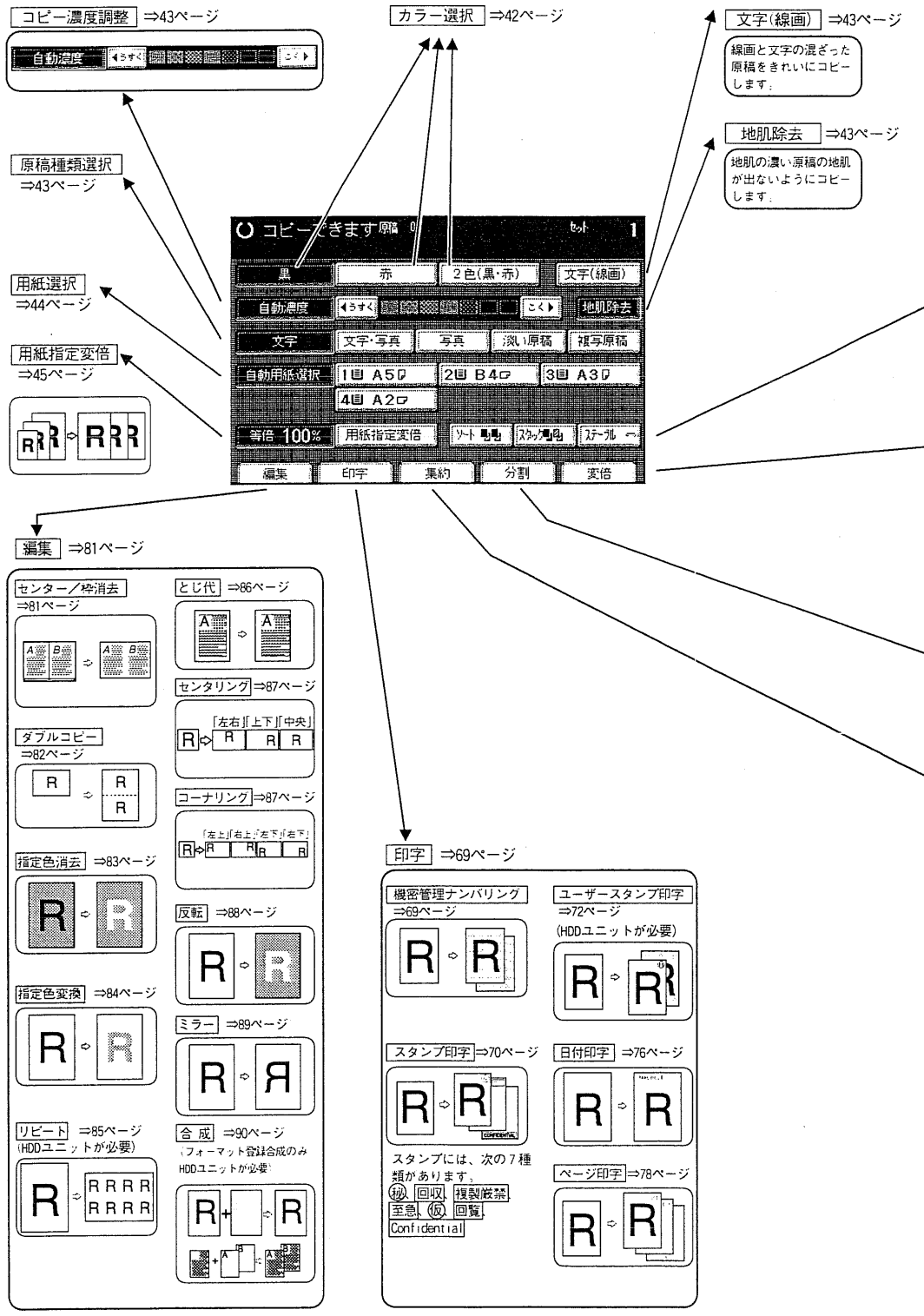
❒ 電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、シンプルメニュー画面を表示させることができます。⇒P.118「シンプルメニュー画面優先」

❒ 編集、印字、集約、分割などの機能を設定するときは、【画面切り替え】キーを押して標準操作画面に切り替えてください。

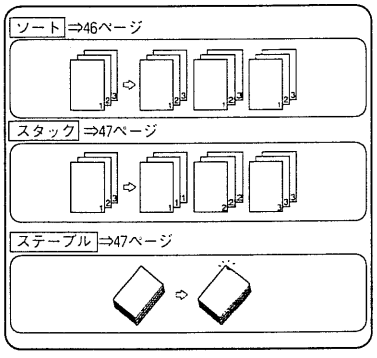


1. メッセージエリア
   操作の状態やメッセージを表示します。
2. コピー濃度や用紙サイズなどを選択します。
3. 機能を設定するとカードにクリップが表示されます。
4. 原稿全体を加工する機能です。
   機能項目の１つを押すと、画面が切り替わります。

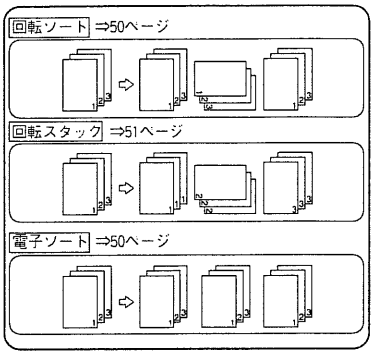
こんなことができます（標準操作画面）



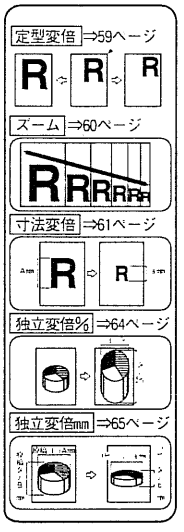
ソート スタック ステープル
（ステープルソーター必要）



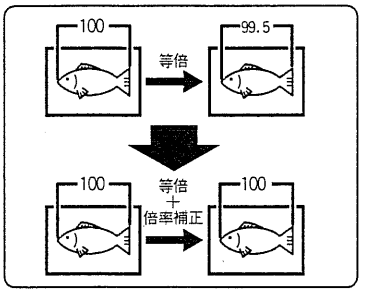
回転ソート 回転スタック 電子ソート
（HDDユニットが必要）



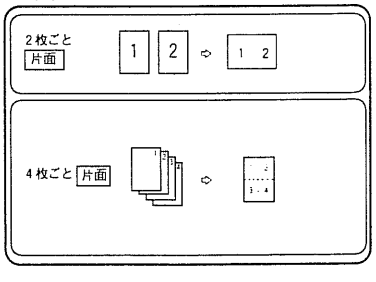
変倍



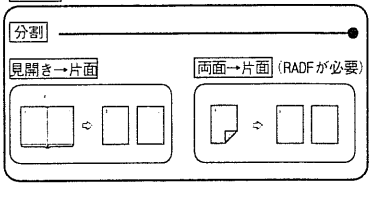
倍率補正 ⇒62ページ



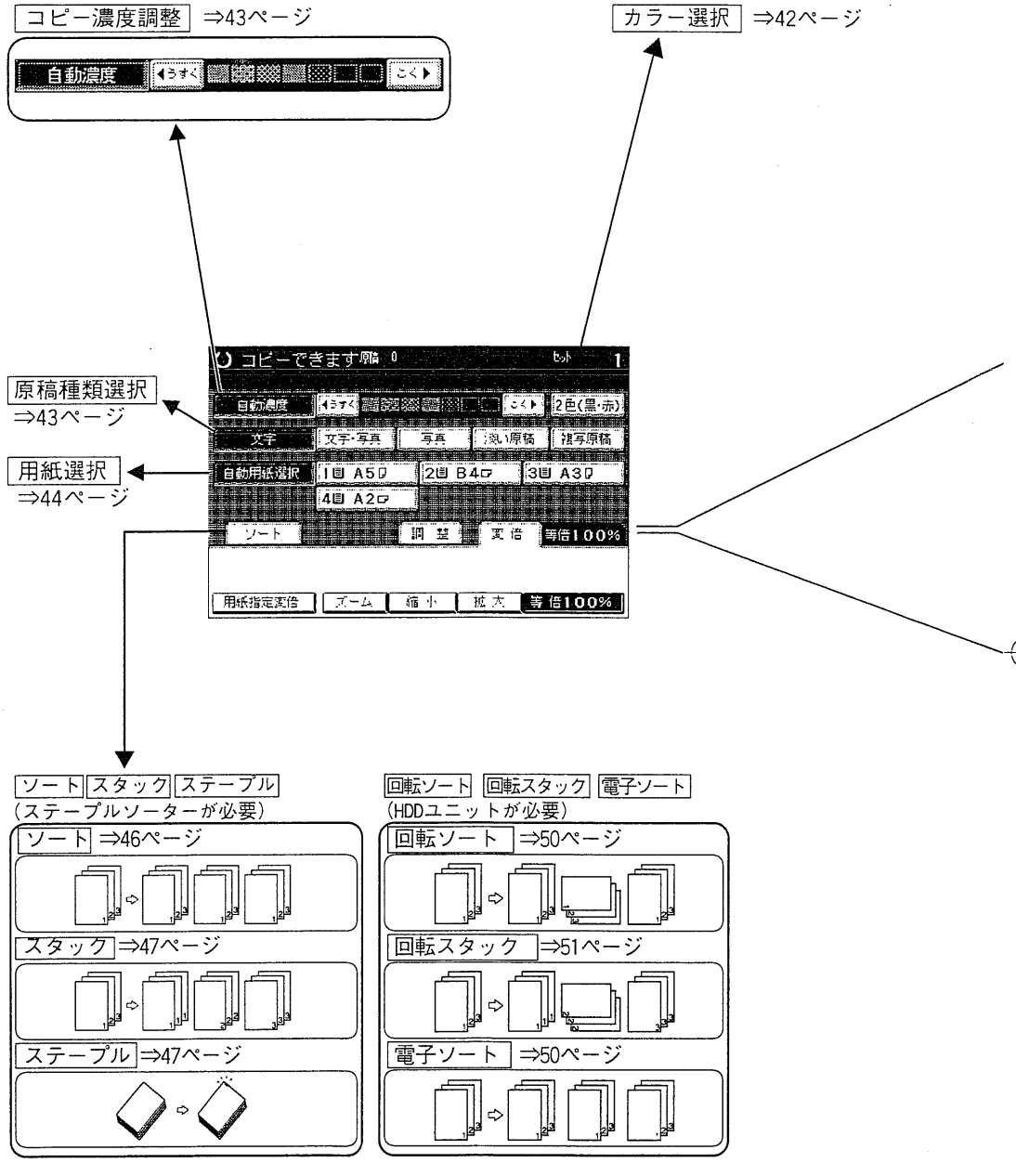
集約 ⇒67ページ
（自動原稿送り装置(RADF)とHDDユニットが必要）

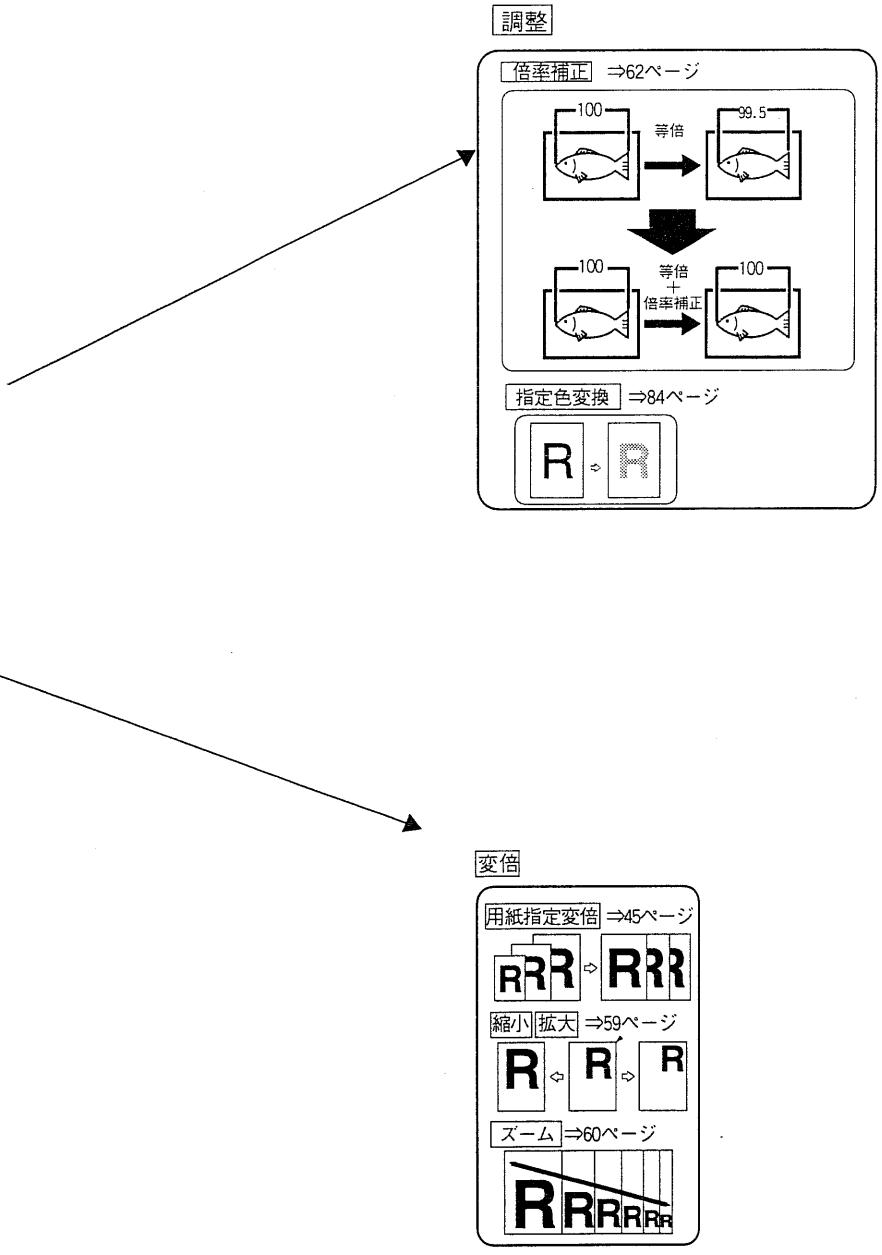


分割 ⇒66ページ

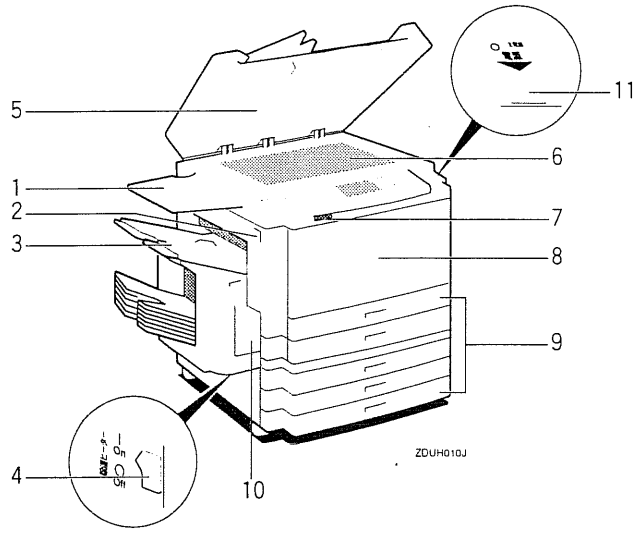


こんなことができます（シンプルメニュー画面）




調整
倍率補正 ⇒62ページ
100
等倍
99.5
100
等倍
＋
倍率補正
100
指定色変換 ⇒84ページ
R
R
変倍
用紙指定変倍 ⇒45ページ
RRR
RRR
縮小
拡大 ⇒59ページ
R
R
R
ズーム ⇒60ページ
RRRRRR

各部の名称とはたらき



1. 原稿置き台

コピーする原稿を置きます。

5kg以上のものを載せないで下さい。

2. 主電源スイッチ

ファクス機能付きのとき、サービス担当者が操作します。ファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されることがありますので、通常は手を触れないでください。

【電源】キーを押しても電源が入らないときは、主電源スイッチが「On」になっているか確認してください。「Off」になっているときは「On」にしてください。

オートオフ時間が経過すると自動的に電源が切れます。

参照

使用説明書＜システム初期設定編＞「オートオフ時間設定」

3. 排紙トレイ

コピーされた用紙がここに排出されます。

4. 除湿ヒータースイッチ

湿度が60%以上のときや、急激な温度変化のあるときは「On」にします。

上記以外のときは「Off」にします。

5. 自動原稿送り装置（RADF）（オプション）

一度にセットした複数枚の原稿を1枚ずつ自動的に送ります。

6. コンタクトガラス *1

左奥のセット基準に合わせて原稿をセットします。

*1 電源スイッチを「Off」にしたあとも結露防止機能がはたらいているため、コンタクトガラス表面が熱いと感じることがありますが異常ではありません。

7. オートレスポンスセンサー

機械の前に人が近づくと自動的に予熱を解除し、コピーができる状態にします。

8. 前カバー

用紙がつまったり、トナーがなくなったりしたときに開けます。

9. 給紙トレイ（トレイ1～5）

用紙をセットします。

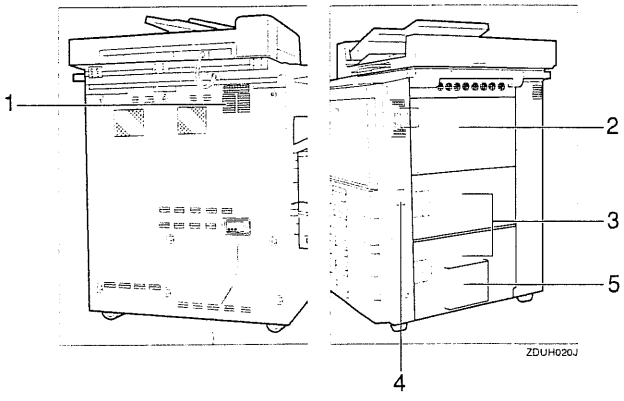
参照

P.101「用紙がなくなったとき」

10. ステープルソーター（オプション）

11. 【電源】キー（オプション）

電源を入れるときはキーを押し、電源のランプを点灯させます。電源を切るときはキーを押し、電源のランプを消灯させます。



1. 通気口

機械内部の温度上昇を防ぐものです。

物を置いたり、立て掛けたりして通気口をふさがないでください。機械内部の温度が上昇すると、故障の原因になります。

2. 手差しトレイ

規格サイズ以外の用紙のほかに、はがき、OHP フィルムなどにコピーするときはこのトレイにセットします。

参照

P.53「手差しコピー」

3. 右サイドカバー

用紙がつまったときに開けます。

4. キーカウンターセット口

キーカウンター（オプション）をセットします。

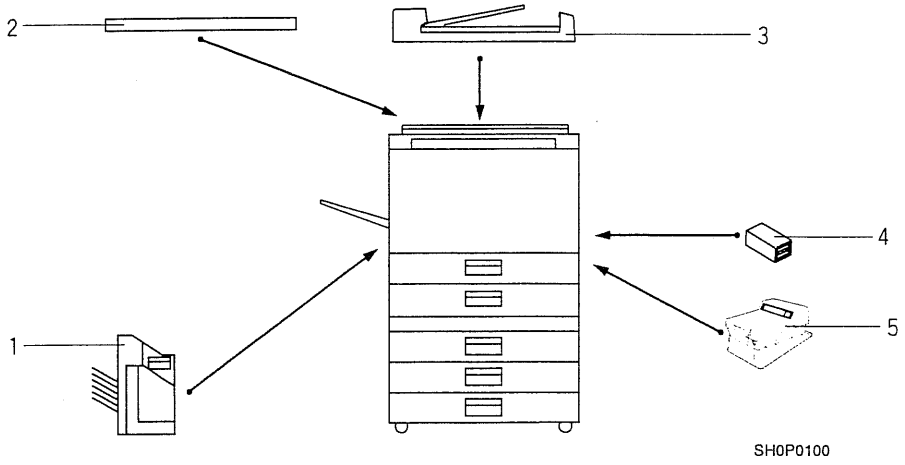
参照

P.111「キーカード／キーカウンターのセット」

5. 使用説明書入れ

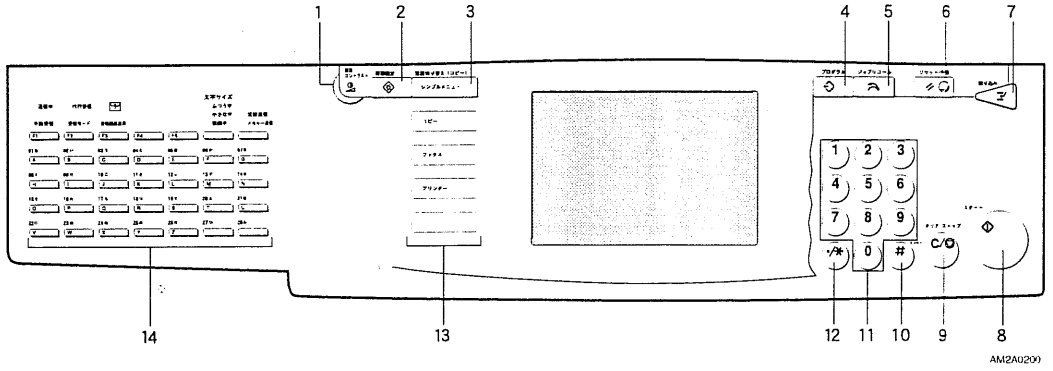
使用説明書をここに入れて保管してください。

おもなオプションの名称とはたらき（外部オプション）



1. ステープルソーター AS-AC10（10ビン）⇒ P.20
   10部までのコピーを自動的に仕分けたり、ステープルでとじたりします。
2. 圧板
3. 自動原稿送り装置（RADF）⇒ P.16
   一度にセットした複数枚の原稿を1枚ずつ自動的に送ります。
4. キーカウンター
5. キーカード

操作部各部の名称とはたらき



1. 輝度調整つまみ
画面の明るさを調整します。

2. 【初期設定】キー
使用条件に合わせて、初期設定値や操作条件を変更します。⇒P.113「初期設定」

3. 【画面切り替え】キー
よく使われる機能メニューを簡単に選択できる画面に切り替えます。もう一度押すと、通常のコピー画面に切り替わります。

4. 【プログラム】キー
よく使う設定を登録したり、呼び出したりします。⇒P.56「プログラム」

5. 【ジョブリコール】キー
オートクリアされる前のコピーの設定を呼び出します。⇒P.58「ジョブリコール」

6. 【リセット／予熱】キー
リセット...設定した内容を取り消し、電源を入れたときの画面に戻ります。
予熱...約2秒以上押し続けると予熱になります。 ⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「本機の省電力機能について」

7. 【割り込み】キー
コピー中に割り込んでコピーをします。
⇒P.58「割り込みコピー」

8. 【スタート】キー
コピーを開始します。

9. 【クリア／ストップ】キー
クリア...セット枚数などを取り消します。
ストップ...コピーを停止／中止します。

10. エンター
数値や指定を確定します。

11. テンキー
コピー枚数や倍率などの数字を入力します。

12. 【•/*】キー
不定形原稿を指定するときに使用します。

13. 機能キー
(FAXユニットまたはプリンターユニットが必要)
「コピー」「ファクス」「プリンター」の各機能を切り替えます。

14. ファクス操作部
(FAXユニットが必要)
⇒使用説明書＜ファクス機能編＞

おもなオプション別機能一覧

おもなオプションごとに使用できる機能が一部異なります。一部の機能はオプションが必要です。次の表を参照してください。

機能名	機種名		原稿セット先		オプション	
	KM-3510w	シンプルメニュー画面	コンタクトガラス	自動原稿送り装置	ステープルソーター	HDDユニット
SADF	—	—	×	○	—	—
原稿サイズ混載	—	—	×	○	—	—
カラー選択	○	○ *1	○	○	—	—
コピー濃度調整	○	○	○	○	—	—
地肌除去	○	×	○	○	—	—
原稿種類選択	○	○ *2	○	○	—	—
用紙選択	○	○	○	○	—	—
等倍100%	○	○	○	○	—	—
用紙指定変倍	○	○	○	○	—	—
ソート/スタック/ステープル	○	○	○ *3	○	○	—
回転ソート/回転スタック/電子ソート	— *4	×	○	○	—	○
手差しコピー	○	○	○	○	—	—
プログラム	○	×	○	○	—	—
定形変倍	○	○ *5	○	○	—	—
ズーム	○	○	○	○	—	—
寸法変倍	○	×	○	○	—	—
倍率補正	○	○	○	○	—	—
独立変倍%	○	×	○	○	—	—
独立変倍mm	○	×	○	○	—	—
分割／見開き→片面	○	×	○	○	—	—
／両面→片面	○	×	○	○	—	—
集約	—	×	○	○	—	○
機密管理ナンバリング	○	×	○	○	—	—
スタンプ印字	○	×	○	○	—	—
ユーザースタンプ印字	—	×	○	○	—	○
日付印字	○	×	○	○	—	—
ページ印字	○	×	○	○	—	—
センター／枠消去	○	×	○	○	—	—
ダブルコピー	○	×	○	○	—	—

機能名	機種名		原稿セット先		オプション	
	KM-3510w	シンプルメニュー画面	コンタクトガラス	自動原稿送り装置	ステープルソーター	HDDユニット
指定色消去	○	×	○	○	−	−
指定色変換	○	○	○	○	−	−
リピート	−	×	○	○	−	○
とじ代	○	×	○	○	−	−
センタリング／コーナリング	○	×	○	○	−	−
反転（白黒反転）	○	×	○	○	−	−
ミラー	○	×	○	○	−	−
合成（通常合成）*6	○	×	○	○	−	−
合成（フォーマット合成）	−	×	○	○	−	○

*1 シンプルメニュー画面では、［赤］は表示されません。（2色印字のみ可能です。）
*2 シンプルメニュー画面では、［文字（線画）］は表示されません。
*3 ステープルはできません。
*4 回転ソート、回転スタックは、同じサイズの用紙を□□2段にセットします。
*5 シンプルメニュー画面では、ユーザー変倍率は選択できません。
*6 HDDユニットがないときは、A3サイズより大きい原稿の合成はできません。

SHC2copy-E-FM.book 23 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

1. コピーを始める前に

原稿について

セットできる原稿のサイズと紙厚

原稿			原稿紙厚	セットできる枚数 *1
コンタクトガラス	A2（420×594mm） 17×22（ANSI C）（432×559mm）まで		―	1枚
自動原稿送り装置（RADF）	片面原稿時	A2▭、B3▭	50～128g/m²（43～110kg）	15枚
		A3▯▭、B4▯▭		30枚
		A4▯▭、B5▯▭、A5▯▭、B6▭		50枚
	両面原稿時	A3▯▭、B4▯▭	50～110g/m²（43～95kg）	30枚
		A4▯▭、B5▯▭、A5▭、B6▭		50枚

*1 セットできる枚数は『京セラミタDC用紙』（普通上質紙）のときの枚数を記載しており、目安を表しています。

補足

❒ SADFモード時の原稿紙厚は、35～160g/m²（30～138kg）です。

自動原稿送り装置（RADF）にセットできない原稿

次のような原稿は自動原稿送り装置（RADF）にセットすると紙づまり、原稿破損の原因となります。コンタクトガラスにセットしてください。

- 上記の表のサイズ以外の原稿
- ステープルの針やクリップのついた原稿
- 穴、破れのある原稿
- そり、折れ、しわのある原稿
- はり合わせた原稿
- 感熱紙、アート紙、銀紙、カーボン紙、導電性の用紙などのように表面が加工された用紙
- インデックスや付せんなど、はみ出た部分のある原稿
- 登記書などに使われるような薄くてやわらかい原稿
- 官製はがきのように厚さが適当でない原稿⇒ P.23「セットできる原稿のサイズと紙厚」
- 本などのように綴じてある原稿
- OHPフィルムなどのように透明度の高い原稿
- ハクリ紙
- 濡れた原稿
- カールした原稿
- 写真
- フィルム

補足

- トレーシングペーパー（第二原図用紙）、青焼原稿、更紙、縁取り紙、画像比率の高いコピー原稿を自動原稿送り装置（RADF）にセットするときは、SADFモードを使用し、原稿は1枚ずつセットしてください。

サイズを読み取りにくい原稿

次のような原稿はサイズを読み取りにくいため、自動用紙選択を設定しても正しいサイズの用紙が選択されないことがあります。手動で用紙を選択してください

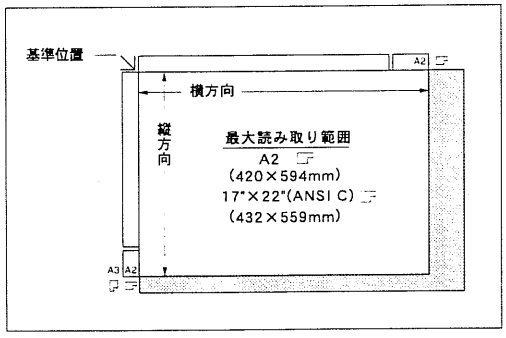
- 付せんやインデックスなど、はみ出た部分のある原稿
- OHPフィルムやトレーシングペーパー（第二原図用紙）などのように透明度の高い原稿
- 文字や絵柄部などが多く、全体に黒っぽい原稿
- 部分的にベタ部がある原稿
- 周囲にベタ部がある原稿
- 海外で使われているサイズの原稿
- 次の表で○がついているサイズ以外の原稿

自動的に読み取れる原稿サイズ

国内で使われているサイズ

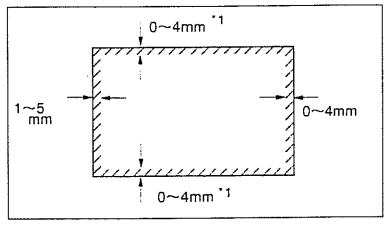
原稿サイズ / 原稿セット先	A2	B3	A3	B4	A4	B5	A5	A5	B6
ｺﾝﾀｸﾄｶﾞﾗｽ	○	○	○	○	○	○	○	×	×
RADF	○	○	○	○	○	○	○	○	○

原稿サイズと読み取り範囲



コンタクトガラス面

下の図のように、原稿の周囲にはコピーされない部分があります。



*1 A3□未満：上下合わせて4mm以下
A3□以上：上下合わせて6mm以下

←原稿送り方向

用紙について

セットできる用紙サイズ、種類

- 用紙はできるだけ当社製品をお使いください。
  用紙の厚さが適当であれば市販されているものを使うことができます。『京セラミタDC用紙』程度のものが最適です ⇒P.141「消耗品」
- OHPフィルム、ハクリ紙、トレーシングペーパー（第二原図用紙）などの特殊な用紙は、できるだけ当社製品をお使いください。指定以外の用紙（特に縁取り紙など）をお使いのときには、正常な動作および品質の保証ができません ⇒P.141「消耗品」
- はがきは市販の官製はがきが手差しトレイにセットできます。ただし、往復はがきは折り目のないものに限ります。
- 各トレイにセットできる用紙サイズと枚数、種類は次のとおりです。

トレイの種類	セットできる種類	セットできる用紙サイズ	セットできる枚数*1
給紙トレイ1～2*2	普通上質紙 52～105g/m² (45～90kg) の用紙	A3□ B4□ A4□ □ B5□ □ A5□ 11×17 (DLT)□ 8½×14(LG)□ 8½×11(LT)□ □ 8½×5½(HLT)□	500枚
	トレーシングペーパー（第2原図用紙）	A3□ B4□ A4□ □ B5□ □	100枚
給紙トレイ3～4*3	普通上質紙 52～105g/m² (45～90kg) の用紙	A2□ B3□ A3□ □ B4□ □ A4□ □ B5□ □ 17×22(ANSI C)□ 11×17(DLT)□ □ 8½×11(LT)□ □	250枚
	トレーシングペーパー（第2原図用紙）	A2□ B3□ A3□ □ B4□ □ A4□ □ B5□ □	100枚
給紙トレイ5*3	普通上質紙 52～105g/m² (45～90kg) の用紙	A2□ B3□ A3□ 17×22(ANSI C)□	250枚
	トレーシングペーパー（第2原図用紙）	A2□ B3□ A3□	100枚

*1 セットできる枚数は『京セラミタDC用紙』（普通上質紙）のときの枚数を記載しており、目安を表しています。

*2 8½×11(LT)□、8½×5½□を設定するときは用紙サイズの設定が必要です。⇒P.53「手差しコピー」 ただし自動用紙選択、用紙指定変倍ができないなど、使用できる機能に一部制限があります。

*3 トレイ3～5の用紙サイズを変更するときは、弊社製品取り扱い店にお問い合わせください。

トレイの種類	セットできる種類	セットできる用紙サイズ	セットできる枚数 *1
手差しトレイ *2	普通上質紙 52～105 g/m² （45～90 k g）の用紙	A2□B3□A3□□B4□□A4□□B5□□A5□□B6□□A6□ 17×22(ANSI C)□ 11×17(DLT)□ 8½×14(LG)□ 8½×11(LT)□□ 8½×5½(HLT)□□ 上記サイズ以外（縦100～432mm、横148～594mm）の用紙	50枚
	厚紙 106～157 g/m² （91～135 k g）の用紙		*1
	トレーシングペーパー（第二原図用紙）フィルム 更紙 *3		*1
	OHPフィルム 振込票 郵便はがき□ 往復はがき□□（折り目のないもの）	A4□□ 210×170mm 100×148mm 200×148mm *2 148×200mm *2	*1
	ハクリ紙	A2□A3□ B4□A4□□	1枚

*1 セットできる枚数は『京セラミタDC用紙』（普通上質紙）のときの枚数を記載しており、目安を表しています。

*1 用紙の量が上限表示（▼▼）を超えないようにしてください。紙厚や用紙の状態によりセットできる枚数は異なります。

*2 A6□、振込票、往復はがきと11x17(DLT)□以外の海外で使われているサイズの用紙、また縦100～432mm 横148～594mmの規格外の紙を手差しトレイにセットするときは、用紙サイズの設定が必要です。⇒ P.53「手差しコピー」

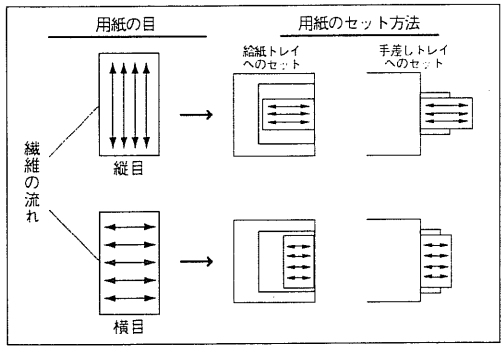
*3 更紙は用紙の送り方向と同じ目送りとなるようにセットしてください。

補足

- Ａ２□のトレーシングペーパー（第二原図用紙）を給紙トレイにセットするときは、なるべく最下段の給紙トレイを使用してください。
- 給紙トレイにセットする用紙の種類を表示させることができます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「特殊紙表示設定」。
- 各トレイにセットした用紙の種類を選択しておくと、「倍率補正」で設定した補正倍率がその用紙に対して有効となります。⇒ P.62「倍率補正」
- 同じサイズ、同じ方向の用紙が複数セットされていると、コピー中に用紙がなくなったとき自動的に他の給紙トレイから続けて給紙されるよう設定されています。（ただし「特殊紙表示設定」で再生紙や特殊紙を設定したトレイは同じ設定をしたときのみ。）大量にコピーするときでも、用紙補給でコピーが中断されずにすみます。この設定を解除することもできます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「リミットレス給紙」「特殊紙表示設定」。

トレーシングペーパー（第二原図用紙）のセット

- カールしている用紙は直してからセットしてください。
- トレーシングペーパー（第二原図用紙）をセットするときは次の図のように、なるべく縦目（T目）にセットしてください。



縁取り紙について

本機で縁取り紙にコピーしたときの画像については保証できません。縁取り紙にコピーするときには次のような方法でコピーしてください。

- 手差しコピーでコピーしてください。
- 用紙厚レバーを「薄紙」に合わせてください。
- 用紙ガイド板を用紙サイズに合わせ、用紙はまっすぐにセットしてください。
- セットできる枚数は１枚です。
- コピーは１枚ずつ排紙トレイから取り除き、平らなところに置いてください。
- 開封した用紙は、湿気を吸わないようにポリ袋に入れてください。

補足

❒ 縁取り紙にコピーすると縁取り部分の厚さのため、白抜けやコピーのかすれが生じることがあります。裏面にコピーすると防げる場合があります。

使用できない用紙

> ⚠ 注意
> ステープラーの針がついたままの用紙の再利用や銀紙、カーボン含有紙等の導電性の用紙は使用しないでください。火災の原因になります。

重要

- 次の用紙はセットしないでください。用紙がつまってしまいます。
  - そり、折れ、しわのある用紙
  - 穴が空いている用紙
  - ツルツルすべる用紙
  - 破れのある用紙
  - すべりにくい用紙
  - 薄くてやわらかい用紙

補足

- 目の粗い用紙にコピーすると、かすれることがあります。
- 用紙がカールしていると、コピーがきれいにとれないことがあります。
- 感熱紙、アート紙、銀紙、カーボン紙、導電性の用紙などのように表面が加工された用紙は使用しないでください。故障の原因になります。
- 一度コピーされた用紙は再使用しないでください。

用紙の保管

- 用紙の保管には、次の注意を守ってください。
  - 直射日光の当たらないところに置いてください。
  - 湿度70%以下のところに置いてください。
  - 平らなところに置いてください。
- 一度開封した用紙は、湿気を吸わないようにポリ袋に入れてください。
- 長期間使わないときは、給紙トレイから用紙を取り出し、ポリ袋に入れて保管してください。給紙トレイ内に用紙を残しておくと吸湿して紙づまりやコピー不良の原因になります。

重要

- 湿気を吸ったそりのある用紙を使うと、ステープラーの針がつまったり、紙づまりを起こすことがあります。このときは用紙を裏返してセットしてください。

用紙の取り扱い

設置場所の湿度によって、用紙は次のように取り扱ってください。

%	コピーの状態	処置
低湿→	トレーシングペーパー（第二原図用紙）、普通紙共に白抜け、重送しわなどが起きます。	・設置環境の整備（空調設備、加湿器の設置）をしてください。 ・コピー後、すぐに用紙を本機から外し、ポリ袋に入れて保管してください。
	トレーシングペーパー（第二原図用紙）に白抜けが起きます。	・機械の使用間隔が１時間以上のときは、トレーシングペーパー（第二原図用紙）を本機から外し、ポリ袋に入れて保管してください。
40 （目安） 70		・１日のコピー終了後は、用紙はポリ袋に入れて保管してください。
	トレーシングペーパー（第二原図用紙）、普通紙共に白抜けが起きます。	・機械の使用間隔が１時間以上のときは、用紙を本機から外し、ポリ袋に入れて保管してください。
←高湿	トレーシングペーパー（第二原図用紙）、普通紙共に白抜け、重送しわなどが起きます。	・設置環境の整備（空調設備、除湿器の設置）をしてください。 ・コピー後、すぐに用紙を本機から外し、ポリ袋に入れて保管してください。

フィルム、OHPフィルムにコピーするとき

1枚ずつ排紙トレイから取り除き、平らなところに置いてください。

除湿ヒーターについて

本機の給紙トレイには除湿ヒーターがついています。湿度が60%以上のときや、急激な温度変化のあるときに「On」にしてください。

重要

❒ 上記以外のときは「Off」にしてください。⇒ P.16「各部の名称とはたらき」

用紙の補給

参照

用紙がなくなったとき⇒ P.101「用紙がなくなったとき」
用紙サイズの変更⇒ P.33「用紙サイズの変更」

SHC2copy-F_FM.book 31 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

トナーについて

トナーの取り扱いについて

> ⚠ 注意
> トナーまたはトナーの入った容器を火中に投じないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。

> ⚠ 注意
> トナー（使用済みトナーを含む）または、トナーの入った容器は、子供の手に触れないようにしてください。

トナーの種類

- トナーは弊社指定の製品により、安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、黒トナーは弊社指定の『ブラックトナーBK-60』、赤トナーは『レッドトナーRD-10』をご使用ください。

重要

❒ 違うタイプのトナーを使うと、故障の原因になります。

トナーの保管

トナーの保管には、次の注意を守ってください。

- 直射日光の当たらない、低温で乾燥したところに置いてください。
- 平らなところに置いてください。

トナー補給のしかた

参照

⇒P.103「トナーがなくなったとき」

使用済みトナーの取り扱い

- 廃トナーボトル内の使用済みトナーは、サービス担当者が回収します。
- 使用済みトナーは再使用できません。

SHC2copy-F_FM.book 33 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

用紙サイズの変更

重要

- サイズ表示と初期設定値の変更を正しく行ってください。用紙がつまることがあります。

参照

セットできる用紙サイズ、種類は P.26「用紙について」を参照してください。

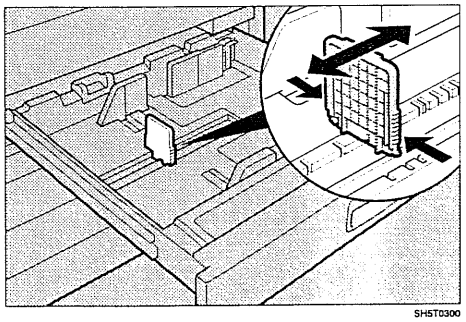
トレイ1、2の用紙サイズを変更する

1 給紙トレイの用紙がコピー中でないことを確認し、給紙トレイをいっぱいに引き出します。

補足

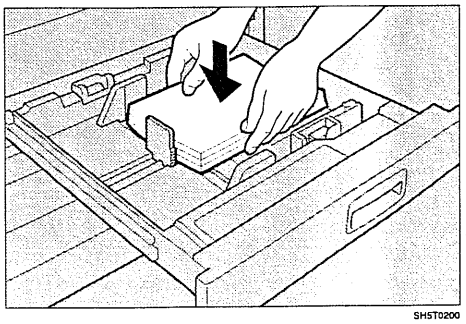
- 用紙が残っているときは、取り出します。

2 エンドフェンスをセットする用紙サイズに合わせます。



SH5T0300

3 用紙をそろえてセットします。



SH5T0200

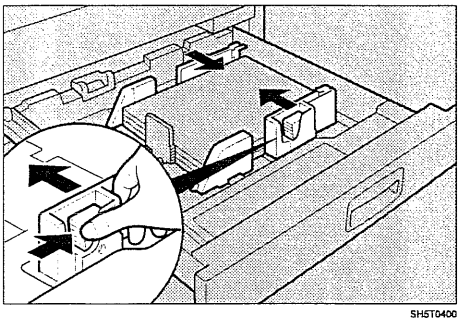
重要

- 用紙の量が上限表示（▼▼）を超えないようにしてください。

補足

- 用紙は、パラパラとほぐしてからセットしてください。
- カールしている用紙、そりのある用紙は直してからセットしてください。

4 解除レバーを押さえながらサイドフェンスをセットする用紙サイズに合わせます。

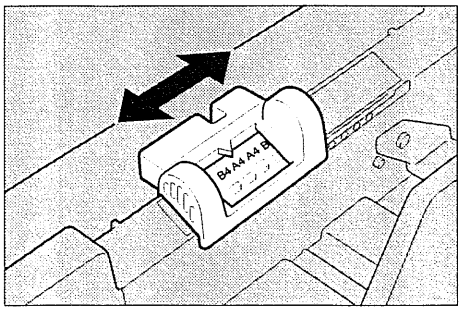


SH5T0400

5 サイズ表示を合わせます。

A3□B4□A4▯□B5▯□A5▯DLT□LT▯□のとき

❶ トレイのサイズ表示を用紙サイズに合わせます。



特殊用紙サイズ（LG□HLT▯）のとき

❶ トレイのサイズ表示を「＊」に合わせます。

❷【初期設定】キーを押します。

❸［システム初期設定］を押します。

❹「▶トレイ1特殊用紙サイズ設定」または「▶トレイ2殊用紙サイズ設定」の画面が表示されるまで[次ページ]を押します。

❺［変更］を押し、［8½×14□］または［8½×5½□］を選択します。

❻［設定］を押します。

❼【初期設定】キーを押します。

初期設定の変更が終了します。

6 給紙トレイを元に戻します。

補足

❒ セットした用紙サイズと方向が表示されます。

❒ 特殊紙サイズの用紙をセットすると「*8½×5½」「*8½×14」が表示されます。

❖ こんなこともできます

- 再生紙やトレーシングペーパー（第二原図用紙）のように特殊な用紙を給紙トレイにセットしたときに、用紙の種類を表示させることができます。
  ⇒ 使用説明書＜システム初期設定編＞「特殊紙表示設定」。

トレイ3～5の用紙サイズを変更する

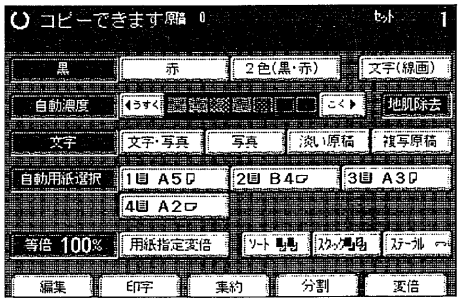
補足

❒ トレイ3～5の給紙トレイのフェンスは固定です。用紙サイズを変更する場合は、弊社製品取り扱い店にお問い合わせください。

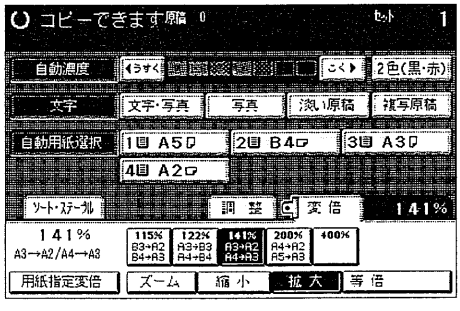
2. コピーする

基本的なコピーのとりかた

1 “コピーできます”が画面に表示されていることを確認します。



シンプルメニュー画面では次のような表示になります。



補足

❒ 編集、印字、集約機能などを設定するときは【画面切り替え】キーを押して標準操作画面に切り替えてください。

参照

画面の操作方法はP.8「画面について」を参照してください。

ユーザーコードが設定されているとき

❶ テンキーでユーザーコード（6桁以下）を入力し、【#】キーを押します。

コピーできる状態になります。

参照

使用説明書＜システム初期設定編＞「ユーザーコード設定」

2 以前の設定が残っていないか確認します。残っているときは【リセット／予熱】キーを押します。

3 原稿をセットします。

参照

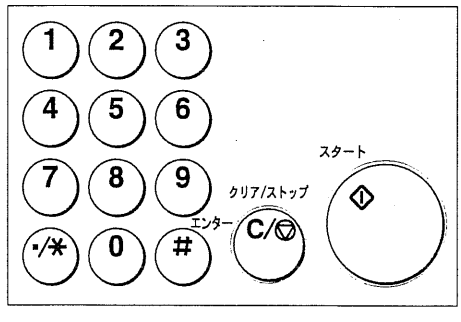
P.38「原稿のセット」

4 機能の設定をします。

参照

各機能を参照してください。

5 テンキーでコピーする枚数を入力します。



制限

❒ 入力できるコピー枚数は、999枚までです。

補足

❒ 間違えたときは【クリア／ストップ】キーを押し、指定し直します。

6 【スタート】キーを押します。

原稿を読み取り、コピーが始まります。

補足

- コピーを中止するときは【クリア／ストップ】キーを押します
- A2□、B3□の用紙にコピーするときは、排紙トレイの延長部を引き出してください。
- 排紙トレイに重ねられる枚数は次のとおりです。
  - A2□B3□17×22（ANSI C）□:20枚
  - A3□□11×17（DLT）□□:100枚
  - B4以下:250枚
    ただしトレーシングペーパー（第二原図用紙）、フィルムのA2□は1枚ずつ排紙トレイから取り除いてください。
- 連続してコピーすると、定着不良を防ぐためにコピースピードが少し遅くなることがあります。
- 用紙が完全に排出される前に引き抜くと、紙づまりの原因になります。完全に排出されるまでお待ちください。

❖ こんなこともできます

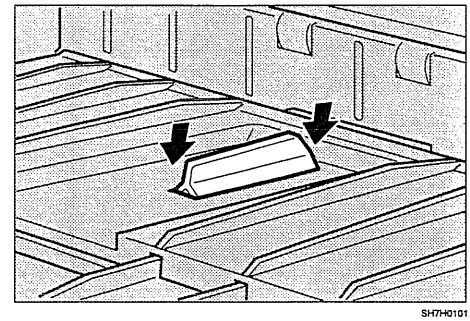
- ブザー音を消すことができます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「ブザー音」
- コピーのセット枚数の上限を1～999枚の範囲内で変更できます。⇒P.119「コピーセット枚数制限設定」
- コピー操作後、一定時間何も操作しないと電源を入れた状態（初期画面・標準操作画面）に戻ります。これを「オートクリア」といいます。また、この状態で、一定時間何も操作しないと予熱状態になります。これを「システムオートクリア」といいます。
  - オートクリアされるまでの時間を変更する⇒P.119「コピー・オートクリア時間設定」
  - 予熱状態になるまでの時間を変更する ⇒ 使用説明書＜システム初期設定編＞「システム・オートクリア時間設定」

コピートレイガイドの切り替え

コピートレイガイドを使用すれば、薄紙やトレーシングペーパー（第二原図用紙）にコピーするとき、排紙トレイにスタックされるコピーのスタック性が向上します。

普通紙、厚紙をスタックするとき

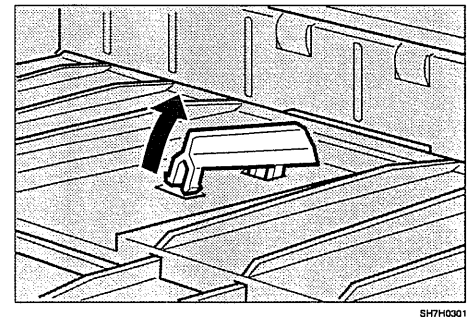
① 小ガイド、大ガイドともに排紙トレイ内に収めます。



SH7H0101

普通紙がスタックしづらいとき／薄紙をスタックするとき

① 小ガイドのみを引き上げます。

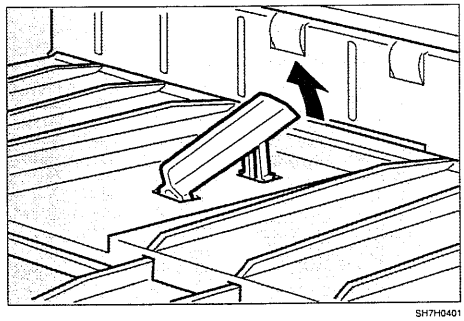


SH7H0301

トレーシングペーパー等をスタックするとき

トレーシングペーパー（第二原図用紙）、フィルム、縁取り紙、OHPフィルムをスタックするときは、次のように切り替えてください。

① 大ガイドのみ引き上げます

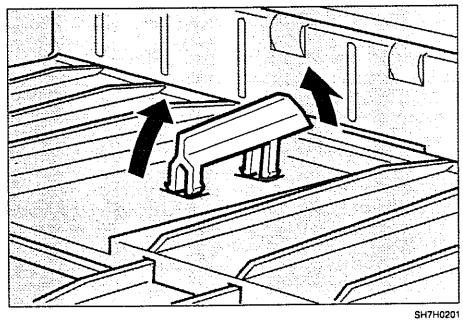


SH7H0401

トレーシングペーパー等が中折れによりスタックしづらいとき

トレーシングペーパー（第二原図用紙）、フィルム、縁取り紙、OHPフィルムが中折れによりスタックしづらいときは、次のように切り替えてください。

① 小ガイド、大ガイドともに引き上げます



SH7H0201

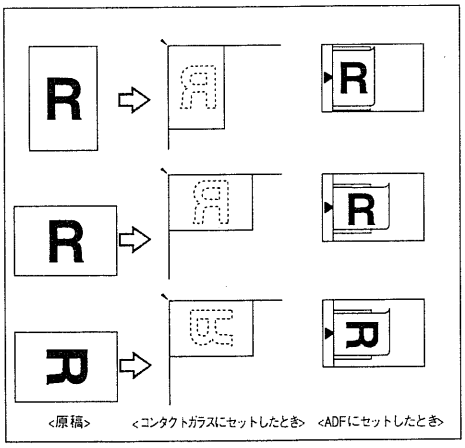
⚠ 注意

夜間等で長時間本製品をご使用にならない場合は、電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切ってください。また連休等で長期間、本製品を使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

原稿のセット

参照
原稿についての諸注意はP.23 「原稿について」を参照してください。

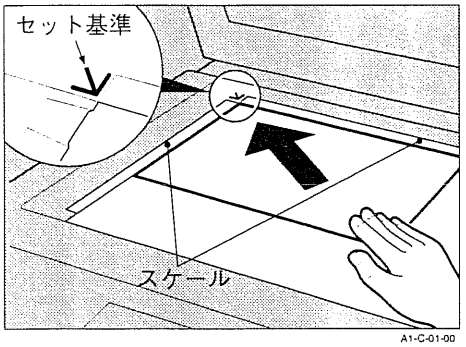
補足
- 原稿のセットは電源スイッチを「On」にしてから行ってください。「Off」のときにセットすると、原稿サイズなどが正しく読み取れないことがあります。
- コンタクトガラスは左奥のセット基準に、自動原稿送り装置（RADF）は左中央のセット基準に合わせます。ただし、原稿のセット方向によってコピー結果が異なる機能もあります。各機能の説明を参照してください。



- 修正液やインクは完全に乾いてからセットしてください。乾かないまま原稿をセットするとコンタクトガラスが汚れ、その汚れがコピーされてしまいます。

コンタクトガラスへの原稿のセット

1 圧板／自動原稿送り装置（RADF）を上げます。コピーしたい面を下にし、左奥のセット基準に原稿を合わせます。



補足
- スケールにある〔F〕の表示は、海外で使われている用紙のサイズです。
- スケールにある📖の表示は、見開き位置を示しています。

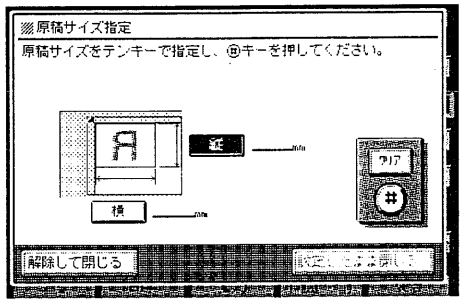
2 圧板／自動原稿送り装置（RADF）を閉めます。

⚠ 注意
自動原稿送り装置（RADF）を開いた状態のままで放置しないでください。けがの原因となることがあります。

不定型サイズの原稿をセットするとき

❶ 【•/*】キーを押します。

❷［横］または［縦］を押します。



❸ テンキーで横の長さと縦の長さを入力し、[#] を押します。

補足

❒ 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは[クリア]を押して入力し直します。

❹【スタート】キーを押します。

自動原稿送り装置（RADF）（オプション）への原稿のセット

補足

❒ 用紙の量が上限表示（▼▼）を超えないようにしてください。

❒ トレーシングペーパー（第二原図用紙）や薄紙原稿をコピーするときは重送（複数枚の原稿が重なったまま一度に送られること）による原稿破損を防ぐため、SADFモードを使用し、原稿は1枚ずつセットしてください。

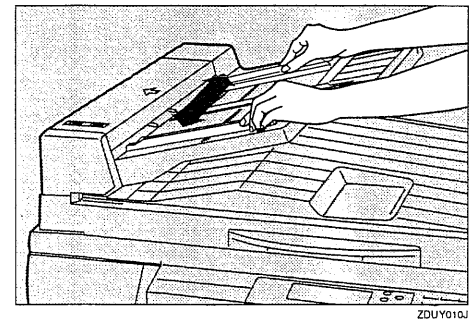
❒ こするとかすれやすい原稿（鉛筆などで書かれた原稿）をセットすると、原稿が汚れることがあります。

❒ 折れた原稿、ゆがんだ原稿、トレーシングペーパー（第二原図用紙）や薄紙原稿をセットすると、直線が曲がってコピーされることがあります。

参照

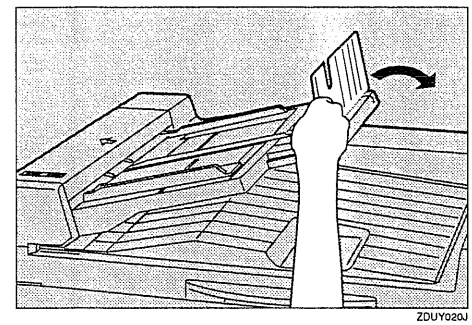
セットできる原稿サイズや枚数などは P.23「セットできる原稿のサイズと紙厚」を参照してください。

1 原稿ガイドを原稿サイズに合わせます。

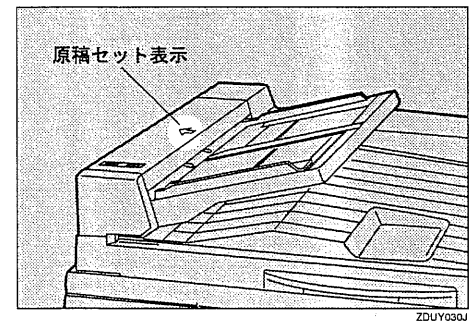

ZDUY010J

補足

❒ 原稿サイズがB3□以上の時は、必ず原稿補助テーブルを開いてください。


ZDUY020J

❒ 原稿セット表示が点灯しているとき、原稿をセットできます。原稿をセットすると消灯します。

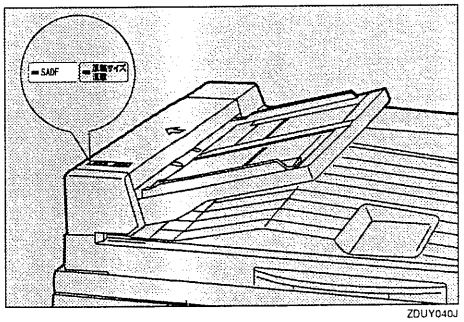


ZDUY030J

2

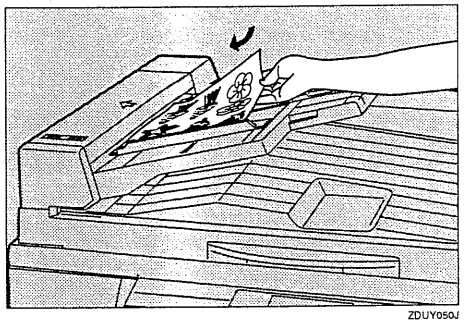
1枚ずつ原稿をセットするとき

❶【SADF】キーを押します。



ZDUY040J

❷ コピーしたい面を上にし、原稿を自動原稿送り装置（RADF）にセットします。



ZDUY050J

補足

❒ 原稿の斜め送りを防ぐため、原稿ガイドを原稿に合わせてください。

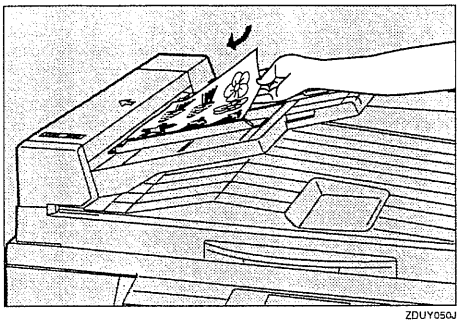
❒ SADFマニュアル選択を「しない」に設定しているときは、**【SADF】**キーは押せません。原稿をセットし機能、枚数を入力して**【スタート】**キーを押します。2枚目の原稿からSADF表示が点灯しSADFモードが有効です。

❖ こんなこともできます

- 常にSADFモード選択の状態にすることもできます。⇒ P.129「SADFマニュアル選択」

2枚以上の原稿をセットするとき

❶ コピーしたい面を上にし、原稿をそろえて自動原稿送り装置（RADF）にセットします。



ZDUY050J

補足

❒ 原稿の斜め送りを防ぐため、原稿ガイドを原稿に合わせてください。

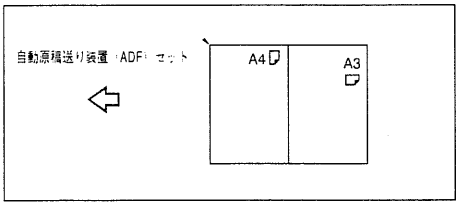
❷【スタート】キーを押します。

異なるサイズの2枚以上の原稿をセットするとき

A3□とA4□など、原稿幅が同じ原稿を同時にセットしたときに、原稿サイズを自動的に読み取ってコピーします。

補足

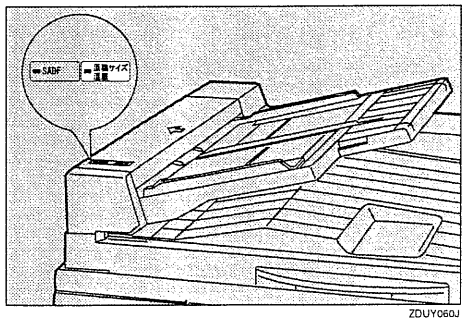
❒ コピースピードは多少遅くなります。



❶【自動用紙選択】キーを押して、【自動用紙選択】を選択してください。

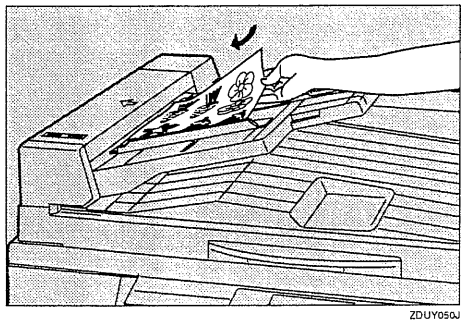
SHC2copy-F_FM.book 41 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

❷【原稿サイズ混載】キーを押します。



ZDUY060J

❸ コピーしたい面を上にし、原稿をそろえて自動原稿送り装置(RADF)にセットします。



ZDUY050J

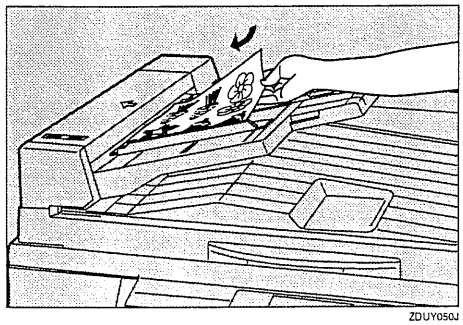
補足

❒ 原稿の斜め送りを防ぐため、原稿ガイドを原稿に合わせてください。

❹【スタート】キーを押します。

不定型サイズの原稿をセットするとき

❶ コピーしたい面を上にし、原稿をそろえて自動原稿送り装置(RADF)にセットします。



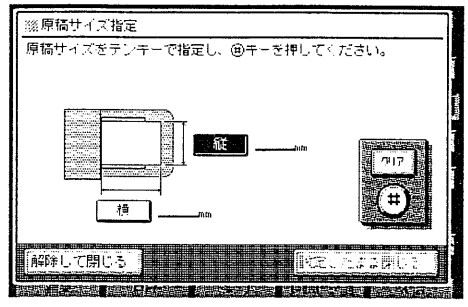
ZDUY050J

補足

❒ 原稿の斜め送りを防ぐため、原稿ガイドを原稿に合わせてください。

❷【⊙/*】キーを押します。

❸［横］または［縦］を押します。



❹ テンキーで横の長さと縦の長さを入力し、[#] を押します。

補足

❒ 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは[クリア]を押して入力し直します。

❺【スタート】キーを押します。

基本機能について

基本機能と設定内容について説明します。

操作の前に

基本機能は、以下のとおりです。

- カラー選択
  ...黒、赤、2色（黒・赤）
- コピー濃度調整
  ...自動濃度、濃度調整、地肌除去
- 原稿種類選択
  ...文字、文字・写真、写真、淡い原稿、複写原稿、文字（線画）
- 用紙選択
  ...自動用紙選択、用紙指定、手差し
- 等倍100%、用紙指定変倍
- ソート／スタック／ステープル（ステープルソーターが必要）
  ...ステープルソーターを使って丁合い、仕分けをする
- 回転ソート／回転スタック／電子ソート（HDDユニットが必要）
  ... ステープルソーターがなくても同じサイズで の用紙の給紙トレイをセットしておけば、1部ずつ交互に方向を変えてコピーする
  ... 原稿をメモリーに記憶し、1 部ごとにコピーする

❖ こんなこともできます

- 電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、画面には「自動濃度」「文字」「自動用紙選択」が選択（反転表示）されています（初期設定値）。この設定を変えることができます。⇒ P.118 「自動濃度優先」、⇒ P.118 「原稿種類優先設定」、⇒ P.118 「自動用紙選択優先」

カラー選択

原稿の種類やコピーの使用目的に合わせて、コピーする色を選びます。カラーユニットの色は赤色です。

操作の前に

カラー選択には、次の種類があります。

- [黒]
  原稿の色に関係なく、黒1色でコピーします。
- [赤]
  原稿の色に関係なく赤1色でコピーします。
- [2色（黒・赤）]
  原稿の黒い部分を黒で、赤い部分を赤でコピーします。

補足

- 赤1色でコピーするときも、黒トナーのセットが必要です。
- 赤ベタ部の多い原稿を連続してコピーすると赤濃度がうすくコピーされることがあります。
- 黒い部分と赤い部分が多少ずれてコピーされます。
- OHPフィルムにコピーするとき、赤い部分がきれいにコピーされないことがあります。

1 コピーする色を選択します。

補足

- 他の機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。

❖ こんなこともできます

- 赤色の濃度をうすく／こくしたり、赤色・青色を黒色に変えることができます。⇒ P.84 「指定色変換」
- 赤色または青色を消してコピーすることができます。⇒ P.83 「指定色消去」

SHC2copy-F_FM.book 43 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

コピー濃度調整

操作の前に

コピー濃度調整には、次の種類があります。

- [自動濃度]
  適切な濃度でコピーします。
- [濃度調整]
  7段階の濃度が指定できます。
- [地肌除去]
  新聞や再生紙など地肌の濃い原稿の地肌が出ないようにコピーします。

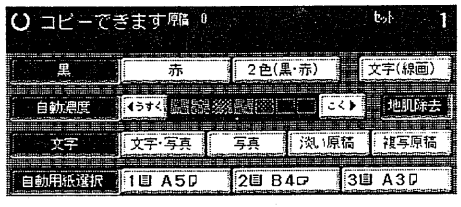
制限

❒ [2色（黒・赤）] 選択時には、[地肌除去] は選択できません。

1 濃度調整の方法を選択します。

自動濃度を選択するとき

❶「自動濃度」が選択されていることを確認します。



補足

❒「自動濃度」が選択されていないときは［自動濃度］を押します。

濃度を調整するとき

❶［自動濃度］を押して、設定を取り消します。

❷［◀うすく］または［こく▶］を押し、濃度を調整します。

濃度表示が移動します。

地肌除去しないとき

❶［地肌除去］を押して、設定を取り消します。

補足

❒ 他の機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。

❒「濃度調整」では、2色（黒・赤）モードのとき 2 色が同等にうすく／こくなります。赤色の濃度のみをうすく／こくすることができます。⇒ P.84「指定色変換」

原稿種類選択

操作の前に

原稿種類選択には、次の種類があります。

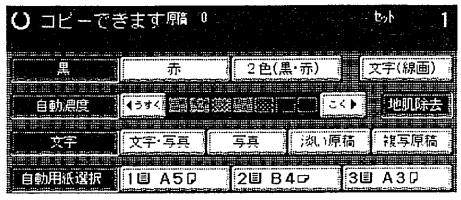
- [文字]
  文字が主体の原稿のときに指定します。
- [文字・写真]
  写真や絵画と文字の混じった原稿のときでも適切な画像でコピーします。特に細かい柄の写真に適しています。
- [写真]
  写真や絵画原稿のときに指定します。
  特に大柄の写真や絵画原稿に適しています。
- [淡い原稿]
  鉛筆書きの原稿や複写伝票の控えなどの濃度の薄い原稿をコピーするとき、とぎれやすい細い線をきれいにコピーします。
- [複写原稿]
  繰り返しコピーした原稿のときに指定します。文字の太りやつぶれを抑えてきれいにコピーします。また、画像上の点状の小さな汚れを除去します。

補足

❒ 点除去のレベルを変えることができます。初期値は点除去を「しない」になっています。⇒ P.119「複写原稿モードの点除去」

- [文字（線画）]
  設計図のような細線の混じった原稿や文字の細かい部分が含まれる原稿のときでも適切な画像でコピーします。

1 原稿の種類を選択します。



補足

- 他の機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。

用紙選択

操作の前に

用紙選択には、次の種類があります。

- [自動用紙選択]
  セットした原稿サイズと倍率に合った用紙を自動的に判断します。

  補足

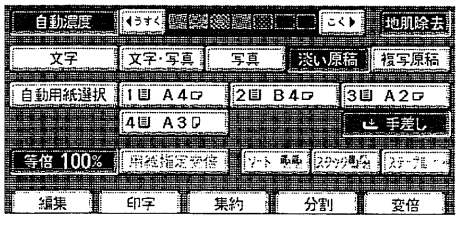
  - セットされている用紙と違う方向に原稿をセットしても、用紙の方向に合わせて画像を90°回転させてコピーします。
    - コンタクトガラスのとき
      ...A3▯▭B4▯▭A4▯▭B5▯▭の原稿
    - 自動原稿送り装置（RADF）（オプション）のとき
      ...A3▯▭B4▯▭A4▯▭B5▯▭A5▯▭の原稿
  - A4、B5サイズの原稿のとき、同じサイズで違う方向の用紙がセットされているとコピースピードの速い方の用紙でコピーされます。（ソート／スタック／ステープルを除く）
- 「用紙指定」
  給紙トレイにセットされた用紙を指定します。
- [手差し]
  OHPフィルム、厚紙、規格サイズ以外の用紙などにコピーするときに、手差しトレイに用紙をセットしてコピーします。⇒ P.53「手差しコピー」

補足

- 自動用紙選択される用紙サイズはA2▭B3▭A3▯▭B4▯▭A4▯▭B5▯▭A5▯▭です（等倍時）。
- 用紙が正しく選択されない原稿があります。P.24「サイズを読み取りにくい原稿」を参照してください。
- 再生紙やトレーシングペーパー（第二原図用紙）のように特殊な用紙を給紙トレイにセットしたときに、用紙の種類を表示させることができます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「特殊紙表示設定」。

用紙を選択するとき

1 用紙を給紙トレイから選択します。



補足

- 他の機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。

等倍100%

原稿をそのままの大きさでコピーします。

1 [等倍 100%] が反転していることを確認します。

補足

- [等倍 100%] が反転していない場合は、[変倍] が設定されています。[変倍] を解除するか、【リセット／予熱】キーを押してください。
- ほかの機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。
- 用紙の種類によっては、原稿とコピーの画像の実測値がわずかに異なることがあります。このようなときに、用紙を指定して倍率を補正することができます。⇒ P.62「倍率補正」

SHC2copy-F_FM.book 45 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

用紙指定変倍

指定した用紙サイズに合わせて自動的に拡大／縮小してコピーします。

操作の前に

拡大／縮小率を選択する手間を省くことができます。

異なる大きさの原稿を同じ大きさの用紙にコピーするとき便利です。

制限

- 手差しコピーはできません。
- セットされている用紙と違う方向に原稿をセットしたとき、用紙の方向に合わせて画像を90°回転させることはできません。用紙と同じ方向の原稿をセットしてください。
- 倍率が正しく選択されない原稿があります。P.24「サイズを読み取りにくい原稿」を参照してください。

補足

- 倍率は40～400%の範囲内で選択されます。

1 [用紙指定変倍] を押します。

2 用紙を給紙トレイから選択します。

補足

- 他の機能を設定しないときは、【スタート】キーを押し、コピーを始めます。

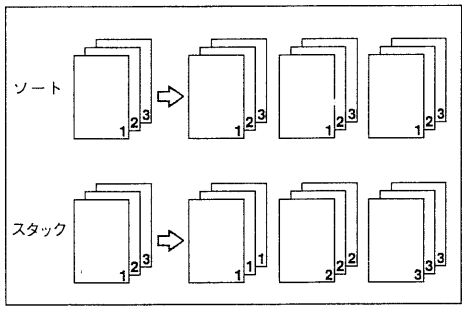
❖ こんなこともできます

- 異なるサイズの原稿を一度に自動原稿送り装置（RADF）にセットすることもできます。P.40「異なるサイズの2枚以上の原稿をセットするとき」を参照してください。

ソート／スタック／ステープル（ステープルソーターが必要）

ソート／スタック（ステープルソーターが必要）

会議の資料など大量のコピーを１部ずつページ順にそろえたり（ソート）、それぞれのページごとにそろえたり（スタック）します。

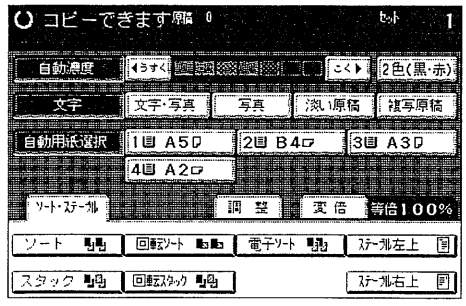


制限

- ステープルソーターでソート／スタックできる用紙サイズは次のとおりです。
  - A3□B4□A4▯□B5▯□A5□11×17（DLT）□8½×14（LG）□8½×11（LT）▯□8½×5½（HLT）
- 手差しコピーはできません。
- ソートのときに設定できるコピー部数は 10 部までです。
- 1つのトレイに重ねられる用紙の枚数は次のとおりです。ただし、ステープルできる枚数の上限は20枚です。21枚以上セットすると、ステープルは解除されます。

	ソート	スタック
ステープルソーター AS-AC10（10ビン）	25枚（B4以上） 30枚（A4以下）	20枚（B4以上） 25枚（A4以下）

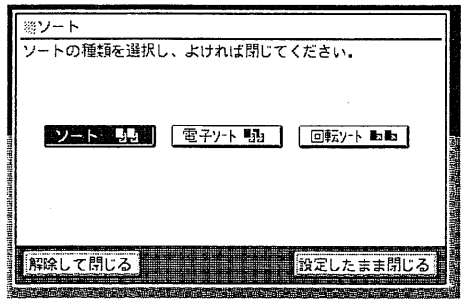
シンプルメニュー画面からは、[ソート・ステープル] を押すと、次の画面が表示されます。



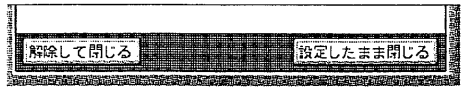
ソート

1 [ソート] を押します。

2 [ソート] を押します。



3 [設定したまま閉じる] を押します。



4 テンキーでコピーする枚数を入力します。

SHC2copy-F_FM.book 47 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

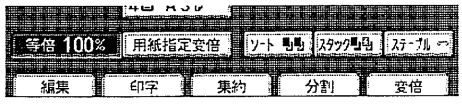
参照

「コンタクトガラスまたはRADFに原稿を1枚ずつセットするとき」⇒P.52

「自動原稿送り装置（RADF）に複数枚の原稿をセットするとき」⇒P.52

スタック

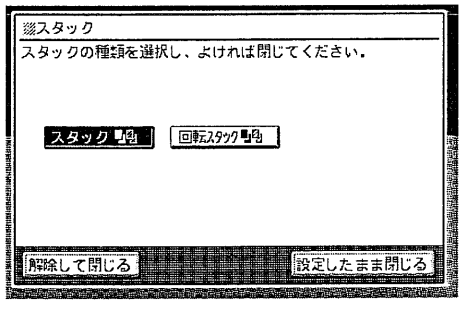
1 [スタック] を押します。



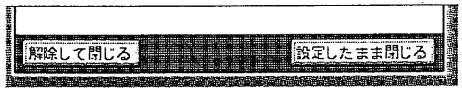
制限

❒「スタック」と「ステープル」は同時に選択できません。

2 [スタック] を押します。



3 [設定したまま閉じる] を押します。



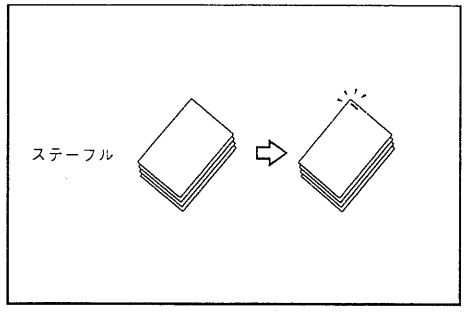
4 テンキーでコピーする枚数を入力します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

ステープル（ステープルソーターが必要）

コピーを1部ずつステープラーでとじます。

自動的にとめる「オートステープル」（自動原稿送り装置（RADF）が必要）と、キーを押すとステープルを始める「マニュアルステープル」があります。



制限

❒ ステープルソーターでステープルできる用紙サイズは次のとおりです。

- A3□B4□A4▯□B5▯□11×17（DLT）□8½×14（LG）□8½×11（LT）▯□

❒ サイズの違う用紙にはステープルできません。

❒ 手差しコピーはできません。

❒ 原稿は2枚以上セットしてください。

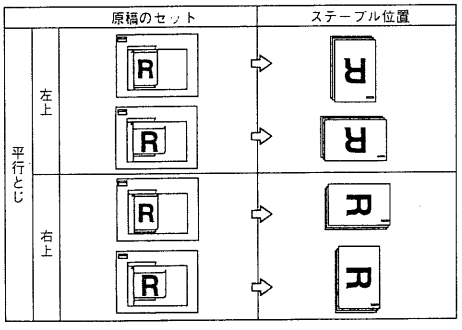
補足

❒ ステープルできる枚数の上限は20枚です。21枚以上セットすると、ステープルは解除されます。

❒ ステープラーの針の補給については P.109「ステープラーの針がなくなったとき」を参照してください。

❒ 針がつまったときはP.110「ステープラーの針がつまったとき」を参照してください。

❖ 原稿のセット方向とステープル位置について

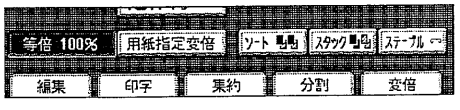


原稿と逆の方向の用紙にコピーされます。
あらかじめ原稿と逆の方向の用紙をセットしてください。

オートステープル（自動原稿送り装置（RADF）が必要）

ソートしたコピーをステープラーで自動的にとじます。

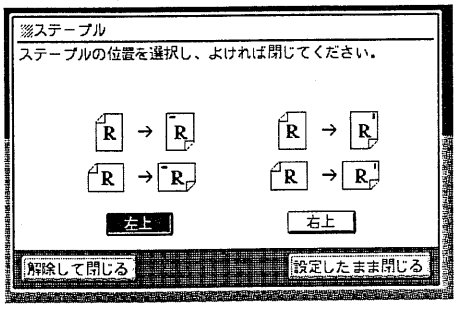
1 [ステープル] を押します。



制限

❒「スタック」と「ステープル」は同時に選択できません。

2 ステープルの位置を選択し、[設定したまま閉じる] を押します。



補足

❒ [ステープル] を設定すると自動的に [ソート] が設定（反転表示）されます。

3 テンキーでコピー枚数を入力します。

4 原稿を自動原稿送り装置（RADF）にセットし、【スタート】キーを押します。

ソートを終了すると自動的にステープラーでとじます。

補足

❒ ステープルできる原稿枚数の上限を超えてコピーしたときコピーは排出されますが、ステープラーでとじることはできません。

マニュアルステープル

ソートしたコピーにあとからステープルを設定します。

1 [ソート] を押します。

2 テンキーでコピーする枚数を入力します。

3 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

コピーが始まります。

4 ソート後、[マニュアルステープル] を押します。

コピーをステープラーでとじます。

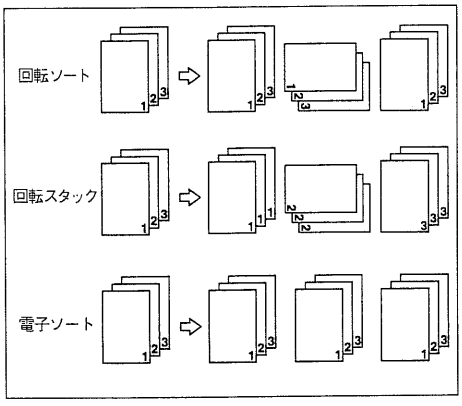
補足

❒ ステープルできる原稿の枚数の上限を超えてコピーしたときコピーは排出されますが、[マニュアルステープル] キーは表示されずステープラーでとじることはできません。

回転ソート／回転スタック／電子ソート（HDDユニットが必要）

複数ページの原稿をメモリーに記憶させて、コピーを自動的に仕分けします。

回転ソート／回転スタック時は１部ずつまたはページごと交互に方向を変えてコピーします。ソート／電子ソートのときは同じ方向の用紙でコピーします。



制限

- サイズの違う用紙または原稿を回転ソート/回転スタック/電子ソートすることはできません。
- コピー開始後、「濃度」以外のコピー条件の変更はできません。ただし、すでに読み取られた原稿の濃度は変更できません。
- コピーまたは読み取りの途中で、原稿セット方法（自動原稿送り装置（RADF）／コンタクトガラス）は変更しないでください。
- 手差しコピーはできません。

❖ 回転ソート／回転スタック時

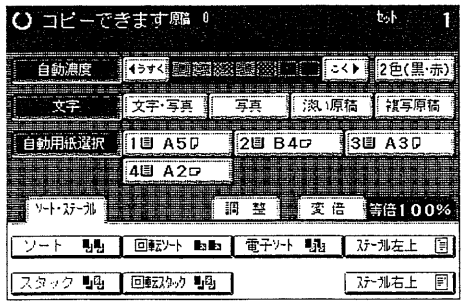
- コピーできる用紙サイズはA3、B4、A4、B5、11×17（DLT）、8½×11（LT）です。
- 給紙トレイは２段必要です。同じサイズの用紙を 🗋🗋 それぞれセットしてください。
- 再生紙や特殊紙を設定したトレイの用紙でコピーするときは、🗋🗋とも同じ種類の紙を設定してください。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「特殊紙表示設定」。

❖ 電子ソート時

- メモリーに記憶させ１部ずつコピーします。ただし部数の区切りはできません。

補足

- 設定できるコピー部数は９９９部までです。
- 排紙トレイに重ねられるコピーの枚数は次のとおりです。
  - A2、B3、17×22(ANSI C)...20枚
  - A3、11×17(DLT)...100枚
  - B4以下...250枚
    収容枚数を超えるときは、いったん排紙トレイからコピーを取り除いてください。
- メモリーに記憶できる原稿の枚数はA4サイズで約100枚です。
- シンプルメニュー画面からは、[ソート・ステープル]を押すと、次の画面が表示されます。



SHC2copy-F_FM.book 50 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

回転ソート／電子ソート

制限

❒ 回転ソートのコピー速度は通常のコピーより多少遅くなります。

❖ **画面の表示内容について**

例）３枚の原稿を3部コピーするとき

コピー前

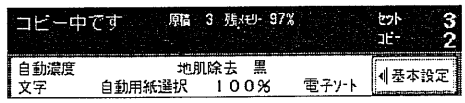
原稿 0...読み取った原稿の枚数

セット 3...セットしたコピー部数

コピー中

原稿1→2→3...読み取った原稿の枚数

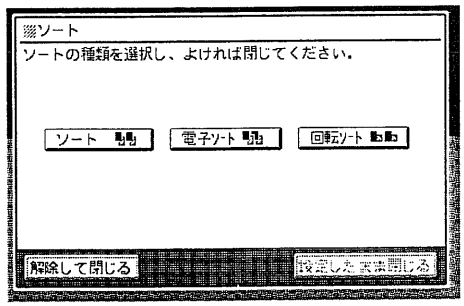
コピー 1→1→1→2→2→2...コピー部数



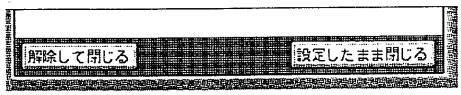
メモリーの残り容量を１％刻みで表示します。

1 [ソート] を押します。

2 [回転ソート] または [電子ソート] を押します。



3 [設定したまま閉じる] を押します。



4 コピーする部数、コピー条件などを選択します。

補足

❒ 手動で用紙を選択するときはセットした原稿と同じ方向の用紙を選択してください。

自動原稿送り装置（RADF）に複数枚の原稿をセットするとき

❶ 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

セットした原稿が読み取られたら、自動的にコピーが排出されます。

補足

❒ 原稿は先頭ページが一番上になるようにセットします。

❒「メモリー残量」が0%になったとき

- 読み取りが中断されます。
- 【スタート】キーを押すと、読み取りが終わったページまでコピーが排出されます。排紙トレイのコピーを取り除いてから、画面のメッセージに従ってコピーを継続してください。
  ただし、「ソート全数読み取り」を「する」に設定しているときは自動的に読み取りを継続します。⇒ P.129「ソート全数読み取り（自動原稿送り装置（RADF）が必要）」

SHC2copy-F_FM.book 51 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

コンタクトガラスまたはRADFに原稿を1枚ずつセットするとき

❶ 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。セットした原稿が読み取られます。

補足

❒ 原稿は最終ページから順にセットします。

❷ 次の原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

❒ 原稿は同じ方向にセットしてください。

❒「メモリー残量」が0%になったとき

- 読み取りが中断されます。
- 【スタート】キーを押すと読み取りが終わったページまでコピーが排出されます。画面のメッセージに従ってコピーを継続してください。

❸ すべての原稿の読み取りを終えたら【#】キーを押します。

❹ 【スタート】キーを押します。

コピーが排出されます。

5 すべての原稿の読み取りを終えたら、【#】キーを押します。

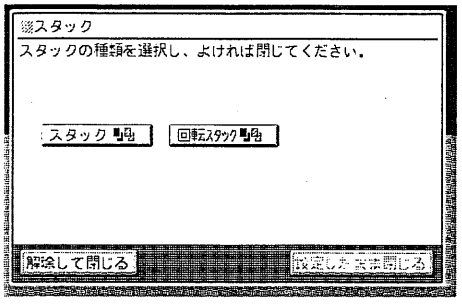
6 【スタート】キーを押します。

コピーが排出されます。

回転スタック

1 [スタック] を押します。

2 [回転スタック] を押します。



3 [設定したまま閉じる] を押します。

4 コピーする部数、コピー条件などを選択します。

補足

❒ 手動で用紙を選択するときはセットした原稿と同じ方向の用紙を選択してください。

コンタクトガラスまたはRADFに原稿を1枚ずつセットするとき

❶ **原稿をセットし、【スタート】キーを押します。**

セットした原稿が読み取られ、コピーが排出されます。

補足

- 原稿は最終ページから順にセットします。

❷ **次の原稿をセットし、【スタート】キーを押します。**

コピーが排出されます。

補足

- 原稿は同じ方向にセットしてください。

自動原稿送り装置（RADF）に複数枚の原稿をセットするとき

❶ **原稿をセットし、【スタート】キーを押します。**

セットした原稿が読み取られたら、自動的にコピーが排出されます。

補足

- 原稿は先頭ページが一番上になるようにセットします。

読み取りの中断/原稿の画像のクリア

回転ソート、電子ソート時は、セットした原稿が読み取られメモリーに蓄積されます。ここでは、読み取りの中断方法、すでに読み取られメモリーに蓄積されている画像をクリアする方法を説明します。

❖ 読み取りを中断したいとき

- 【クリア/ストップ】キーを押します。

補足

- 読み取りを再開するときは、【スタート】キーを押します。

❖ コピー中断中に、すでに読み取った原稿の画像をクリアしたいとき

- もう一度【クリア/ストップ】キーを押し、[はい] を選択します。
  画面のメモリー残量表示は「100%」になります。

補足

- 【リセット/予熱】キーを押したとき、オートクリアされたとき、電源スイッチを「Off」にしたときもメモリー内の原稿の画像はクリアされます。
- 【クリア/ストップ】キーを押しても、セットしたコピー枚数はクリアされません。

SHC2copy-F_FM.book 53 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

手差しコピー

給紙トレイにセットできないサイズの用紙のほかに、はがきなどの厚紙、OHPフィルム、ハクリ紙などにコピーします。

操作の前に

薄紙、厚紙、はがきにコピーするときは、紙厚に応じて用紙厚と定着切り替えの切り替えが必要です。

セットする用紙種類	紙厚の目安	用紙厚レバー
縁取り紙	50～65g/m^2	薄紙
PPC用紙、上質紙等 また第二原図用紙	66～95g/m^2	普通紙
はがき等 また85g/m^{2}以上の第二原図用紙	96～157g/m^2	厚紙

セットする用紙種類	定着切り替えスイッチ
はがき また157g/m^{2}以上の厚紙	はがき
その他の用紙	その他

参照

手差しトレイにセットできる用紙のサイズや方向、枚数についてはP.26「用紙について」を参照してください。

制限

- A6□、振込票、往復はがきと11×17（DLT）□以外の海外で使われているサイズの用紙、また縦100～432mm横148～594mmの規格外の紙を手差しトレイにセットするときは、用紙サイズを設定してください。

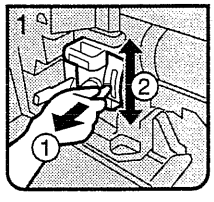
SHC2copy-F_FM.book 54 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

用紙厚／定着切り替えスイッチの切り替え

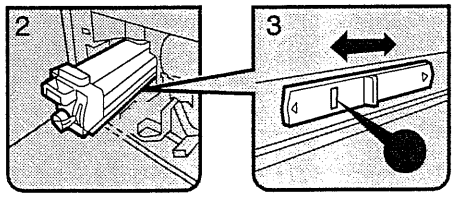
⚠ 注意
本製品内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

1 前カバーを開けます。

2 用紙厚レバーを引きながら「薄紙」「普通紙」「厚紙」のどれかに切り替えます。



3 「厚紙」「はがき」の場合は、定着ユニットを引き出し、入り口ガイド板の定着切り替えスイッチを「はがき」に切り替えます。



重要

❐ 手差しコピー終了後は、必ず「普通紙」「その他」に設定してください。

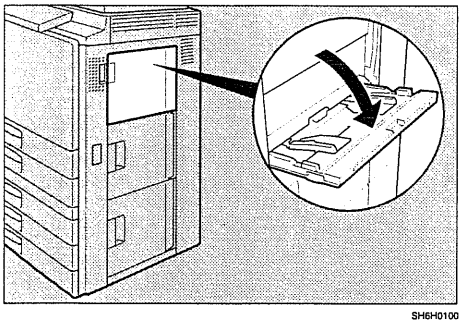
手差しコピー

補足

❐ 倍率補正を行うときは、[倍率補正] を押して、補正する用紙種類と補正倍率を入力・確認して [設定したまま閉じる] を押します。

1 手差しトレイを開けます。

[手差し] が反転表示されます。



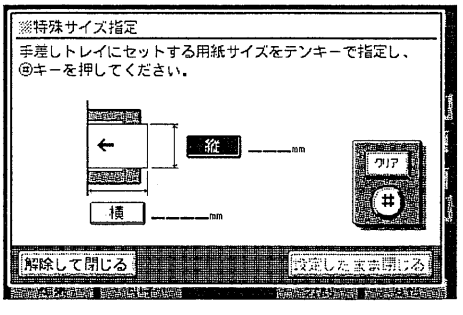
A6□、振込票、往復はがきと規格外の用紙にコピーするとき

重要

❐ サイズ指定をしないと用紙がつまることがあります。

❶ 【#】 キーを押します。

❷ テンキーで用紙の縦の長さを入力し、[#] を押します。



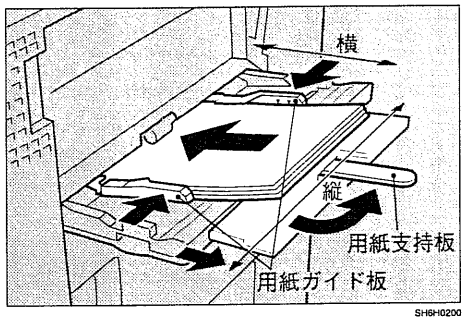
❸ テンキーで用紙の横の長さを入力し、[#] を押します。

❹ [設定したまま閉じる] を押します。

補足

❐ 手差しトレイを閉めたとき、サイズの指定は解除されます。

2 用紙ガイド板を用紙サイズに合わせ、“ピッ”というブザー音が鳴るまで用紙を軽く差し込みます。



重要

❒ 用紙ガイド板が用紙サイズに合っていないと、斜めにコピーされたり、用紙がつまったりする原因になります。

補足

❒ A4□よりも大きなサイズの用紙をセットするときは、用紙支持板を引き出します。

❒ コピーする面を上にしてセットしてください。

❒ カールしている用紙、そりのある用紙は直してからセットしてください。

❒ OHPフィルムやトレーシングペーパー（第二原図用紙）は重送（複数枚の用紙が重なったまま一度に送られること）されないように、パラパラとほぐしてからセットします。

❒ 郵便はがきは□方向にセットしてください。

❒ ハクリ紙、トレーシングペーパーは1枚ずつセットしてください。

❒ システム初期設定で「ブザー音」を「Off」にしたときは“ピッ”というブザー音が鳴りません。用紙を軽く差し込みます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「ブザー音」

3 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

❒ OHPフィルムなどで重送された場合は、1枚ずつセットしてください。

❒ 薄紙でコピーにしわが出たり、かすれてコピーされたときは、用紙厚レバーを「薄紙」にしてください。

プログラム

よく行うコピー操作は、設定した内容を記憶させることによって、繰り返し使うことができます。この機能を「プログラム」といいます。

操作の前に

プログラム機能を使うには、まず、繰り返し使いたい内容を登録します。この操作を「プログラム登録」といいます。登録したプログラムは「プログラム呼び出し」で簡単に呼び出すことができます。

プログラムは10件まで登録できます。

制限

❒ コピー枚数は登録できません。

補足

❒ 用紙はサイズでプログラム登録されるため、同じサイズの用紙がセットされているときは、トレイ1→トレイ2→トレイ3→トレイ4→トレイ5の順に選択されます。

❒ あらたに登録しない限り、電源を切ったり、【リセット／予熱】キーを押しても、登録した内容は取り消されません。

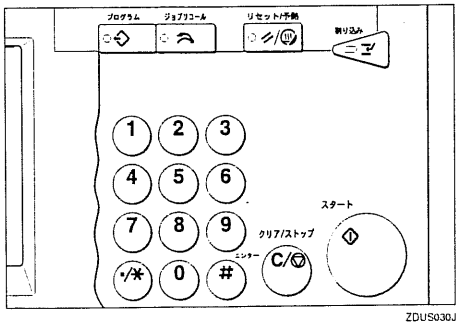
❒ 一度登録したプログラムを消去することはできません。登録した内容を変更したいときはもう一度登録し直してください。⇒ P.56「プログラム登録／変更」

プログラム登録／変更

1 登録する内容を設定します。

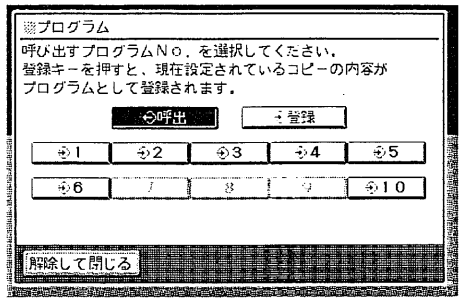
2 【プログラム】キーを押します。

【プログラム】キーのランプが点灯し、プログラム画面が表示されます。



ZDUS030J

3 [登録] を押します。



4 登録するプログラム番号を [1] ～ [10] から選択します。

登録が終わると⊕が表示されます。

補足

❒ ⊕が表示されている番号には、すでにプログラムが登録されています。

すでにプログラムが登録されているとき（変更）

登録されている内容を確認し、上書きするかどうかを選択します。

補足

❒ 上書きする場合は [はい] を押します。

❒ 登録をやめる場合は [いいえ] を押して、登録されていない番号を選択します。

参照

登録されている内容を知りたいとき⇒ P.57「プログラム呼び出し」

SHC2copy-F_FM.book 57 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

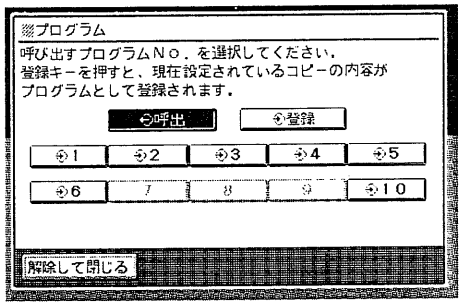
プログラム呼び出し

1 【プログラム】キーを押します。

【プログラム】キーのランプが点灯し、プログラム画面が表示されます。

2 呼び出すプログラム番号を［1］～［10］から選択し、［呼出］を押します。

登録されているプログラムの内容が表示されます。



補足

- ㊦が表示されていない番号にはなにも登録されていません。

3 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

その他の機能

❖ 割り込みコピー

【割り込み】キーを押すと、コピー中に割り込んで別の原稿をコピーすることができます。割り込みコピー終了後は、もう一度【割り込み】キーを押すと元の機能の設定に戻ります。

制限

❒ 割り込み時には以下の機能は選択できません。

- 編集
- 印字
- 集約
- 分割
- ソート
- スタック
- ステープル

補足

❒ 割り込む前の設定はそのまま残っているので、割り込みコピー終了後は【スタート】キーを押すだけで作業を再開できます。

参照

詳細は使用説明書＜システム初期設定編＞「他を中断してコピーする」を参照してください。

❖ ジョブリコール

オートクリアされる前のコピーの設定を呼び出してコピーします。繰り返し同じ設定でコピーしたいときに便利です。

❖ オートスタート

「おまちください」が表示されているときにコピー内容を設定し【スタート】キーを押しておくと、コピーできる状態になったときに自動的にコピーが始まります。

❖ 原稿忘れ検知

コンタクトガラスに原稿をセットしてコピーした後、そのまま機械から離れると、"ピッピッ"というブザー音とエラーメッセージを表示します(オートレスポンスセンサーを「する」に設定しているとき)。この設定を解除することもできます。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「オートレスポンスセンサー」

❖ ユーザーコード

ユーザーコードを設定すると、特定の人だけが機械を使えるようにしたり、部門ごとのコピー使用量を管理することができます。

補足

❒ 電源を入れた直後やコピー終了後約１分たつと、ユーザーコードを入力できる状態になります。強制的にユーザーコードを入力できる状態にしたいときは【クリア／ストップ】キーと【リセット／予熱】キーを同時に押します。

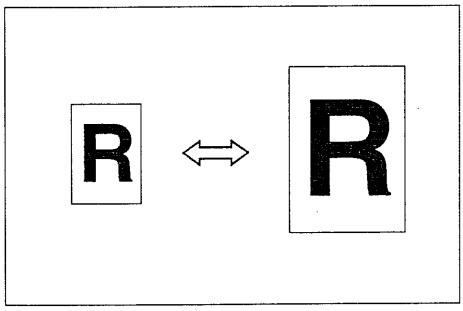
参照

使用説明書＜システム初期設定編＞「ユーザーコード設定」

SHC2copy-F_FM.book 59 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

定形変倍

あらかじめ設定されている拡大／縮小率の中から倍率を選択してコピーします。



操作の前に

12の固定倍率（5つの拡大率と7つの縮小率）と2つの任意倍率があります。

❖ 固定倍率と原稿、用紙サイズの関係

拡大率（%）	原稿サイズ→用紙サイズ
400（面積比16倍）	
200（面積比4倍）	A4→A2　A5→A3
141（面積比2倍）	A3→A2　A4→A3 A5→A4　B5→B4
122	A3→B3　A4→B4 A5→B5
115	B3→A2　B4→A3 B5→A4

縮小率（%）	原稿サイズ→用紙サイズ
93	すこし小さめ 11×14 *1 →B4
87	A2→B3　A3→B4 A4→B5
82	B3→A3　B4→A4 B5→A5
71（面積比1/2倍）	A2→A3　A3→A4 A4→A5　B4→B5
61	A2→B4　A3→B5
50（面積比1/4倍）	A2→A4　A3→A5
43	A2→B5

*1 11×14 はコンピューターのアウトプット用紙です。

補足

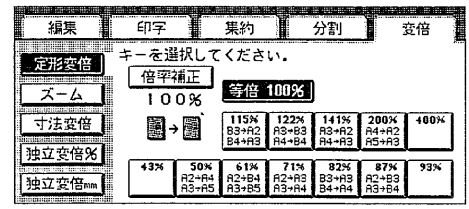
❒ 倍率は原稿サイズや用紙サイズに関係なく選択できますが、倍率によっては画像が欠けたり、余白ができることがあります。

❖ こんなこともできます

- 固定倍率以外でよく使う倍率を、1%単位で4つまで登録して表示させることができます。⇒ P.119「ユーザー変倍率設定1～4」
  ただし、シンプルメニュー画面では選択できません。
- 選択された倍率にたいして、補正値を設定することにより画像倍率をより細かく調整することができます。⇒ P.62「倍率補正」

1 [変倍] を押します。

2 [定形変倍] が反転表示していることを確認します。



補足

❒ シンプルメニュー画面のときは、[拡大] [縮小] のどちらかを選択し、倍率キーを表示させます。

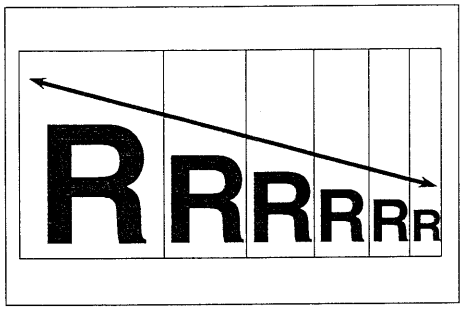
❒ ユーザー変倍率を登録すると、[等倍100%] の右に表示されます。

3 倍率を選択します。

4 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

ズーム

1%刻みに拡大／縮小率を指定し、大きさを細かく指定して拡大／縮小コピーします。



操作の前に

倍率の指定方法には、次の種類があります。

- [＋－キー]
  [＋] [－] で指定します。
- [テンキー]
  テンキーで指定します。

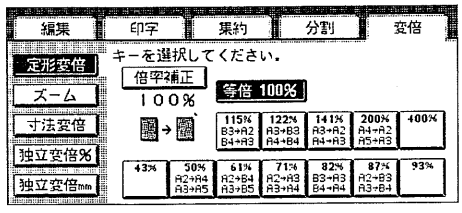
倍率は40～400%の範囲内で指定できます。

❖ こんなこともできます

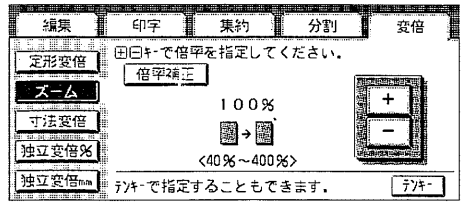
- 「定形変倍」で近い倍率を選択してから [ズーム] を押し [＋] [－] で調整することもできます。
- 選択された倍率にたいして、補正値を設定することにより画像倍率をより細かく調整することができます。⇒ P.62「倍率補正」

1 [変倍] を押します。

2 [ズーム] を押します。



3 [＋] [－] で倍率を指定します。

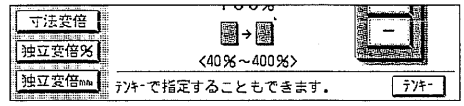


補足

- 間違えたときは [＋] [－] で指定し直します。
- テンキーで指定するときは [テンキー] (シンプルメニュー画面のときは [テンキー指定]) を押します。

テンキーで指定するとき

❶ [テンキー] を押します。



❷ [テンキー] で倍率を入力します。

補足

- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは [クリア] を押して入力し直します。
- [＋] [－] で指定するときは [＋－キー] を押します。

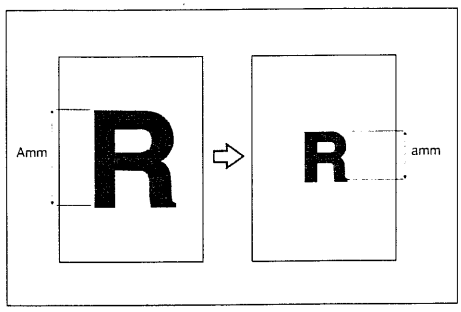
❸ [#] を押します。

4 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 61 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

寸法変倍

指定した寸法になるように拡大／縮小コピーします。



操作の前に

原稿とコピーの長さをAとaのように対応させて測り、指定します。

拡大／縮小率が自動的に決められ、計算する手間を省くことができます。

制限

- 倍率は40～400%の範囲内で選択されます。
- 計算された倍率が39%以下のときは40%に、401%以上のときは400%に補正されます。

❖ こんなこともできます

- 選択された倍率にたいして、補正値を設定することにより画像倍率をより細かく調整することができます。⇒ P.62「倍率補正」

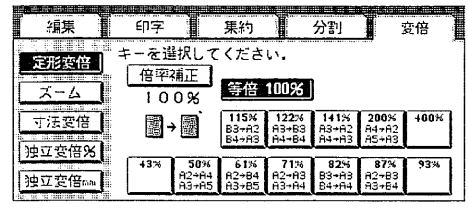
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

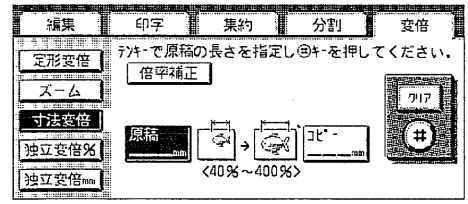
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [変倍] を押します。

3 [寸法変倍] を押します。



4 テンキーで原稿の長さを入力し、[#] を押します。



補足

- 入力できる長さは1～999mm（1mm単位）です。
- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは [クリア] を押して入力し直します。

5 テンキーでコピーの長さを入力し、[#] を押します。

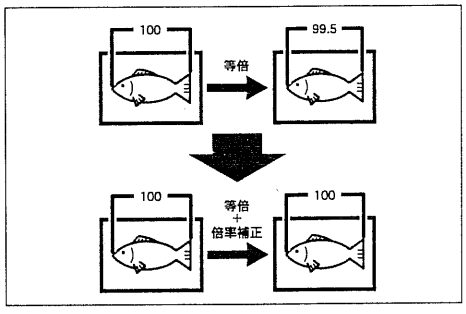
補足

- 長さを変更するときは [原稿] または [コピー] を押して入力し直します。

6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

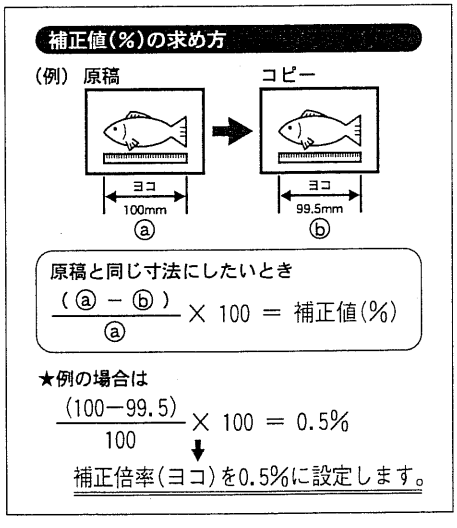
倍率補正

用紙の種類によっては温湿度などの環境の変化で伸び縮みが発生し、原稿とコピーの画像の実測値が合わないことがあります。このような場合に用紙別にタテまたはヨコの補正倍率を設定します。



操作の前に

原稿とコピーの画像の長さを、タテ・ヨコそれぞれ測り、補正する倍率を計算してから指定します。



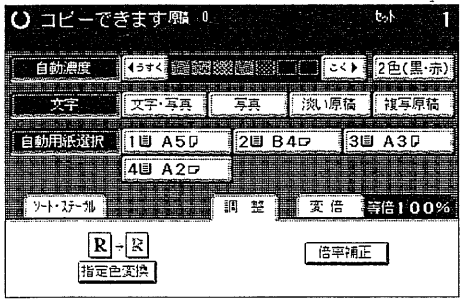
制限

- 倍率の補正は -1.0% ～ +1.0%の範囲で 0.1%刻みで設定できます。

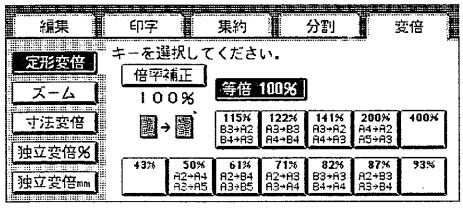
1 [変倍] を押します。

補足

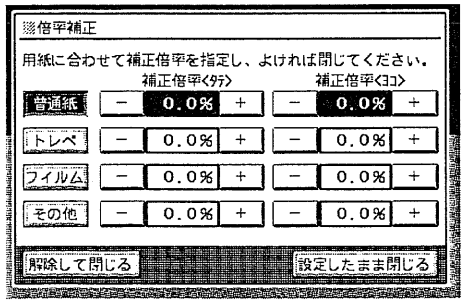
- シンプルメニュー画面からは、[調整] を押すと、次の画面が表示されます。



2 [倍率補正] を押します。



3 補正する用紙種類を選択し、補正倍率を入力します。



SHC2copy-F_FM.book 63 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

補足

- 「特殊紙表示設定」でトレイの用紙種類を設定していない（表示なしを選択）場合は、普通紙を選択して補正倍率を入力します。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「特殊紙表示設定」。
- 「特殊紙表示設定」でトレイの用紙種類を設定している場合は、次の組み合わせで補正倍率を入力します。

トレイの用紙種類	選択する用紙種類
表示なし	普通紙
再生紙	
特殊紙	その他
トレペ	トレペ

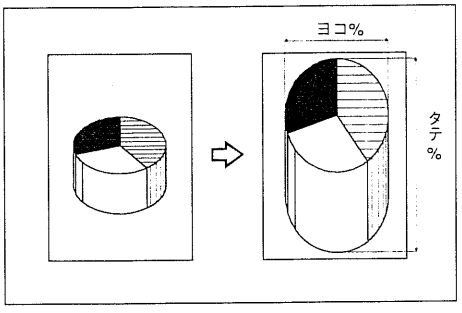
- 「フィルム」は手差しコピーで、第二原図用紙（フィルムタイプ）などの補正をする場合に入力してください。

4 [設定したまま閉じる] を押します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

独立変倍%

タテとヨコをそれぞれ異なる倍率でコピーします。画像を変形させることができます。



操作の前に

倍率の指定方法には、次の種類があります。

- [テンキー]
  テンキーで指定します。
- [＋－キー]
  [＋] [－] で指定します。

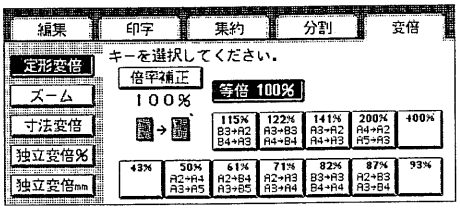
倍率は40～400%の範囲内で指定できます。

❖ こんなこともできます

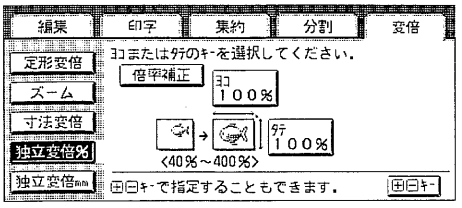
- 選択された倍率にたいして、補正値を設定することにより画像倍率をより細かく調整することができます。⇒ P.62「倍率補正」

1 [変倍] を押します。

2 [独立変倍%] を押します。



3 [ヨコ] または [タテ] を押します。



4 テンキーでヨコ倍率とタテ倍率を入力し、[#] を押します。

補足

- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは [クリア] を押して入力し直します。
- [＋] [－] で指定するときは [＋－キー] を押します。

[＋] [－] キーで指定するとき

❶ [＋－キー] を押します。
❷ [ヨコ] または [タテ] を押します。
❸ [＋][－]でヨコ倍率またはタテ倍率を指定します。

補足

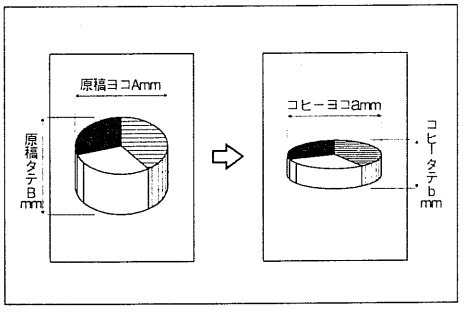
- 間違えたときは [＋] [－] で指定し直します。
- テンキーで指定するときは [テンキー] を押します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 65 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

独立変倍mm

タテとヨコをそれぞれ指定した長さになるようにコピーします。画像を変形させることができます。



操作の前に

原稿とコピーの長さをAとaのように対応させて測り、指定します。

倍率は40～400%の範囲内で選択されます。

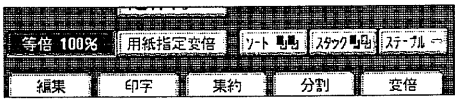
補足

- 計算された倍率が39%以下のときは40%に、401%以上のときは400%に補正されます。

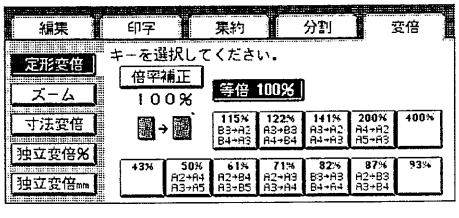
❖ こんなこともできます

- 選択された倍率にたいして、補正値を設定することにより画像倍率をより細かく調整することができます。⇒P.62「倍率補正」

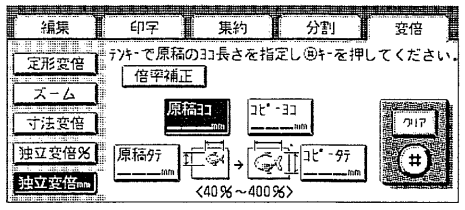
1 [変倍] を押します。



2 [独立変倍mm] を押します。



3 テンキーで原稿のヨコの長さを入力し、[#] を押します。



補足

- 入力できる長さは1～999mm（1mm単位）です。
- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは［クリア］を押して入力し直します。

4 テンキーでコピーのヨコの長さを入力し、[#] を押します。

5 テンキーで原稿のタテの長さを入力し、[#] を押します。

6 テンキーでコピーのタテの長さを入力し、[#] を押します。

補足

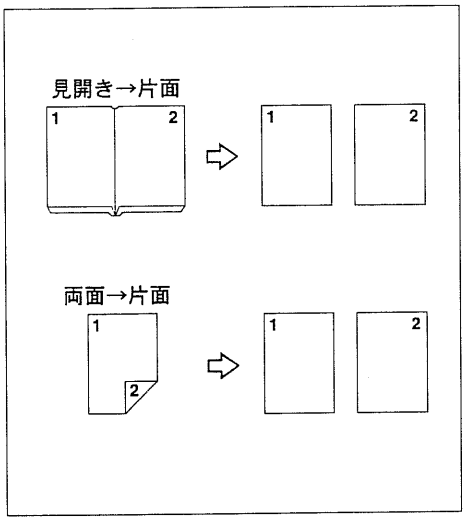
- 長さを変更するときは変更したい個所を押して入力し直します。

7 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 66 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

分割

両面原稿の表裏や見開き原稿の左右ページを、2枚の用紙に分けてコピーします



操作の前に

分割には、次の種類があります。

- [見開き→片面]
  見開き原稿の左右のページを1枚ずつ用紙の片面にコピーします。
- [両面→片面](自動原稿送り装置(RADF)が必要)
  両面原稿の表裏を1枚ずつ用紙の片面にコピーします。

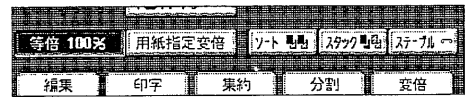
❖ 見開き原稿と片面コピーの用紙サイズ(等倍時)

原稿	用紙
A2	A3×2枚
B3	B4×2枚
A3	A4×2枚
B4	B5×2枚
A4	A5×2枚

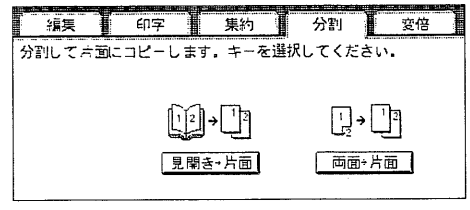
制限

- [見開き→片面]は、手差しコピー、自動用紙選択、可紙指定変倍ができません。
- [見開き→片面]は、の用紙に画像を分割コピーする場合は、次の組み合わせが可能です。
  - A3 →A4×2枚
  - B4 →B5×2枚

1 [分割]を押します。



2 分割の種類を選択します。



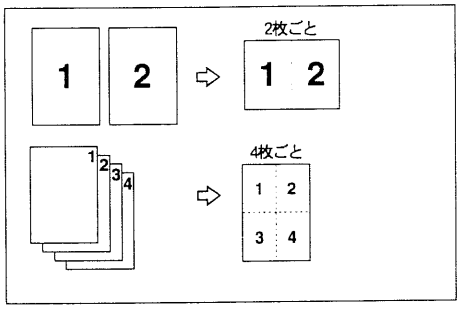
3 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

- [見開き→片面]のときは、[基本設定]を押して、左の表を参考に用紙を選択します。

集約（自動原稿送り装置（RADF）とHDDユニットが必要）

複数枚の片面原稿を 1 枚の用紙にまとめてコピーします

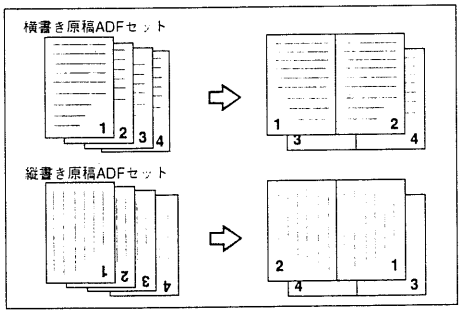


操作の前に

集約には、次の2種類があります

- 2枚ごと
  2枚の片面原稿を用紙の見開きにコピーします。
- 4枚ごと
  4枚の片面原稿を用紙の片面にまとめてコピーします。

❖ 原稿のセット方法とコピー



制限

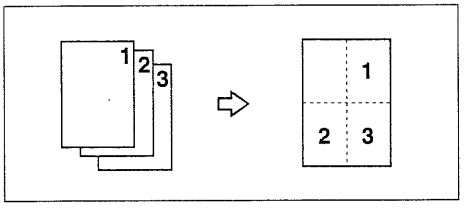
- 原稿サイズは1枚目が読み取られたときに決定されますので、異なるサイズ、方向の原稿を混ぜてコピーすることはできません。
- 自動用紙選択、用紙指定変倍はできません。原稿と同じサイズの用紙を選択してください。
- 手差しコピーはできません。

❖ こんなこともできます

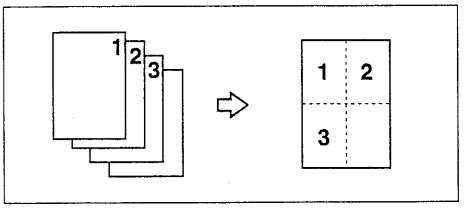
- 画像を分ける（折り目に）仕切り線を実線で入れることができます。⇒P.120「集約／リピート仕切線（HDDユニットが必要）」

補足

- 自動原稿送り装置（RADF）に原稿をセットしたときは用紙の方向と一致しなくても、自動的に画像を90°回転してコピーします。
- 自動原稿送り装置（RADF）に原稿をセットしてコピーするとき、原稿枚数が設定した集約数より少なくてもコピーできます。また、コピーしないように初期設定を変更することもできます。⇒P.128「原稿不足時自動排出（集約）」
- 集約数より原稿枚数が少ない場合は、次のように先頭が白紙でコピーされます。



- 次のように最終ページに白紙を追加してセットすると、最後が白紙でコピーされます。

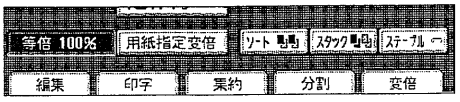


1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

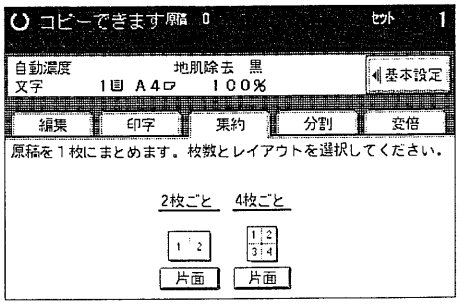
補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [集約] を押します。



3 集約の種類を選択します。



4 [基本設定] を押して原稿と同じサイズの用紙を選択します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

❒ 自動原稿送り装置(RADF)に原稿をセットするとき

- 先頭ページが一番上になるようにセットします。

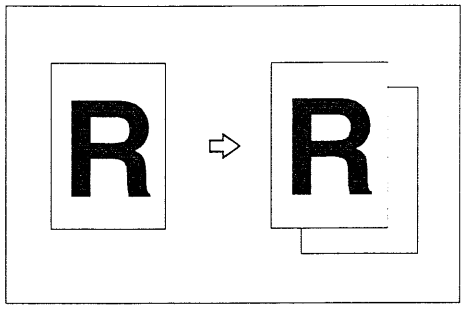
❒ コンタクトガラスに原稿をセットするとき

- 最終ページから順にセットします。自動原稿送り装置(RADF)に1枚ずつ原稿をセットするときも同様です。
- コンタクトガラスにセットした1枚目の原稿が読み取られたら、原稿を取り除き、手順**5**を繰り返します。

Chapter2 69 ページ 2001年2月2日 金曜日 午後2時12分

機密管理ナンバリング

機密文書にナンバーの地紋を付けてコピーします。



操作の前に

印字を開始する番号（1～999）を指定できます。

補足

- 管理番号は黒色で印字されます

❖ こんなこともできます

- 印字する管理番号の濃さを変更できます。⇒P.127「管理番号印字濃度設定」
- 印字する管理番号の数字の大きさを変更できます。⇒P.127「管理番号印字サイズ設定」

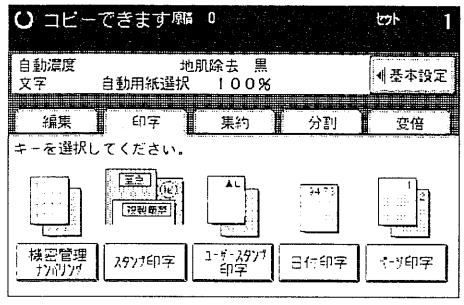
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

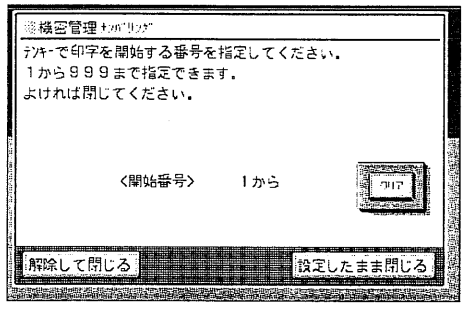
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [印字]を押します。

3 [機密管理ナンバリング]を押します。



4 テンキーで印字を開始する番号を入力します。



補足

- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは［クリア］を押して入力し直します。

5 [設定したまま閉じる]を押します。

6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

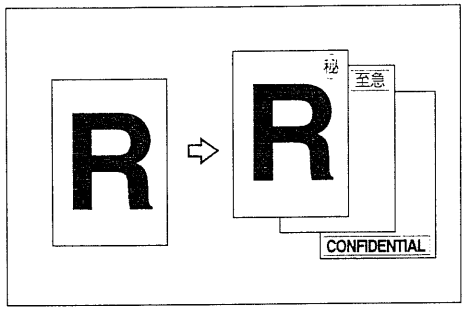
- タテ向き原稿をよこ方向（□方向）にセットする場合、コンタクトガラスとRADFでは上下逆になるので注意してください。

参照

原稿のセット方法は⇒P.70「原稿のセットと印字する位置・方向」を参照してください。

スタンプ印字

あらかじめ登録されているスタンプを印字します。



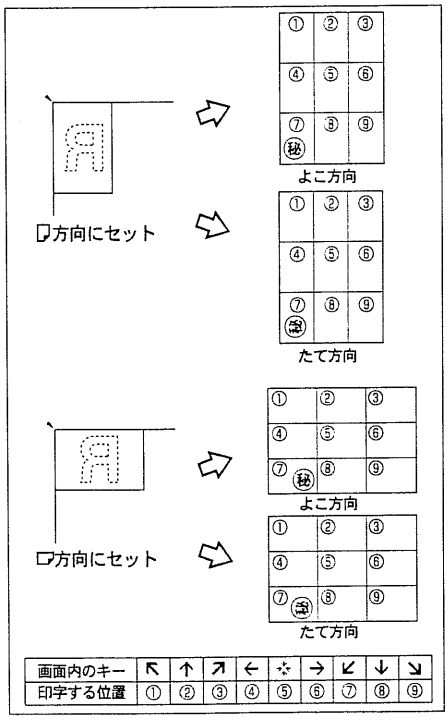
操作の前に

スタンプには、次の種類があります。

㊙	回収	複製厳禁	至急
仮	回覧	Confidential	

印字するスタンプの位置、方向を変更できます。

❖ 原稿のセットと印字する位置・方向



制限

- 手差しコピーはできません。
- スタンプは1度に1種類しか印字できません。ただし、ユーザースタンプ1種類と組み合わせて印字することができます。

❖ こんなこともできます

- 印字するスタンプの大きさや、透かしのパターンを変更できます。⇒ P.122「スタンプ条件設定」
- 印字位置の初期設定（右上）を変更することもできます。⇒⇒ P.122「スタンプ位置設定」
- スタンプの色の黒色と赤色が選択できます。⇒ P.128「スタンプ印字色設定」

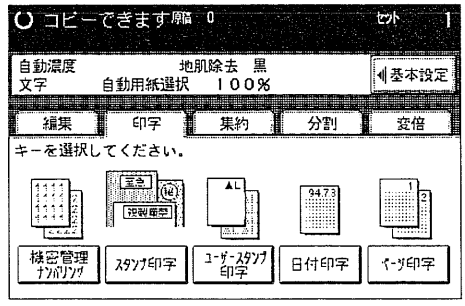
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

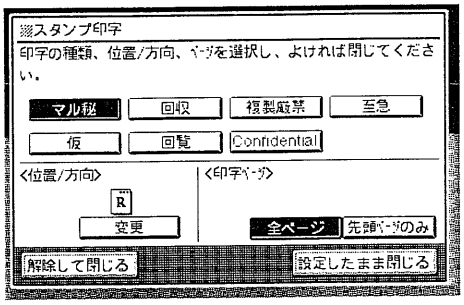
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [印字] を押します。

3 [スタンプ印字] を押します。

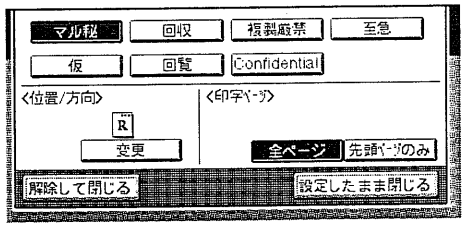


4 スタンプの種類を選択します。

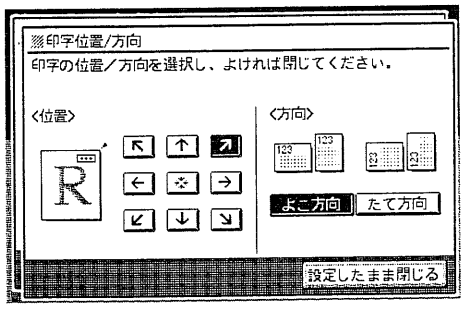


印字する位置と方向を変更するとき

❶ [変更] を押します。

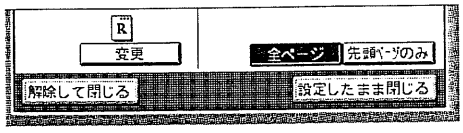


❷ 印字する位置と方向（よこ方向／たて方向）を選択し、[設定したまま閉じる] を押します。

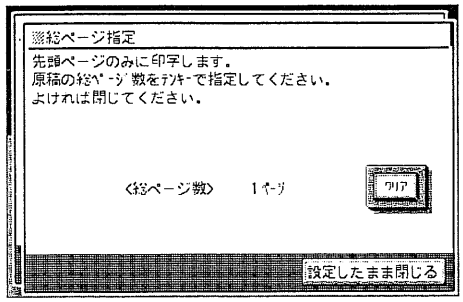


先頭ページだけにスタンプを印字するとき

❶ [先頭ページのみ] を押します。



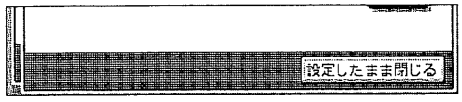
❷ テンキーで原稿の総ページ数を入力します。



補足

コ 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは [クリア] を押して入力し直します。

❸ [設定したまま閉じる] を押します。



5 [設定したまま閉じる] を押します。

6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

参照

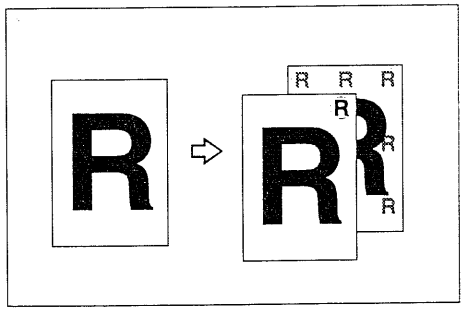
原稿のセット方法は前ページの「原稿のセットと印字する位置・方向」を参照してください。

❖ [先頭ページのみ] を選択したときの原稿セット

- 自動原稿送り装置（RADF）に原稿をセットするとき
  - 先頭ページが一番上になるようにセットします。
- コンタクトガラスに原稿をセットするとき
  自動原稿送り装置（RADF）に1枚ずつ原稿をセットするとき
  - 最終ページから順にセットします。

ユーザースタンプ印字（HDDユニットが必要）

よく使用する文字やマークを登録して「スタンプ印字」のように印字できます。



操作の前に

ユーザースタンプの登録が必要です。⇒ P.74「ユーザースタンプの登録／消去方法（HDDユニットが必要）」

ユーザースタンプは 4 種類まで登録できます。

印字するページ、位置、方向は変更できます。

制限

❒ 手差しコピーはできません。

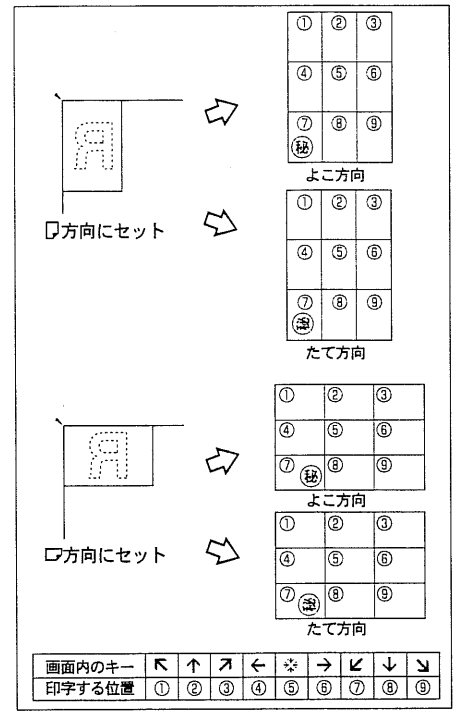
参照

一度登録したユーザースタンプを消去するときは、P.74「ユーザースタンプの登録／消去方法（HDDユニットが必要）」を参照してください。

❖ こんなこともできます

- 印字位置の初期設定（右上）を変更することもできます。⇒ P.125「スタンプ位置設定」
- ユーザースタンプの色は黒色と赤色が選択できます。⇒ P.128「ユーザー・スタンプ色設定」

❖ 原稿のセットと印字する位置・方向



- 定形のスタンプ 1 種類と組み合せて印字することもできます。
- 印字するユーザースタンプの大きさや透かしのパターンを変更したり、ユーザースタンプを用紙全体に地紋のように印字することもできます。⇒ P.124「ユーザー・スタンプ条件設定」

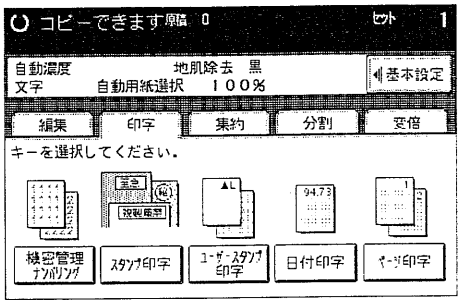
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

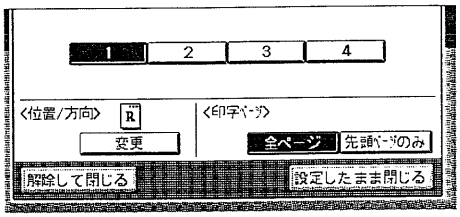
❒ シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [印字] を押します。

3 [ユーザースタンプ印字] を押します。



4 ユーザースタンプの登録番号を選択します。



補足

❒ 2 のように表示されている番号には何も登録されていません。

日付印字と合成するとき

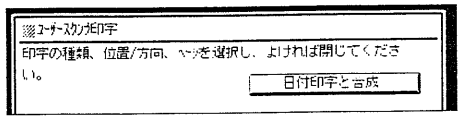
ユーザースタンプの中央に日付印字を合成することができます。

制限

❒「ユーザースタンプ条件設定」のスタンプスタイルを「地紋」に設定しているときは、日付印字と合成はできません。⇒ P.126「スタンプスタイル」

❒「ユーザースタンプ条件設定」のスタンプサイズを［2倍］［4倍］［8倍］に設定しても、合成される日付印字の印字サイズは変わりません。

❶［日付印字と合成］を押します。

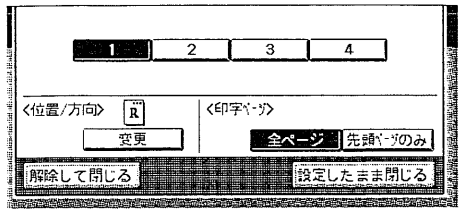


制限

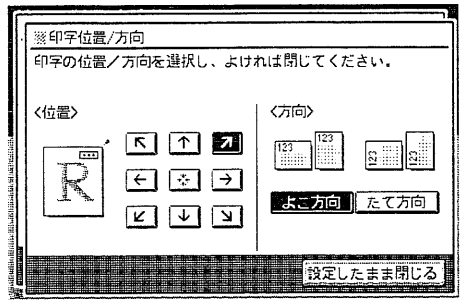
❒「日付印字と合成」を設定したときは、日付印字を選択することができません。

印字する位置と方向を変更するとき

❶［変更］を押します。

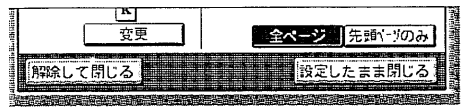


❷ 印字する位置と方向（よこ方向／たて方向）を選択し、［設定したまま閉じる］を押します。

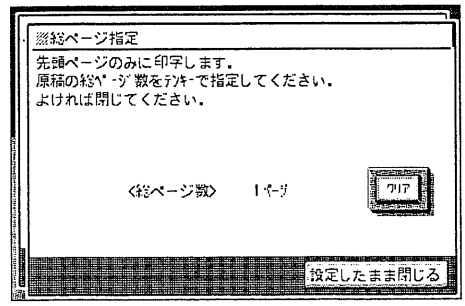


先頭ページだけにスタンプを印字するとき

❶［先頭ページのみ］を押します。



❷ テンキーで原稿の総ページ数を入力します。

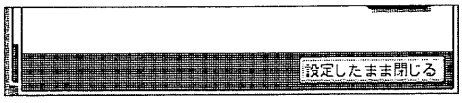


補足

❒ 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは［クリア］を押して入力し直します。

SHC2copy-F_FM.book 74 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

❸ [設定したまま閉じる] を押します。



5 [設定したまま閉じる] を押します。

6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

参照

原稿のセット方法は⇒P.70「原稿のセットと印字する位置・方向」を参照してください。

❖ 先頭ページのみを選択したときの原稿セット

補足

❒ 自動原稿送り装置（RADF）に原稿をセットするとき

- 先頭ページが一番上になるようにセットします。

❒ コンタクトガラスに原稿をセットするとき

- 自動原稿送り装置（RADF）に1枚ずつ原稿をセットするとき
- 最終ページから順にセットします。

ユーザースタンプの登録／消去方法（HDDユニットが必要）

操作の前に

登録は、黒インクで押印した原稿か、一度、黒でコピーした印を原稿にしてください。朱または赤で押印した原稿は、きれいに読み取れないことがあります。

1 コピーできる状態であることを確認します。

2 【初期設定】キーを押します。

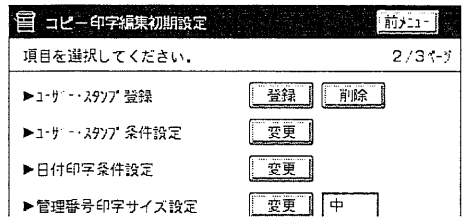
3 [コピー初期設定] を押します。

4 [印字編集設定] を押します。

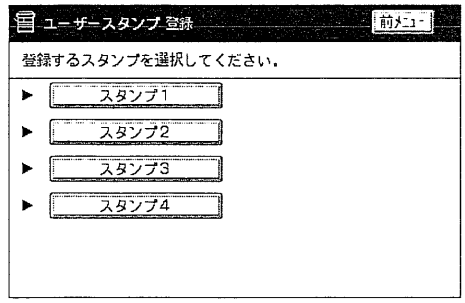
5 [次ページ] を押します。

登録するとき

❶ 「ユーザー・スタンプ登録」の [登録] を押します。



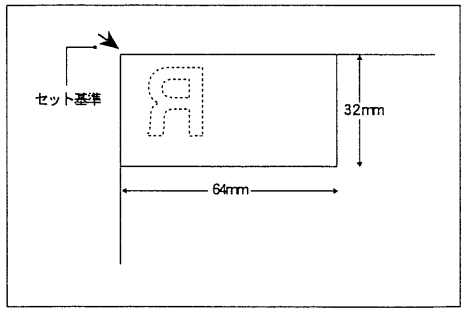
❷ 登録するスタンプ番号（1〜4）を選択します。



補足

❒ すでに登録されている番号を選択したときは [はい] を押すと上書きします。登録しないときは [いいえ] を押します。

❸ 次のようにコンタクトガラスに原稿をセットし、[読み取りスタート] を押します。



補足

❒ コンタクトガラスの左上から32×64mmの部分にある画像がユーザースタンプとして登録されます。

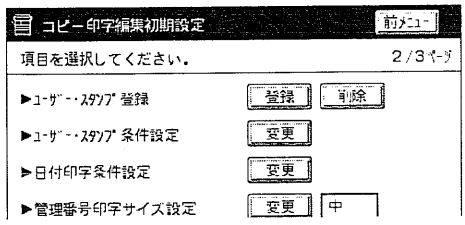
❹ 登録したスタンプに対して印字条件を設定することができます。

参照

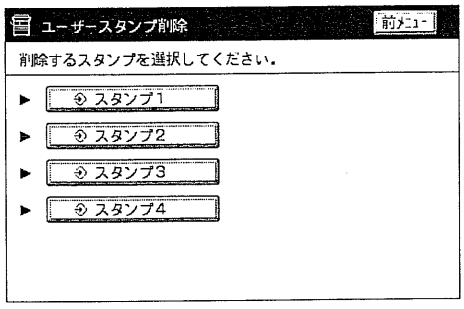
設定についてはP.124「ユーザー・スタンプ条件設定」を参照してください。

消去するとき

❶「ユーザースタンプ登録」の［削除］を押します。



❷ 消去したいスタンプ番号（1〜4）を選択します。



補足

❒ が表示されていない番号には何も登録されていません。

❸［はい］を押します。

登録内容が消去されます。

補足

❒ 消去しないときは［いいえ］を押します。

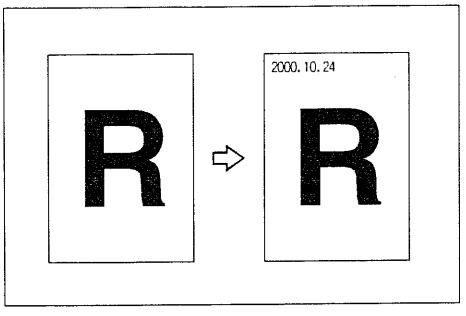
6 【初期設定】キーを押します。

初期設定値の変更が終了してコピーできる状態に戻ります。

補足

❒ 初期設定メインメニューの画面内の［終了］または【リセット／予熱】キーを押しても終了できます。

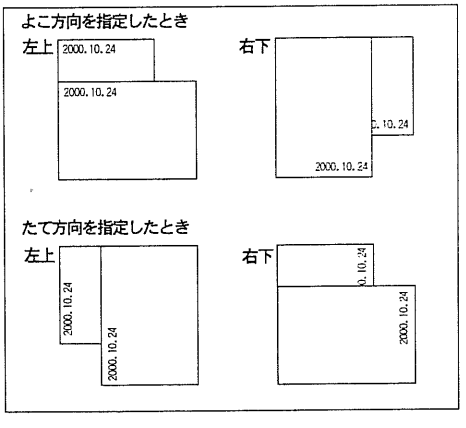
日付印字



操作の前に

印字の位置（左上／右下）と方向（よこ／たて）を指定できます。

❖ 原稿のセットと日付の位置、方向



制限

- 日付の大きさは変更できません。
- 手差しコピーはできません。
- ページ印字と組み合わせたとき、印字の方向は後から設定した機能の方向が優先されます。
- 集約と組み合わせたときは、コピーされた用紙に対して1個所印字されます。

❖ こんなこともできます

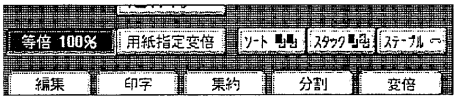
- 日付印字のスタイル（初期設定）は、「xxxx. xx. xx」ですが、「xxxx年xx月xx日」に変更することもできます。⇒P.126「日付印字スタイル優先設定」
- その他日付印字の条件を設定・変更することができます。⇒P.126「日付印字条件設定」
- 日付印字の色は黒色と赤色が選択できます。⇒P.128「ページ・日付印字色設定」

1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

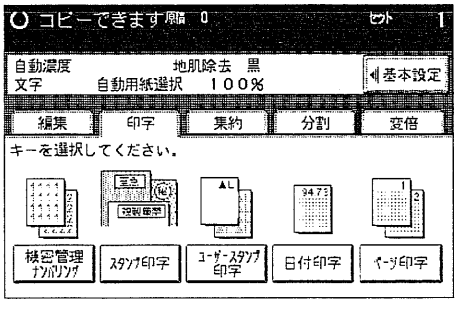
補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [印字] を押します。



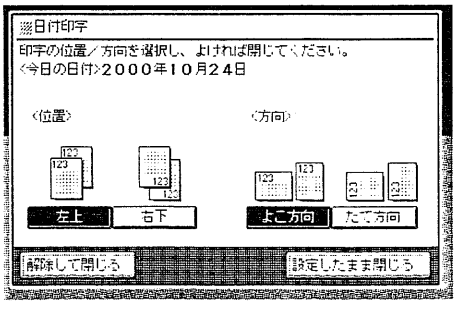
3 [日付印字] を押します。



制限

- ユーザースタンプ印字の「日付印字と合成」を設定したときは、日付印字を選択することができません。

4 日付印字の位置と方向を選択し、[設定したまま閉じる] を押します。

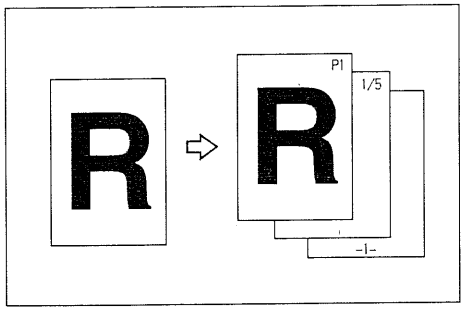


5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

参照

原稿のセット方法はP.38 「原稿のセット」を参照してください

ページ印字



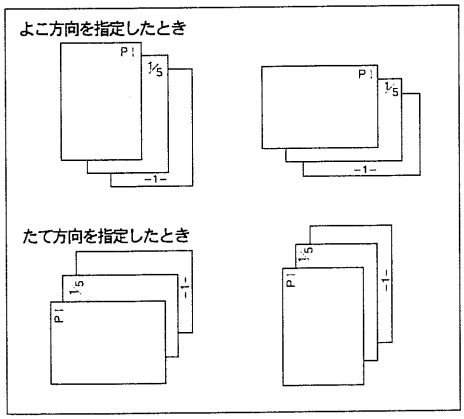
操作の前に

ページ印字には、次の種類があります。

- P1、P2、...
- 1/5、2/5、...
- -1-、-2-、...

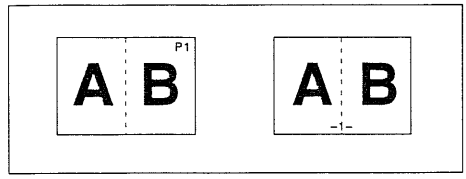
ページ付けの方向（よこ／たて）を指定できます。

❖ 原稿のセットとページ付けの方向



制限

- ページ印字の大きさは変更できません。
- 手差しコピーはできません。
- 日付印字と組み合わせたとき、印字の方向は後から設定した機能の方向が優先されます。
- 集約と組み合わせたときは、下の図のように用紙の片面ごと１個所ずつ印字されます。



❖ こんなこともできます

- ページ印字の位置を上下、左右4mm単位で変更することができます。⇒ P.121「ページ印字位置設定（右上）」
- ページ印字の種類の初期設定（P1P2）を変更することもできます。⇒P.121「ページ印字種類設定」
- ページ印字の色は黒色と赤色が選択できます。⇒P.128「ページ・日付印字色設定」

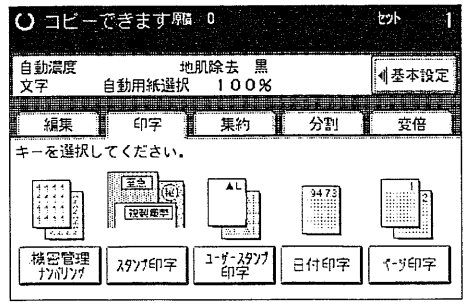
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

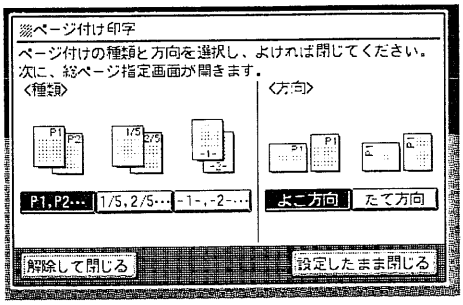
2 [印字] を押します。

3 [ページ印字] を押します。



SHC2copy-F_FM.book 79 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

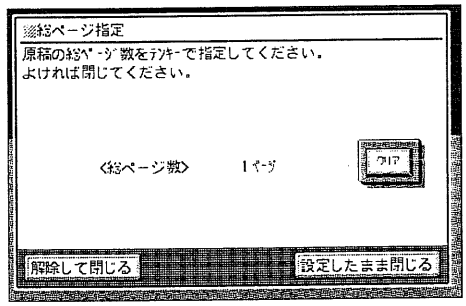
4 ページ印字の種類と方向を選択します。



5 [設定したまま閉じる] を押します。

「P1,P2...」、「-1-,-2-...」を選択したとき

❶ テンキーで原稿の総ページ数を入力します。

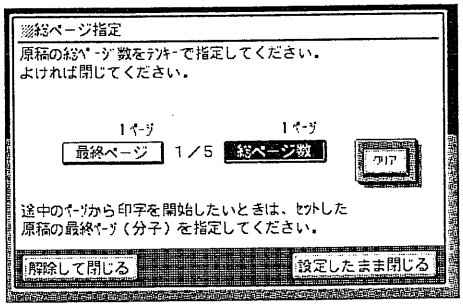


補足

- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは[クリア]を押して入力し直します。

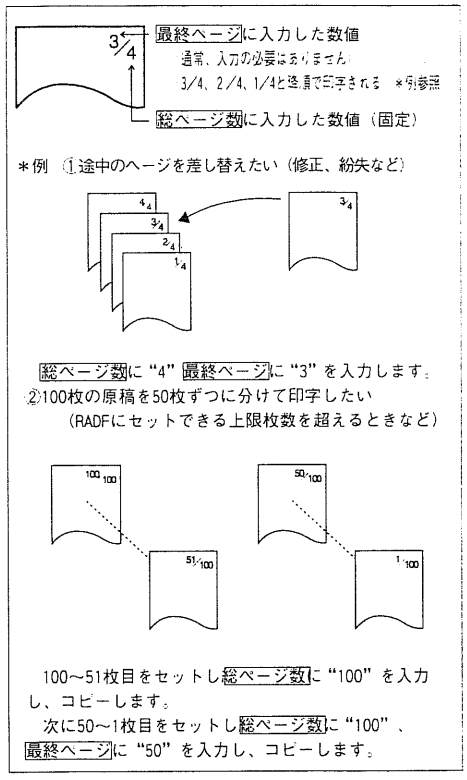
「1/5,2/5」を選択したとき

❶ テンキーで原稿の総ページ数を入力します。



補足

- 間違えたときは【クリア／ストップ】キーまたは[クリア]を押して入力し直します。
- 下図のように印字ページの分子の数字を変更するときは[最終ページ]を押し、数値を入力します。



制限

- 排出される用紙には必ずページが印字されます。ページ印字をしたくない原稿は[ページ印字]を押して設定を解除して通常のコピーをしてください。

6 [設定したまま閉じる] を押します。

7 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

❒ 自動原稿送り装置（RADF）に原稿をセットするとき

- 先頭ページが一番上になるようにセットします。

❒ コンタクトガラスに原稿をセットするとき／自動原稿送り装置（RADF）に1枚ずつ原稿をセットするとき

- 最終ページから順にセットします。
- コンタクトガラスにセットした１枚目の原稿が読み取られたら、原稿を取り除き、手順**7**を繰り返します。

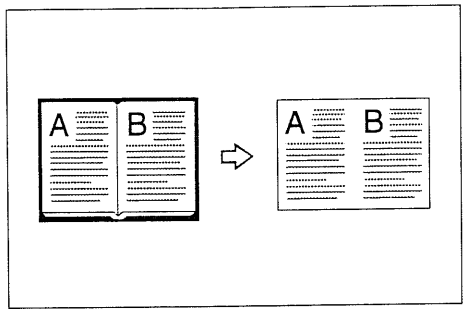
参照

原稿のセット方法はP.38 「原稿のセット」を参照してください。

SHC2copy-F_FM.book 81 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

センター／枠消去

本や雑誌などをコピーすると、中央や周囲に黒い影ができます。この影を消してコピーします。



操作の前に

センター／枠消去には、次の種類があります。

- [センター消去]
  原稿中央の影を消してコピーします。
- [枠消去]
  原稿周囲の影を消してコピーします。

消去幅の初期設定値は10mmです。

制限

- A2□B3□A3□B4□A4▯□B5▯□A5▯以外の原稿をセットすると、原稿の中央／周囲以外の部分が消去されることがあります。
- 手差しコピーはできません。

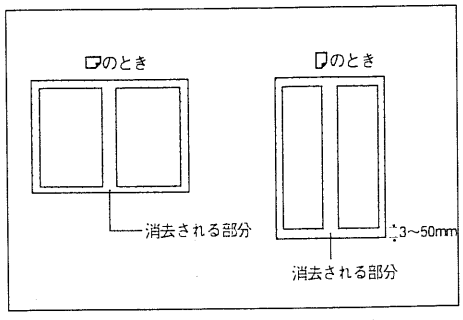
❖ こんなこともできます

- 消去幅は3～50mmの範囲内（1mm単位）で変更することができます。⇒P.120「枠消去幅設定」「センター消去幅設定」

補足

- 組み合せた変倍率によって、コピー上の消去幅は変化します。

❖ 原稿のセット方向と消去される部分



- 原稿と同じ方向の用紙を選択します。

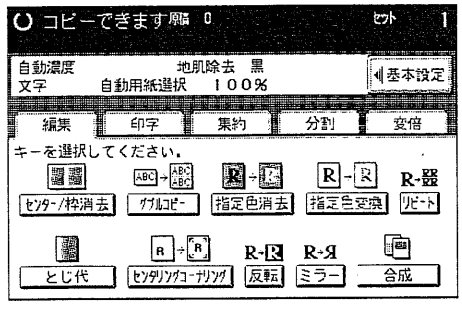
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

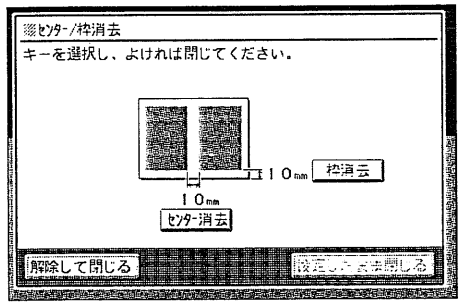
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。

3 [センター／枠消去] を押します。



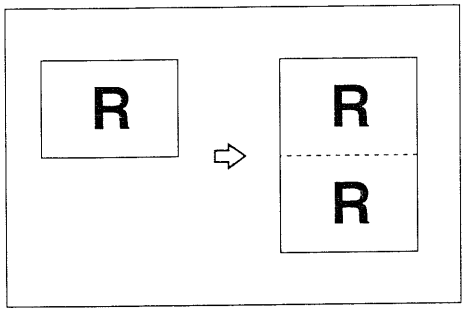
4 消去する部分（[枠消去] または [センター消去]）を選択し、[設定したまま閉じる] を押します。



5 原稿と同じ方向の用紙を選択してから、原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

ダブルコピー

1枚の原稿を1枚の用紙の上下に2つコピーします。画像を分ける仕切り線が破線でコピーされます。



制限

- A5□（またはB6□）の原稿のとき、A4□（またはB5□）の用紙に画像を90°回転させてコピーすることはできません。A4□（またはB5□）の用紙をセットしてください。
- A5□B6□はコンタクトガラスではサイズを読み取れません。手動で用紙を選択するか自動原稿送り装置（RADF）にセットしてください。

補足

- 仕切線は黒でコピーされます。

❖ こんなこともできます

- 仕切り線の種類を変えたり、なくしたりすることができます。⇒P.120「ダブルコピー仕切線設定」

❖ 原稿と用紙サイズの組み合わせ（等倍時）

原稿サイズと方向	用紙サイズと方向
A4□	A3□
A5□	A4□
B5□	B4□
B6□	B5□

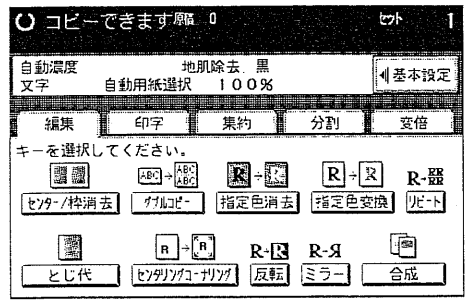
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。

3 [ダブルコピー] を押します。



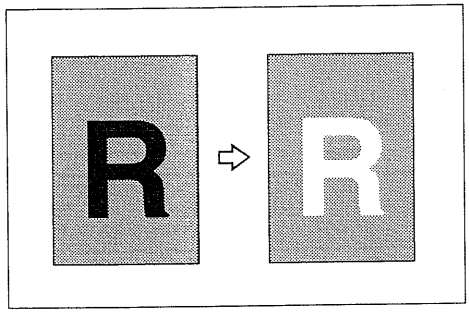
4 左下の表を参照して用紙を選択します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 83 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

指定色消去

原稿の中の指定した色を消して、赤または黒色でコピーします。



操作の前に

指定色消去には、次の種類があります。

- [赤]・[青] 消去
  画像の赤・青の部分を消して赤または黒でコピーします。
- [赤以外]・[青以外] 消去
  画像の赤以外・青以外の部分だけを赤または黒でコピーします。

制限

- 地肌除去は選択できません。

1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

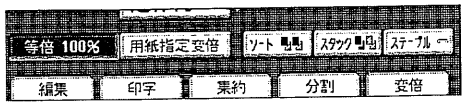
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [黒] または [赤] を押します。

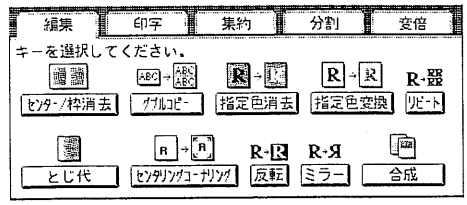
制限

- [2色（黒・赤）] を選択しても、指定色消去を設定すると [黒] が選択されます。

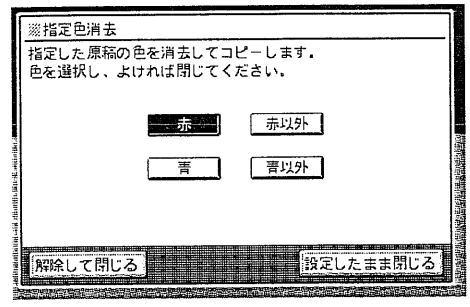
3 [編集] を押します。



4 [指定色消去] を押します。



5 消去する色を選択します。



6 [設定したまま閉じる] を押します。

7 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

- 指定色消去を設定した後、印字する色（黒・赤）を選択することもできます。

指定色変換

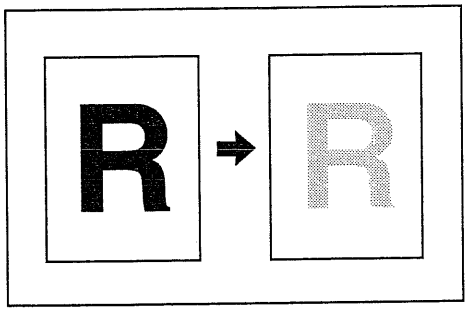
原稿画像全体の指定色を黒(赤)の指定濃度レベルに変換して用紙にコピーします。

操作の前に

選択できる色は赤または青で、変換色は、赤から赤または黒(濃度指定)、青からは黒(濃度指定)となります。

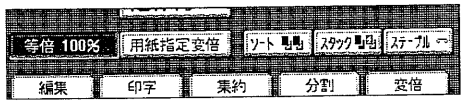
制限

❒ 地肌除去は選択できません。



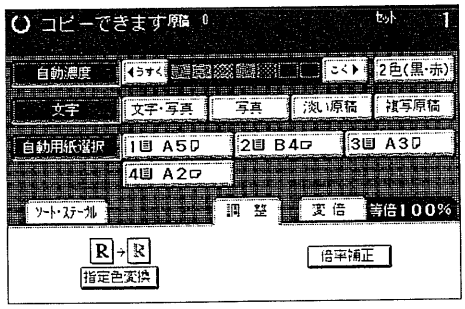
1 [2色(黒・赤)]を押します。

2 [編集]を押します。

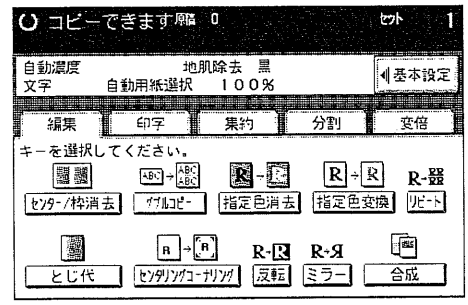


補足

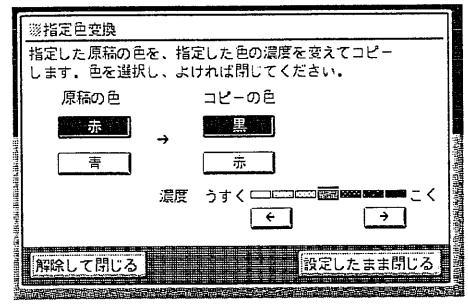
❒ シンプルメニュー画面からは、[調整]を押すと、次の画面が表示されます。



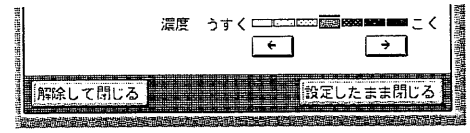
3 [指定色変換]を押します。



4 変換したい原稿の色を選択します。



5 [←] [→]を押して、濃度を指定します。



補足

❒ 濃度の指定は7段階です。

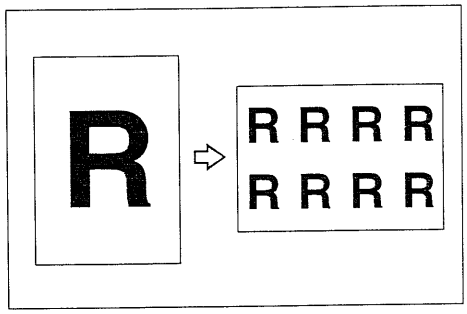
6 [設定したまま閉じる]を押します。

7 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 85 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

リピート（HDDユニットが必要）

1枚の原稿を用紙全体に繰り返しコピーします。



操作の前に

1枚の用紙にリピートできる個数は、原稿サイズ、用紙サイズ、変倍率によって決まります。

- 例：A4の原稿をA3の用紙に8つリピートしたいときは、50％の倍率を設定します。

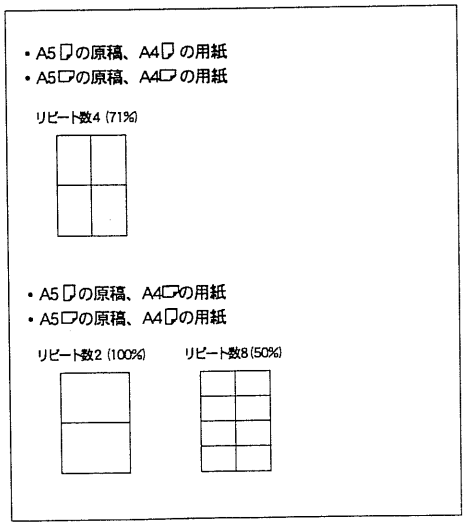
制限

- ❒ 手差しコピーはできません。
- ❒ 用紙サイズ、変倍率、用紙の方向によって、リピートした画像が欠けることがあります。
- ❒ 仕切り線は黒で印字されます。

❖ こんなこともできます

- 画像を分ける仕切り線を実線で入れることもできます。⇒P.120「集約／リピート仕切線（HDDユニットが必要）」

❖ 原稿、用紙の方向とリピート数（例）



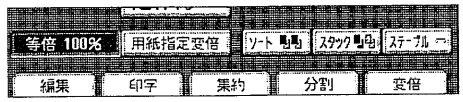
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

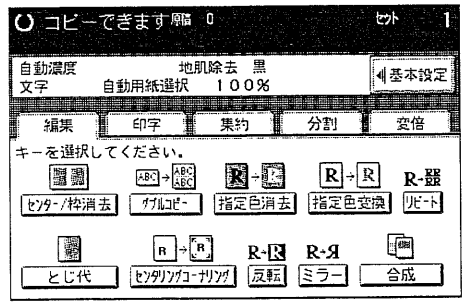
❒ シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 変倍率と用紙のサイズを選択します。

3 [編集] を押します。



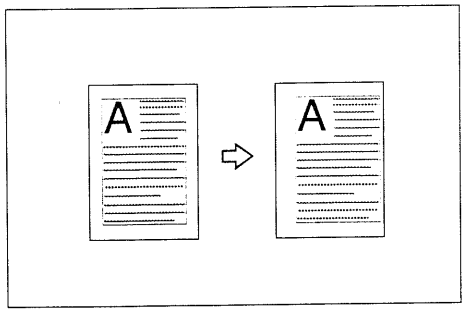
4 [リピート] を押します。



5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

とじ代

用紙の左側または右側に余白を付けてコピーします。パンチ穴やステープル用の余白を作るときに便利です。



操作の前に

とじ代は、左右0～30mmの範囲内（1mm単位）で指定できます。初期設定値は左5mmです。

制限

- 手差しコピーはできません。
- 設定したとじ代幅が大きすぎると、画像が欠けてコピーされることがあります。

こんなこともできます

- とじ代幅の初期設定値は変更することができます。⇒P.120「とじ代幅初期値設定」

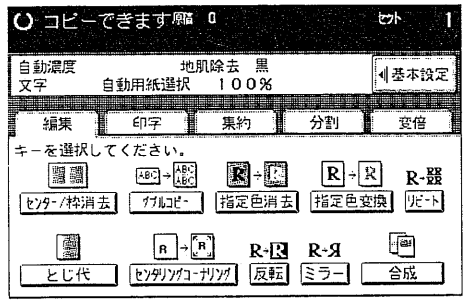
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

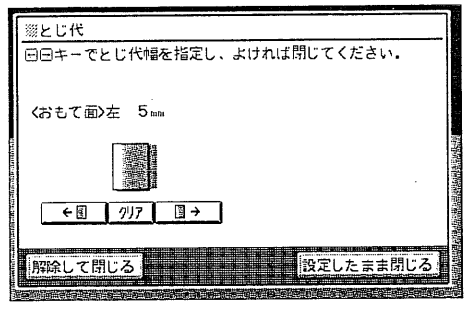
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。

3 [とじ代] を押します。



4 ←面 面→ で左または右のとじ代幅を指定し、[設定したまま閉じる] を押します。



補足

- 間違えたときは ←面 面→ で指定し直すか、[クリア] を押して「0mm」にしてから指定し直します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 87 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

センタリング／コーナリング

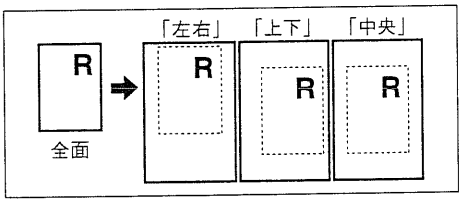
原稿全体をコピー用紙の中央やコーナーに移動してコピーします。

操作の前に

センタリングは原稿全体を用紙の中央に移動してコピーします。コーナリングは原稿全体を用紙のコーナーに移動してコピーします。

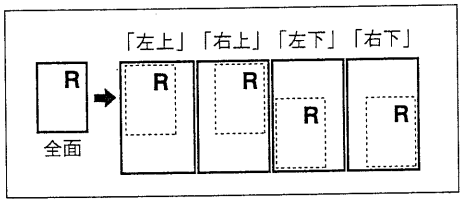
❖ センタリング

センタリングには「左右」「上下」「中央」があります。



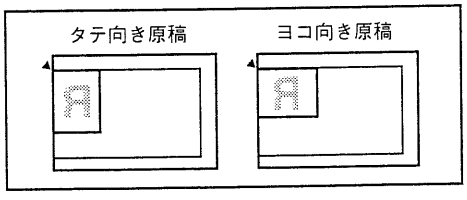
❖ コーナリング

コーナリングには「左上」「右上」「左下」「右下」があります。

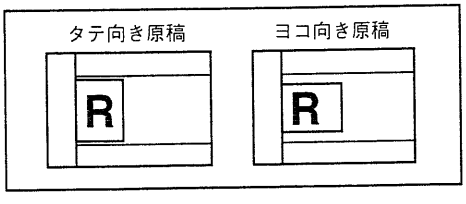


原稿は必ず次のようにセットしてください。

- コンタクトガラスにセットする場合



- 自動原稿送り装置（RADF）（オプション）にセットする場合



制限

- 手差しコピーはできません。

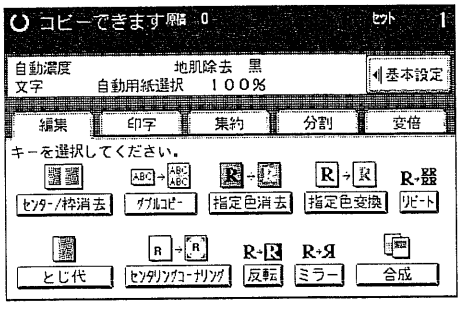
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

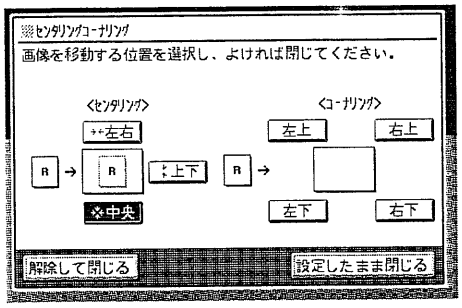
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。

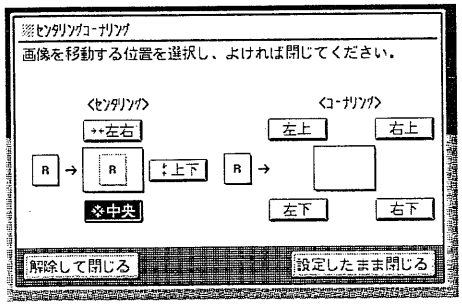
3 [センタリングコーナリング] を押します。



4 [左右]、[上下]、[中央]、[左上]、[右上]、[左下]、[右下] のどれかを押します。



5 [設定したまま閉じる] を押します。



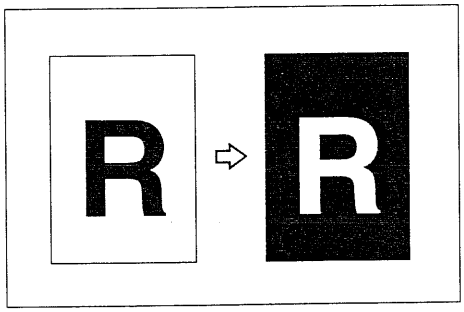
6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

反転（白黒反転）

画像の色を反転してコピーします。

制限

- 2色（黒・赤）モードを選択しているときは、赤色はそのままコピーされます。

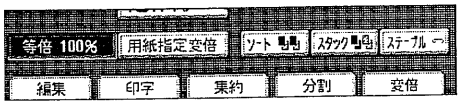


1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

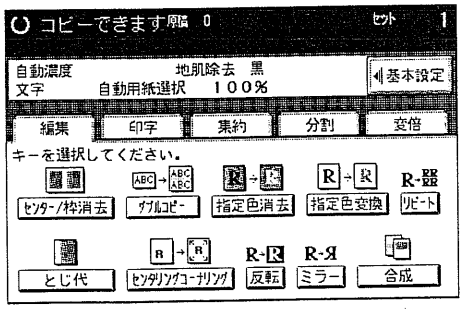
補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。



3 [反転] を押します。

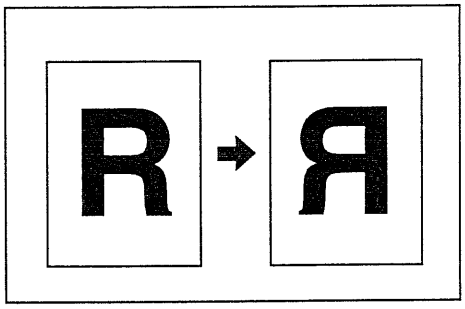


4 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

SHC2copy-F_FM.book 89 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

ミラー

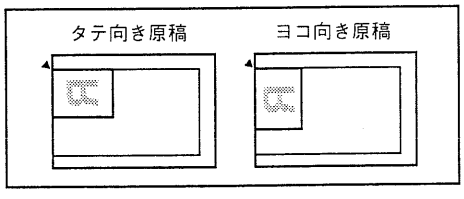
画像を鏡に映したように左右に反転させてコピーします。



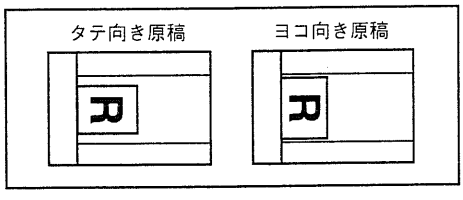
操作の前に

原稿は必ず次のようにセットしてください。

- コンタクトガラスにセットする場合



- 自動原稿送り装置（RADF）（オプション）にセットする場合



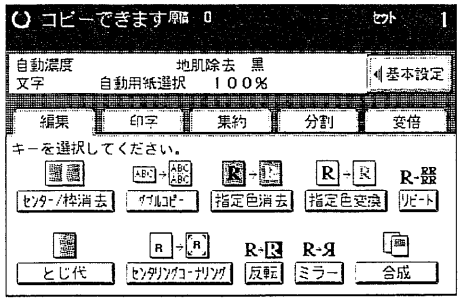
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集] を押します。

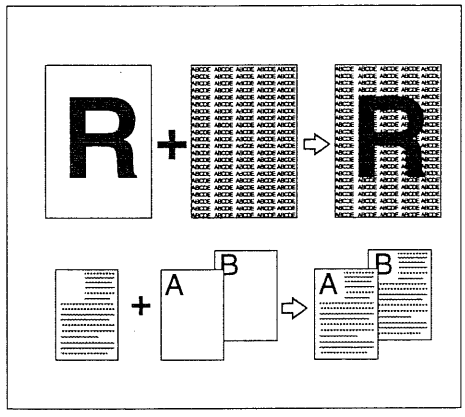
3 [ミラー] を押します。



4 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

合成

元になる原稿の画像に他の画像を重ね合わせてコピーします。



操作の前に

合成には、次の種類があります。

- [合成]
  2枚の原稿を重ね合わせてコピーします。
- [フォーマット合成] (HDDユニットが必要)
  あらかじめ登録してあるフォーマット原稿(背景原稿)を呼び出し、その上に他の原稿(合成原稿)を重ね合わせてコピーします。

制限

- 手差しコピーはできません。
- 自動原稿送り装置(RADF)に異なるサイズの原稿をセットしたときは、自動用紙選択や用紙指定変倍と組み合せることはできないため、用紙サイズを選択します。
- HDDユニットがないときは、A3までしか合成できません。

参照

フォーマット合成では、あらかじめフォーマット登録が必要です。⇒ P.91「フォーマットを登録する」

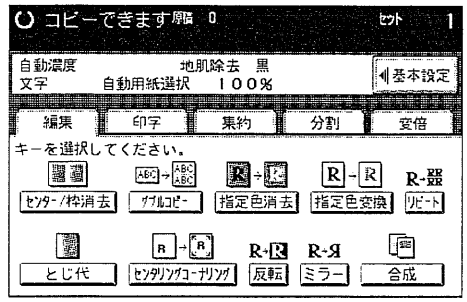
1 標準操作画面が表示されていることを確認します。

補足

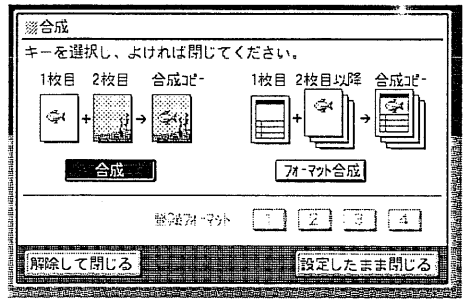
- シンプルメニュー画面が表示されているときは【画面切り替え】キーを押します。

2 [編集]を押します。

3 [合成]を押します。



4 合成の方法を選択します。



フォーマット合成をするとき

❶ [フォーマット合成]を押します。

❷ 登録してあるフォーマットの番号を押します。

5 [設定したまま閉じる]を押します。

6 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

補足

- コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、1枚目の原稿が読み取られたら、原稿を取り除き、手順**6**を繰り返します。
- 背景原稿は、【リセット/予熱】キーを押すとクリアされます。

SHC2copy-F_FM.book 91 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

❒ タテ向き原稿をよこ方向(方向)にセットする場合、コンタクトガラスとRADFでは上下逆になるので注意してください。

参照
原稿のセット方法は⇒P.70「原稿のセットと印字する位置・方向」を参照してください。

フォーマットの登録方法(HDDユニットが必要)

フォーマットを登録する

1 【初期設定】キーを押します。

2 [コピー初期設定]を押します。

3 [フォーマット登録]を押します。

4 登録する番号を選択します。

5 原稿をセットし、【スタート】キーを押します。

機能組み合わせ一覧

組み合わせに制限のある機能については、次の表を参照してください。
表に掲載されていない機能については、その機能の制限を参照してください。

先にセットする機能 ＼ 後にセットする機能	ソート	スタック	ステープル	マニュアルステープル	電子ソート	回転ソート	回転スタック	手差しコピー	分割 両面→片面	分割 見開き→片面	集約 2、4枚ごと	合成	用紙指定変倍	倍率補正	ダブルコピー	リピート	センター消去	枠消去	とじ代	センタリング／コーナリング
ソート（ステープルソーターが必要）		●						●												
スタック（ステープルソーターが必要）	●		●	×				×												
ステープル（ステープルソーターが必要）		●						●												
マニュアルステープル（ステープルソーターが必要）		●						●												
電子ソート（HDDユニットが必要）						●	●	●			×	×			×	×				
回転ソート（HDDユニットが必要）					●		●	●			×	×		×	×	×				●
回転スタック（HDDユニットが必要）					●	●		●			×	×		×	×	×				●
手差しコピー	×	×	×	×	×	×	×				×	×	×			×		×	×	×
分割 両面→片面										●	×	×								
分割 見開き→片面								×	●				×			×	×			×
集約 2、4枚ごと（HDDユニットが必要）					×	×	×		×			×	×			×	×	×		×
合成（HDDユニットがない場合は制約あり）					×	×	×	×	×		×					×				
用紙指定変倍								×		×	×									
倍率補正						●	●													
ダブルコピー					×	×	×				×						×	×		
リピート（HDDユニットが必要）					×	×	×	×		×	×	×								×
センター消去										×	×				×					
枠消去								×			×				×					
とじ代								×												
センタリング／コーナリング						×	×	×		×	×					×				

無印：組み合わせ可
×：組み合わせ不可（先に設定した機能が優先）
●：組み合わせ不可（後から設定した機能が優先）
▒：組み合わせ不可（同時選択不可）

3. こんなときには

コピーが始められないとき

メッセージが表示されたとき

おもなメッセージについて説明します。

その他のメッセージが表示されたときは、メッセージに従って対処してください。

メッセージ	状態・原因	対処方法
【リセット／予熱】キーのランプが点灯して画面の表示が消えている。	予熱が設定されています。	**【リセット／予熱】**キーを押して予熱を解除してください。
'おまちください'が表示されている。	電源スイッチを「On」にしたときには、コピーを始められるまで約180秒かかります。	そのままでお待ちください。
原稿サイズがわかりません。	不適切な原稿がセットされています。⇒P.24「サイズを読み取りにくい原稿」	不適切な原稿のとき、用紙の選択は「自動用紙選択」を使わず給紙トレイのキーで、拡大／縮小コピーは「用紙指定変倍」以外の方法で行ってください。
	原稿がセットされていません。	原稿をセットしてください。
用紙サイズを確認してください。	A2▭B3▭A3▯▭ B4▯▭A4▯▭B5▯ ▭A5▯▭ B6▭以外の原稿をセットしています。	**【スタート】**キーを押すと選択されている用紙にコピーされます。
この用紙サイズはソートできません。	ソートできない用紙を選択しています。	ステープルソーターでソートできる用紙はA3～A5です。このサイズの用紙を選択してください。
ステープルできる用紙はA3～B5です。この用紙サイズはステープルできません。	ステープルできない用紙を選択しています。	ステープルできる用紙はA3～B5です。このサイズの用紙を選択してください。
原稿をセットし直してください。	SADFモードで2枚以上の原稿をセットしています。	原稿を1枚セットしてください。
DFカバーを閉じてください。	自動原稿送り装置（RADF）の原稿挿入カバーまたは原稿排出カバーが開いています。	原稿挿入カバーまたは原稿排出カバーを閉じ、RADFを1度開けてから閉めてください。

メッセージ	状態・原因	対処方法
ステープルは解除されました。	用紙のサイズを変更しました。	同じサイズの用紙にしかステープルできません。同じサイズの用紙を選択してください。
	自動用紙選択のときに原稿のサイズを変更しました。	同じサイズの用紙にしかステープルできません。同じサイズの原稿をセットするか、同じサイズの用紙を選択してください。
	ステープルできる枚数を超えました	ステープルできる枚数は20枚までです。
	右上とじを選択していますが、原稿と逆方向の用紙がありません。	原稿と逆方向の用紙をセットしてください。
	自動原稿送り装置（RADF）に原稿が1枚しかセットされていません。	原稿の枚数を確認してください。
コピー枚数はxxx枚までです。	コピー枚数の上限を超えています。	一度にコピーする枚数の上限を変更することができます。 参照 ⇒P.119「コピーセット枚数制限設定」
カラーの現像ユニットをセットしてください。	カラー現像ユニットが正しくセットされていません。	正しくセットし直してください。 参照 ⇒P.112「赤のコピーがきれいにとれないとき」
サービスコール	—	主電源スイッチを「Off」「On」し直してください。この操作を繰り返しても動作しないときは、弊社製品取り扱い店に連絡してください。

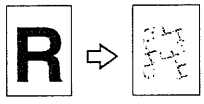
上記以外のメッセージが表示されたときは、メッセージに従って対処してください。

SHC2copy-F_FM.book 95 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

コピーがきれいにとれないとき

コピーがきれいにとれないときの原因と対処方法を説明します。

状態	原因	対処方法
地肌が汚れている。	コピー濃度が濃く設定されています。	コピー濃度を調整してください。⇒P.43「コピー濃度調整」
	[地肌除去] が反転していません。	[地肌除去] を押してください。
原稿の裏面が透けてコピーされる。	コピー濃度が濃く設定されています。	コピー濃度を調整してください。⇒P.43「コピー濃度調整」
	[地肌除去] が反転していません。	[地肌除去] を押してください。
貼り合わせた部分に影が付く。	コピー濃度が濃く設定されています。	コピー濃度を調整してください。⇒P.43「コピー濃度調整」 原稿のセット方向を変えてください。 貼り合わせた部分にメンディングテープを使用してください。
原稿にないものがコピーされる。	コンタクトガラス、圧板または自動原稿送り装置（RADF）ベルトが汚れています。	コンタクトガラス、圧板、または自動原稿送り装置（RADF）ベルトを清掃してください。⇒P.132「清掃のしかた」
かすれてコピーされる。	コピー濃度が薄く設定されています。	コピー濃度を調整してください。⇒P.43「コピー濃度調整」
	不適切な用紙をセットしています。	当社推奨の用紙に替えてください。 **補足** コ 目の粗い用紙や表面が加工されている用紙、縁取り用紙、湿気を含んだ用紙にコピーするとかすれてコピーされることがあります。
	トナーが少なくなっています。	早めにトナーを交換してください。⇒P.103「トナーがなくなったとき」
	原稿先端部にベタ部があります。	原稿の先端と後端の向きを変えて、コピーしてください。
コピー画像が欠ける。	原稿のセット位置が間違っています。	原稿を正しくセットしてください。⇒P.38「原稿のセット」
	適切なサイズの用紙を選択していません。	適切なサイズの用紙を選択し直してください。⇒P.24「用紙選択」
コピーされない。	原稿のセット面が間違っています。	コンタクトガラスにセットするときはコピーする面を下に、自動原稿送り装置（RADF）にセットするときはコピーする面を上にします。⇒P.38「原稿のセット」

状態	原因	対処方法
モアレが発生している。 	モアレは画像を処理するときに規則正しく配列された網点、または線が重なりあって発生します。	原稿のセット方向を変えるとモアレを防げることがあります。 ［文字・写真］でコピーするとモアレが目立たなくなります。
コピーした赤の画像にむらがでる。	カラー現像ユニットのカラー現像ローラーに触れました。	カラー現像ローラーを清掃してください。 参照 ⇒P.112「赤のコピーがきれいにとれないとき」
用紙の先端・後端近くでコピーした赤の画像ににじみがでる。	特定の再生紙で低温低湿などの条件で発生します。	定着の切り替えを「はがき」にしてコピーしてください。
OHPフィルムを手差しコピーしたときに先端に白いムラがでる。	重なり合っているOHPフィルムが摩擦を起こしています。	OHPフィルムを1枚ずつセットしてください。

SHC2copy-F_FM.book 97 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

思いどおりにコピーされないとき

機能がうまく使えないときのおもな原因と対処方法を説明します。

状態	原因	対処方法
ページが分割されてソートされる。	途中でメモリーがいっぱいになり、分割して排出しました。	メモリーがいっぱいになった時点でコピーを中断するようにできます。 参照 ⇒P.129「ソート全数読み取り（自動原稿送り装置（RADF）が必要）」
ステープルされない。	ステープラーの針がつまっています。	つまっている針を取り除いてください。 参照 P.110「ステープラーの針がつまったとき」。
	ステープルできる枚数を超えています。	ステープルできる枚数は20枚までです。
ステープルの位置が違う。	原稿のセット方向と選択したステープルの位置が合っていません。	原稿を正しくセットしてください。⇒P.47「ステープル」
たびたび紙がつまる。	用紙サイズの設定が間違っています。	用紙サイズを設定してください。 参照 ⇒P.33「用紙サイズの変更」
複数の機能を設定したとき、設定されない機能がある。	組み合わせることのできない機能を設定しています。	機能の組み合わせを確認し、設定し直してください。 参照 ⇒P.92「機能組み合わせ一覧」
ソート時、原稿の読み取りが途中で止まる。	メモリーがいっぱいになっています。	**【スタート】**キーを押すと、読み取ったページまでのコピーが排出されます。コピーを取り除き、画面のメッセージにしたがってコピーを続けてください。 参照 ⇒P.129「ソート全数読み取り（自動原稿送り装置（RADF）が必要）」
設定したい機能が画面に表示されない。	シンプルメニュー画面が表示されています。	**【画面切り替え】**キーを押して標準操作画面を表示させてください。

❖ 編集

状態	原因	対処方法
ダブルコピーで画像が欠ける。	原稿と用紙サイズの組み合わせが間違っています。	A5□の原稿はA4□の用紙に、B6□の原稿はB5□の用紙にコピーしてください（等倍時）。
センター消去や枠消去で画像が欠ける	消去幅の値を大きく設定しています。	コピー初期設定で、消去幅の値を小さく設定し直してください。3～50mmの範囲で設定できます。 参照 「枠消去幅設定」⇒P.120 「センター消去幅設定」⇒P.120
	余白の少ない原稿をセットしています。	
とじ代で画像が欠ける。	とじ代幅の値を大きく設定しています。 原稿のとじ代と反対側の余白が少ない。	とじ代幅の値を小さく設定し直してください。0～30mmの範囲で設定できます。 参照 ⇒P.86「とじ代」
リピートされない。	原稿と同じサイズの用紙を選択していて、変倍率を設定していません。	原稿より大きいサイズの用紙を選択してください。
		変倍率を設定してください。

❖ 印字

状態	原因	対処方法
スタンプ印字がうまく印字されない。	原稿のセット方向が間違っています。	原稿を正しくセットしてください。 参照 ⇒P.70「スタンプ印字」
スタンプ印字で原稿の字が見えない。または重なっている。	「ベタ」で印字されています。	コピー初期設定で、スタンプの濃さを変更できます。 参照 「スタンプ条件設定」の中の「スタンプ透かし設定」を参照してください。⇒P.122
	余白の少ない原稿をコピーしようとしています。	コピー初期設定で、印字する位置を変更できます。4mm単位で変更できます。 参照 「スタンプ条件設定」の中の「スタンプ位置設定」を参照してください。⇒P.122
ユーザースタンプがうまく印字されない。	登録したときのセット位置や方向が間違っています。	コンタクトガラスの左上から32（縦）×64（横）mmの部分にある画像が登録されます。登録し直してください。 参照 「ユーザースタンプの登録／消去方法」⇒P.74
	濃度の薄い原稿が登録されています。	濃度の濃い原稿を登録し直してください。 参照 「ユーザースタンプの登録／消去方法」⇒P.74
	原稿のセット方向が間違っています。	原稿を正しくセットしてください。 参照 ⇒P.72「ユーザースタンプ印字（HDDユニットが必要）」
日付印字が設定した方向に印字されない。	ページ印字と同時に設定しています。	後から設定した機能の方向で印字されます。同じ方向を設定してください。
ページ印字が設定した方向に印字されない。	日付印字と同時に設定しています。	
日付印字がうまく印字されない。	原稿のセット方向と印字の方向が合っていません。	セット方向と印字方向の設定をし直してください。 参照 ⇒P.76「日付印字」
集約と同時にページ印字を設定すると、原稿のページ数と合わない。	集約と同時に設定すると、コピーされた用紙に対して1個所だけ印字されます。 参照 ⇒P.78「ページ印字」	原稿1枚に対して1個所だけ印字させたいときは一度ページ印字をした後で、集約を設定してください。

❖ 集約

状態	原因	対処方法
画像が欠ける、または余白ができる。	原稿と違うサイズの用紙を選択しています。	原稿と同じサイズの用紙を選択してください。 **補足** コ 変倍率を求めてから変倍と集約を設定し、コピーすることもできます。
	異なるサイズ、方向の原稿をセットしています。	異なるサイズや方向の原稿を混ぜて集約することはできません。一度コピーして、同じ原稿のサイズにしてから集約を設定してください。
順番どおりにコピーされない。	原稿をセットする順番が間違っています。	自動原稿送り装置（RADF）には、先頭ページが一番上になるように原稿をセットしてください。 コンタクトガラスには、最終ページから順に原稿をセットしてください。
	集約の数に原稿の枚数が足りません。	不足枚数分、白紙を追加しセットしてください。

SHC2copy-F_FM.book 101 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

用紙がなくなったとき

補足

❒ 用紙のサイズは変更することができます。⇒P.33「用紙サイズの変更」

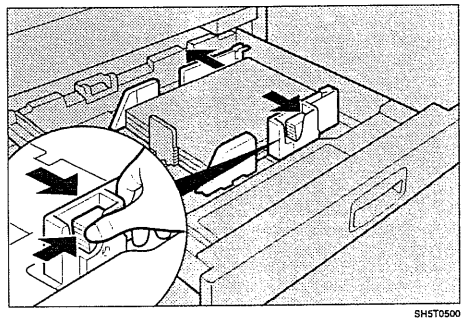
参照

セットできる用紙、サイズなど用紙について詳しくは、P.26「用紙について」を参照してください。

トレイ1〜2の用紙を補給する

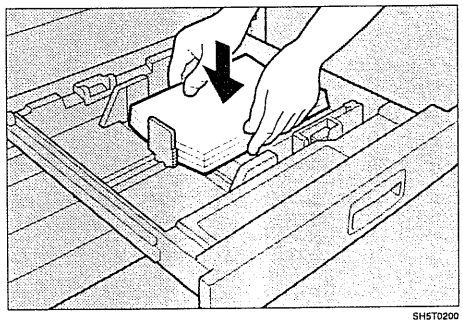
1 用紙補給が指示された給紙トレイをいっぱいに引き出します。

2 解除レバーを押さえながらサイドフェンスを開きます。



SH5T0500

3 用紙をそろえてセットします。



SH5T0200

重要

❒ 用紙の量が上限表示（▼▼）を超えないようにしてください。

補足

❒ 用紙はパラパラとほぐしてからセットしてください。

❒ カールしている用紙、そりのある用紙は直してからセットしてください。

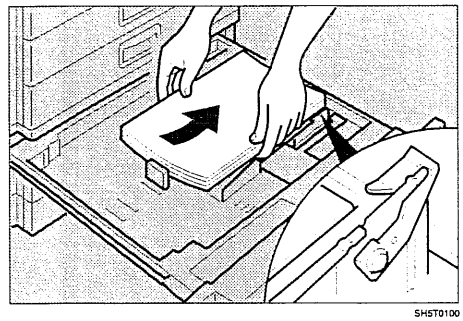
4 解除レバーを押さえながらサイドフェンスをセットした用紙にサイズを合わせます。

5 給紙トレイを元に戻します。

トレイ3〜5の用紙を補給する

1 用紙補強が指示された給紙トレイをいっぱいに引き出します。

2 用紙をそろえてセットします。



SH5T0100

重要

❒ 用紙の量が上限表示（▼▼）を超えないようにしてください。

補足

❒ 用紙はパラパラとほぐしてからセットしてください。

❒ カールしている用紙、そりのある用紙は直してからセットしてください。

用紙厚の切り替え方法

操作の前に

薄紙や厚紙 はがき などの特殊用紙を使用するときは、用紙厚の切り替えをしてください

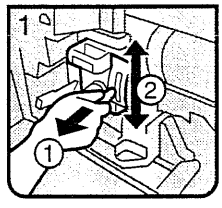
⚠ 注意

本製品内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

次の表を参照して、紙厚に応じて用紙厚と定着切り替えの切り換えを行ってください

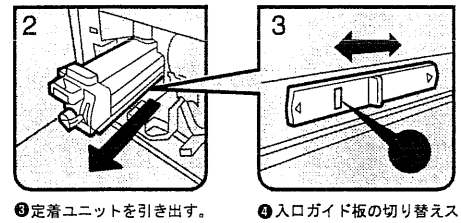
	セットする用紙種類	紙厚の目安	用紙厚レバー	定着切り替えスイッチ
薄紙	縁取り紙	50～65g/m²	薄紙	その他
普通紙	PPC用紙、上質紙等 また75g/m²等の第二原図用紙	66～95g/m²	普通紙	その他
厚紙	はがき等 また85g/m²以上の第二原図用紙	96～157g/m²	厚紙	はがき

用紙厚の切り替え



❶前カバーを開ける。
❷用紙厚切り換えレバーを引きながら「薄紙」「普通紙」「厚紙」のいずれかに切り換える。

定着の切り替え



❸定着ユニットを引き出す。
❹入口ガイド板の切り替えスイッチを「その他」「はがき」のどちらかに切り換える。

重要

❒ 特殊用紙の使用終了後は、必ず用紙厚を「普通紙」に、定着を「その他」に設定してください。

SHC2copy-F_FM.book 103 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

トナーがなくなったとき

> ⚠ 注意
> トナーまたはトナーの入った容器を火中に投じないでください。火花が飛び散り、やけどの原因となることがあります。

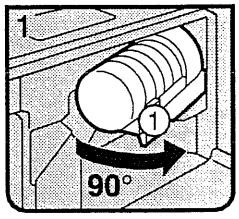
> ⚠ 注意
> トナー（使用済みトナーを含む）または、トナーの入った容器は、子供の手に触れないようにしてください。

トナーは弊社指定の製品により、安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、黒トナーは弊社指定の『ブラックトナー BK-60』、赤トナーは『レッドトナー RD-10』をご使用ください。

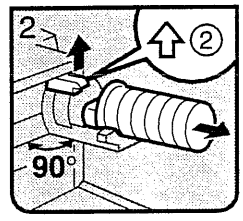
重要

- 違うタイプトナーを使うと故障の原因になります。
- 電源を入れたままトナーを交換します。電源を切ると設定した内容が取り消され、コピーを再開できません。
- トナーの保管についてはP.31「トナーについて」を参照してください。
- 使用済みのトナーは再使用できません。
- トナーの取り扱いには注意が必要です。⇒P.31「トナーについて」
- 黒トナーが残り少ない表示が出てからも約50枚出力できますが、コピーがかすれることがありますので早めに交換してください。
- 赤トナーが残り少ない表示が出てからも数回コピーできますが、コピーがかすれることがありますので早めに交換してください。
- カラー１色でコピーするときも黒トナーは必要です。残り少ないときは補給してください。
- 黒トナーがなくなると画面にメッセージが表示され、コピーできません。
- 赤トナーがなくなっても、黒色でコピーすることができます。ただし、赤色でコピーまたは2色でコピーすることはできません。

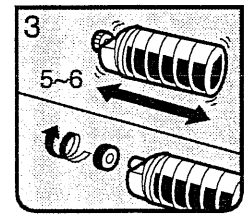
❖ 黒トナーの補給



❶前カバーを開ける。
❷トナーボトル下の①レバーを90°手前に引く。

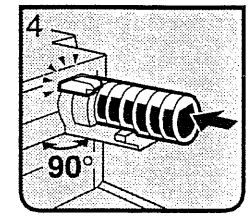


❸②のセットレバーを上げながら、トナーボトルを静かに引き抜く。

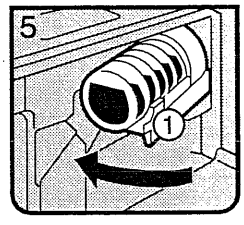


❹新しいトナーボトルは水平に5~6回振る。
❺黒いキャップを取る。

補足
●中ぶたは取らないでください。

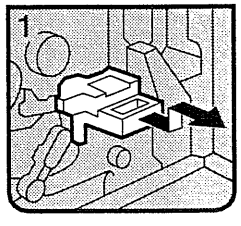


❻トナーボトルを「カチッ」と音がするまで押し込む。

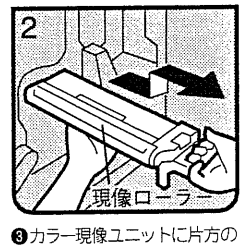


❼トナーボトル下の①レバーを元に戻す。
❽前カバーを閉める。

❖ カラートナーの補給

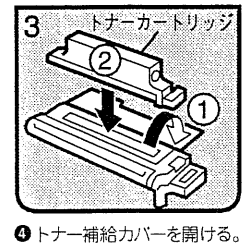


❶前カバーを開ける。
❷カラー現象ユニットを少し上へ上げてから手前に引き出す。

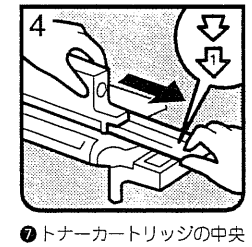


❸カラー現像ユニットに片方の手を添えて完全に引き出す。

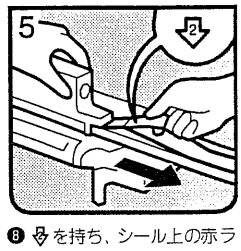
注意
●現像ローラーには手を触れないでください。コピーがきれいにとれないことがあります。



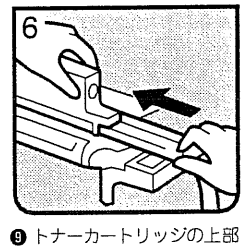
❹トナー補給カバーを開ける。
❺トナーカートリッジを水平に5～6回振る
❻トナー補給口にトナーカートリッジをセットする。



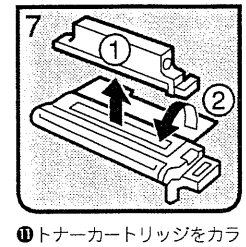
❼トナーカートリッジの中央部分を軽く押さえながら、⇩を下に押して開封板を引き出す。



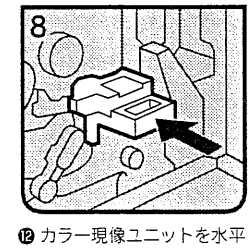
❽⇩を持ち、シール上の赤ラインが見えるまでシールを引き出す。



❾トナーカートリッジの上部を軽くたたく。
❿開封板を元に戻す。



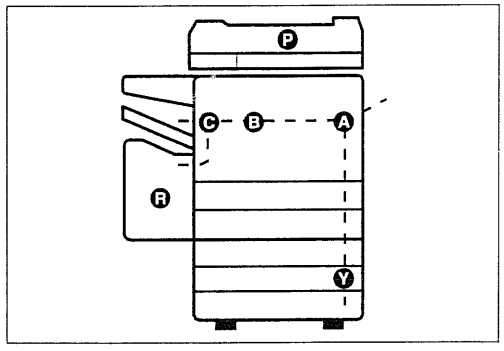
⓫トナーカートリッジをカラー現像ユニットから取り外し、トナー補給カバーを閉める。



⓬カラー現像ユニットを水平に持ち、突き当たるまで静かに押し込む。
⓭前カバーを閉める。

SHC2copy-F_FM.book 105 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

用紙や原稿がつまったとき



⚠ 警告

本製品本体内部の帯電部は高電圧です。感電のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

⚠ 注意

本製品内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。

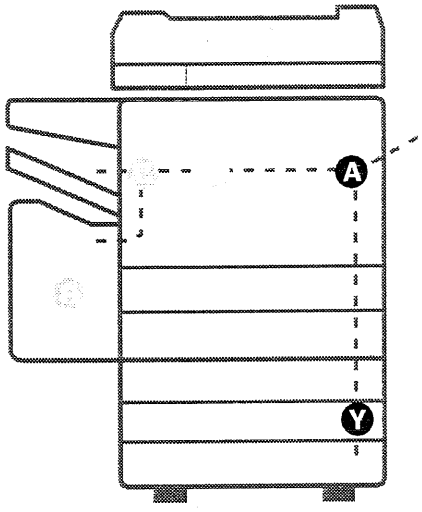
重要

- 用紙を取り除くときは電源を切らないでください。電源を切ると設定した機能や数値が取り消されます。
- 用紙は破れないように確実に取り除いてください。本体内部に紙片が残ると、再び用紙が詰まったり、故障の原因になったりします。
- 続けて何度も用紙がつまるときは、弊社製品取り扱い店に連絡してください。

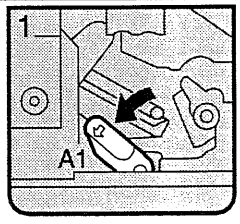
補足

- 紙づまりの個所が同時に複数表示されることがあります。このときは、表示されたすべての場所を確認してください。
- 本体の前カバーの裏側のほか、ステープルソーターのドアの内側などにも用紙がつまったときの取り除きかたを説明したシールが貼ってあります。
- 用紙を取り除いても、コピー枚数や指定した内部はそのまま表示されています。用紙を取り除いた後、前カバーを閉め【スタート】キーを押すだけでコピーを続けることができます。

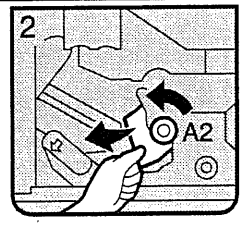
ⒶⓎ表示の場合



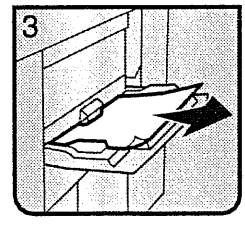
Ⓐ表示のとき



❶前カバーを開ける。
❷A1レバーを左に倒す。

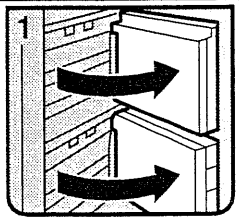


❸A2ノブを反時計回りに回し、用紙を取り除く。

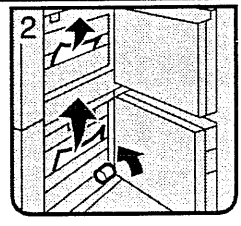


❹手差しトレイの用紙を取り除く。
❺A1レバーを元に戻し、前カバーを閉める。

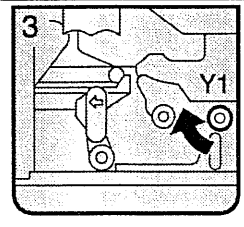
Ⓨ表示のとき



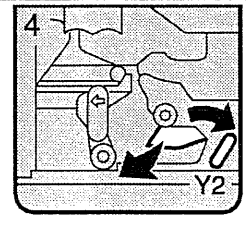
❶右サイドカバーを開ける。



❷給紙ノブを反時計方向に回し、用紙を取り除く。



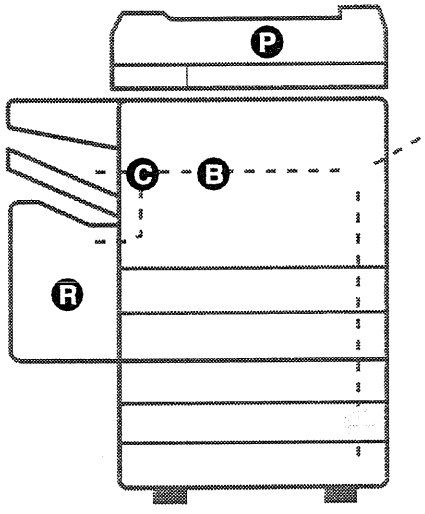
❸取り除けないときは、前カバーを開けY1ノブを時計回りに回す。



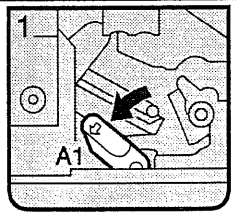
❹Y2レバーを元に倒し、用紙を取り除く。
❺Y2レバーを元に戻し、前カバーを閉める。

ⒷⒸⓅⓇ表示の場合

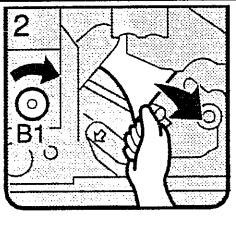
> ⚠ 注意
> 本製品内部の定着部は高温です。火傷のおそれがありますので取り扱いにご注意ください。



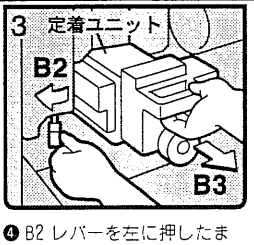
Ⓑ表示のとき



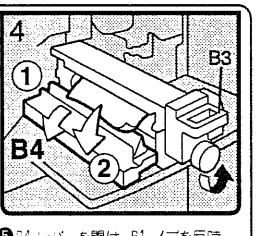
❶前カバーを開ける。
❷A1 レバーを左に倒す。



❸B1 ノブを時計回りに回し、用紙を取り除く。

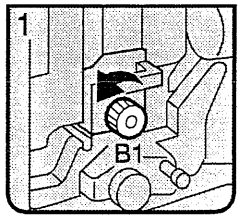


❹B2 レバーを左に押したまま、B3 の取っ手を持って、定着ユニットを引き出す。

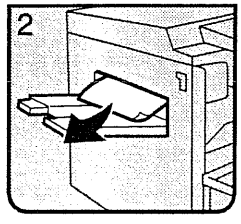


❺B4 レバーを開け、B1 ノブを反時計回りに回し、用紙を取り除く。ユニット内部に紙片が残っていないか確認する。
❻B4 レバーを元に戻し、B3 の取っ手を持って、定着ユニットを元に戻す。
❼A1 レバーを元に戻し、前カバーを閉める。

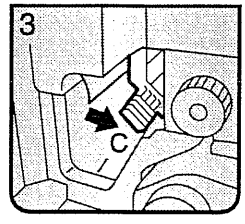
Ⓒ表示のとき



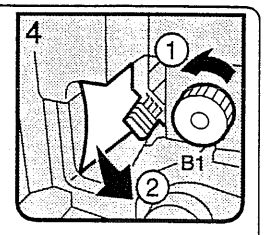
❶前カバーを開ける。
❷B1ノブを反時計回りに回す。



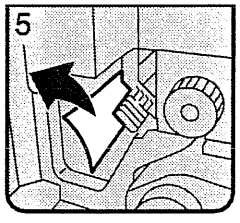
❸コピー受けに出てきた用紙を取り除く。



❹取り除けないときは、Cレバーを右に倒す。

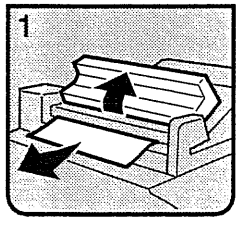


❺B1ノブを反時計回りに回しながら、用紙を取り除く。

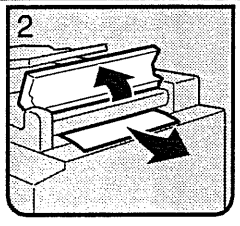


❻下からも用紙が出ているときは、その用紙も取り除く。
❼Cレバーを元に戻し、前カバーを閉める。

Ⓟ表示のとき

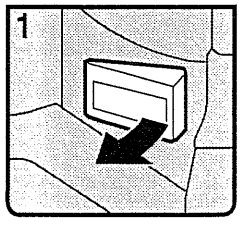


❶原稿挿入カバーを開ける。
❷原稿を取り除き、原稿挿入カバーを元に戻す。

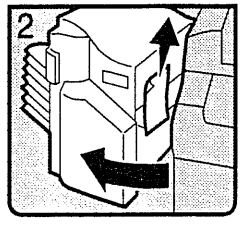


❸原稿排出部カバーを開ける。
❹原稿を取り除き、原稿排出部カバーを元に戻す。
❺RADFを開け、コンタクトガラスの上に原稿が残っていた場合には、取り除く。
❻RADFを閉める。

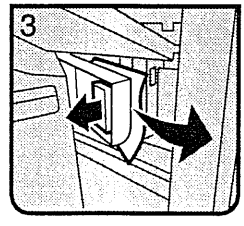
Ⓡ表示のとき



❶取っ手の内側を引いてロックを外す。



❷ステープルソーターを開け、用紙を取り除く。
❸ステープルソーターを「カチッ」と音がするまで元に戻す。



❹本体側の紙づまりのときはRレバーを引いて用紙を取り除く

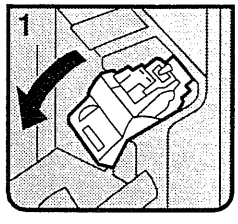
SHC2copy-F_FM.book 109 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

ステープラーの針がなくなったとき

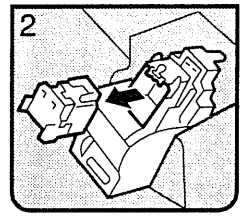
カートリッジは弊社指定の製品により、安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、弊社指定の『AS-AC10用針カートリッジ』をご使用ください。

重要

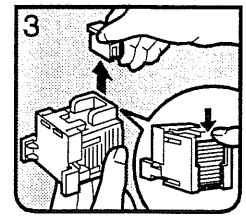
❒ 違うタイプのカートリッジを使うとステープルされなかったり、針づまりの原因になります。



❶ ステープルソーターの前カバーを開ける。
❷ ステープルユニットを手前に引き起こす。



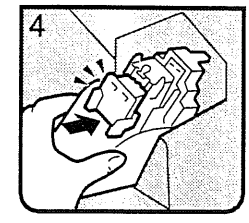
❸ カートリッジを取り外す。



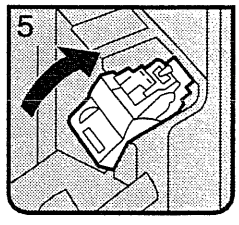
❹ 新しいカートリッジの先端を上にしてストッパーを引き抜く。

重要

- 針シートが出かかっていたら指で押し戻してください。
- 必ず<AS-AC10用針カートリッジ>をセットしてください。



❺ カートリッジの先端を上向きにし、カチッと固定されるまで押し込む。



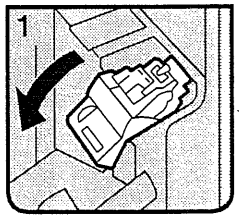
❻ ステープルユニットを元に戻す。
❼ ステープルソーターの前カバーを閉める。

ステープラーの針がつまったとき

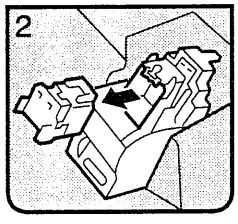
操作の前に

用紙の「そり」が原因で何度もつまることがあります。このときは用紙の表と裏を反対にセットしてください。

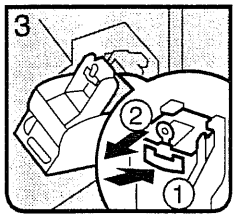
針づまり処理後、ステープルソーターが針シートの位置合わせをする間はステープルされず、5～7回ほど空打ちされます。



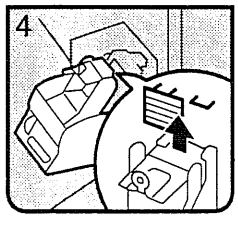
❶ステープルソーターの前カバーを開ける。
❷ステープルユニットを手前に引き起こす。



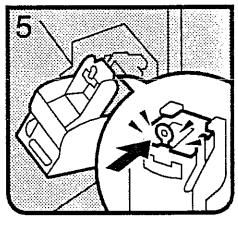
❸カートリッジを取り外す。



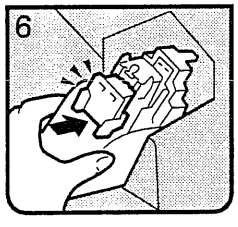
❹ツメを押しながらふたを手前に引く。



❺つまっている針と針シートを取り除く。



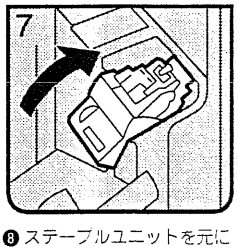
❻ふたをカチッと固定されるまで閉める。



❼カートリッジの先端を上向きにし、カチッと固定されるまで押し込む。

ヒント

●針シートが出かかっていたら指で押し戻してください。



❽ステープルユニットを元に戻す。
❾ステープルソーターの前カバーを閉める。

キーカード／キーカウンターのセット

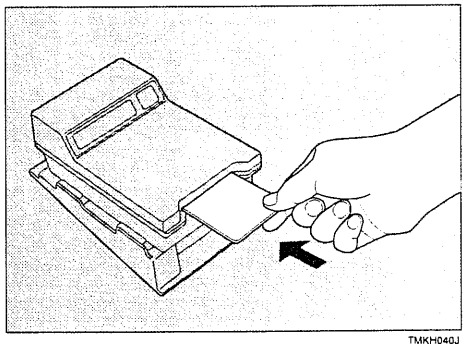
キーカード、キーカウンターのセット方法を説明します

補足

- キーカード、キーカウンターはオプションです ⇒P.139、P.140を参照してください
- 使用の認められているキーカード、キーカウンターをセットしてください

キーカードをセットする

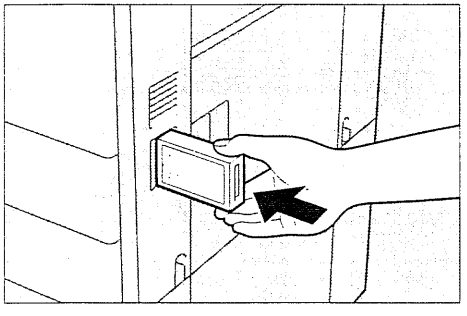
1 カードリーダーにキーカードをセットします。



TMKH040J

キーカウンターをセットする

1 キーカウンターのラベルを手前にして、本体右側のキーカウンターセット口にセットします。



赤のコピーがきれいにとれないとき

赤のコピー画像にむらが出るときは、誤ってカラー現像ローラーに触れてしまった場合です。以下に清掃方法を説明します。

操作の前に

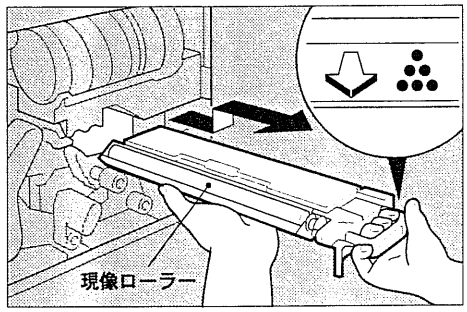
清掃する前に机を用意して、机の上で作業すると便利です。また、机にトナーが付くことがありますが、紙などを敷いておくと防ぐことができます。

本体前カバーの裏側にあるローラークリーナーを袋から取り出してください。

カラー現像ローラーの清掃

1 前カバーを静かに開けます。

2 カラー現像ユニットを少し上へ上げてから手前に引き出します。片方の手を添えて完全に引き出してください。

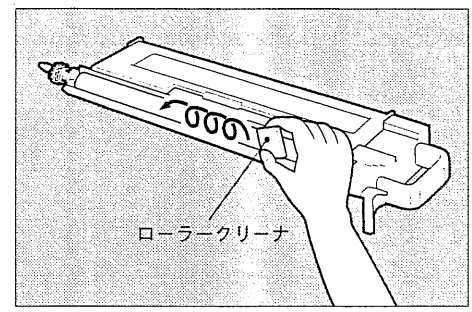


3 用意しておいた机に置きます。

4 ローラークリーナーで小さく円を書くように、表面を端から端までよくこすります。

補足

❒ トナーを補給するときなどに、現像ローラーを触ってしまった場合は触れた表面をローラークリーナーで端から端までこすってください。

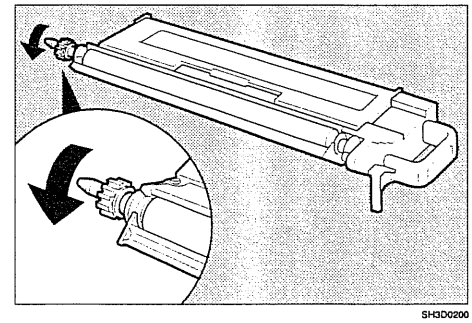


SH3D0100

5 ギヤを持ち、こすった場所が見えなくなるまで手前に回します。

重要

❒ 奥側には回さないでください。トナーが出てくることがあります。



SH3D0200

6 現像ローラーが1周するまで、手順**4**と**5**を繰り返します。

7 ローラークリーナーを元に戻します。

8 カラー現像ユニットを両手で水平にして持ち、本体にセットします。

補足

❒ 静かに突き当たるまで押し込んでください。

9 前カバーを閉めます。

SHC2copy-E_FM.book 113 ページ 2001年1月26日 金曜日 午後1時39分

コピー初期設定値の変更

通常よく使用する条件に合わせて、各機能の初期設定値を変更したり、操作の条件を設定することができます。ここでは、コピー初期設定で設定できる項目を説明します。

システム初期設定で設定できる項目については、使用説明書<システム初期設定編>を参照してください。

操作の前に

[前ページ] [次ページ] を押して画面の切り替えができます。

[前メニュー] を押すと、1つ前のメニューに戻ります。

選択したキーは反転表示されます。

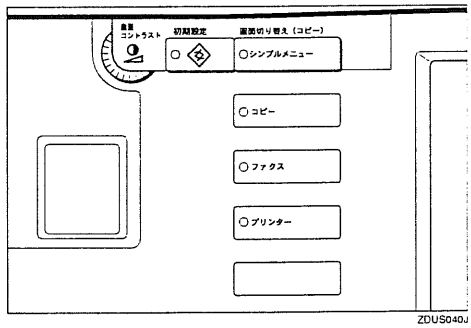
[変更]を押すと、選択または入力のための画面が表示されます。

設定が終了したら、[設定] を押します。

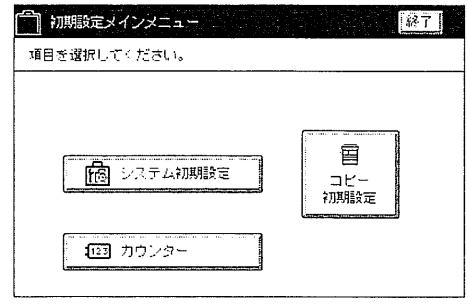
[設定] [取消] を押すと、機能を設定または取り消して1つ前の画面に戻ります。

1 コピーできる状態であることを確認します。

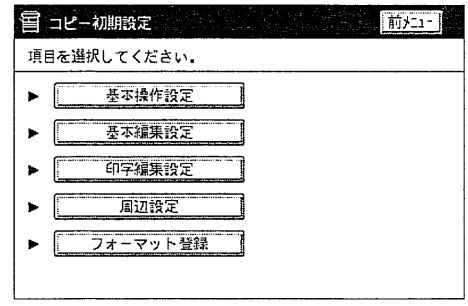
2 【初期設定】キーを押します。



3 [コピー初期設定] を選択します。



4 画面のメッセージにしたがって、初期設定値の変更や操作の条件を設定します。



参照

設定・変更できる機能や方法については、P.118「コピー初期設定の項目」を参照してください。

初期設定の終了

1 【初期設定】キーを押します。

初期設定値の変更が終了してコピーできる状態に戻ります。

補足

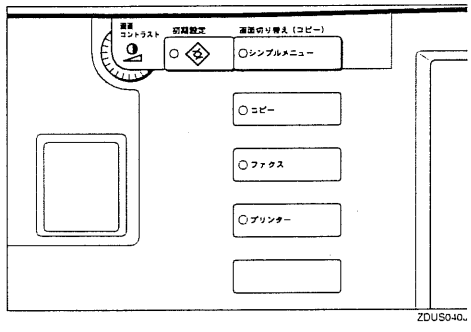
- 初期設定メインメニューの画面内の [終了] または【リセット／予熱】キーを押しても終了できます。

初期設定値のオールクリア

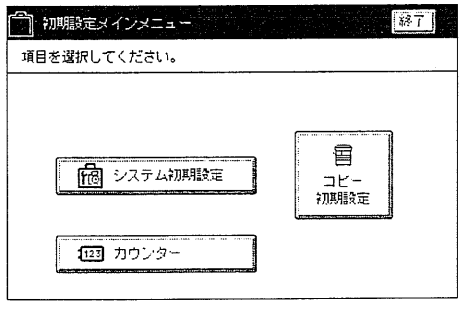
コピー初期設定のすべての設定値を、工場出荷値に戻します。

1 コピーできる状態であることを確認します。

2 【初期設定】キーを押します。



3 【#】キーを押しながら、[コピー初期設定]を選択します。



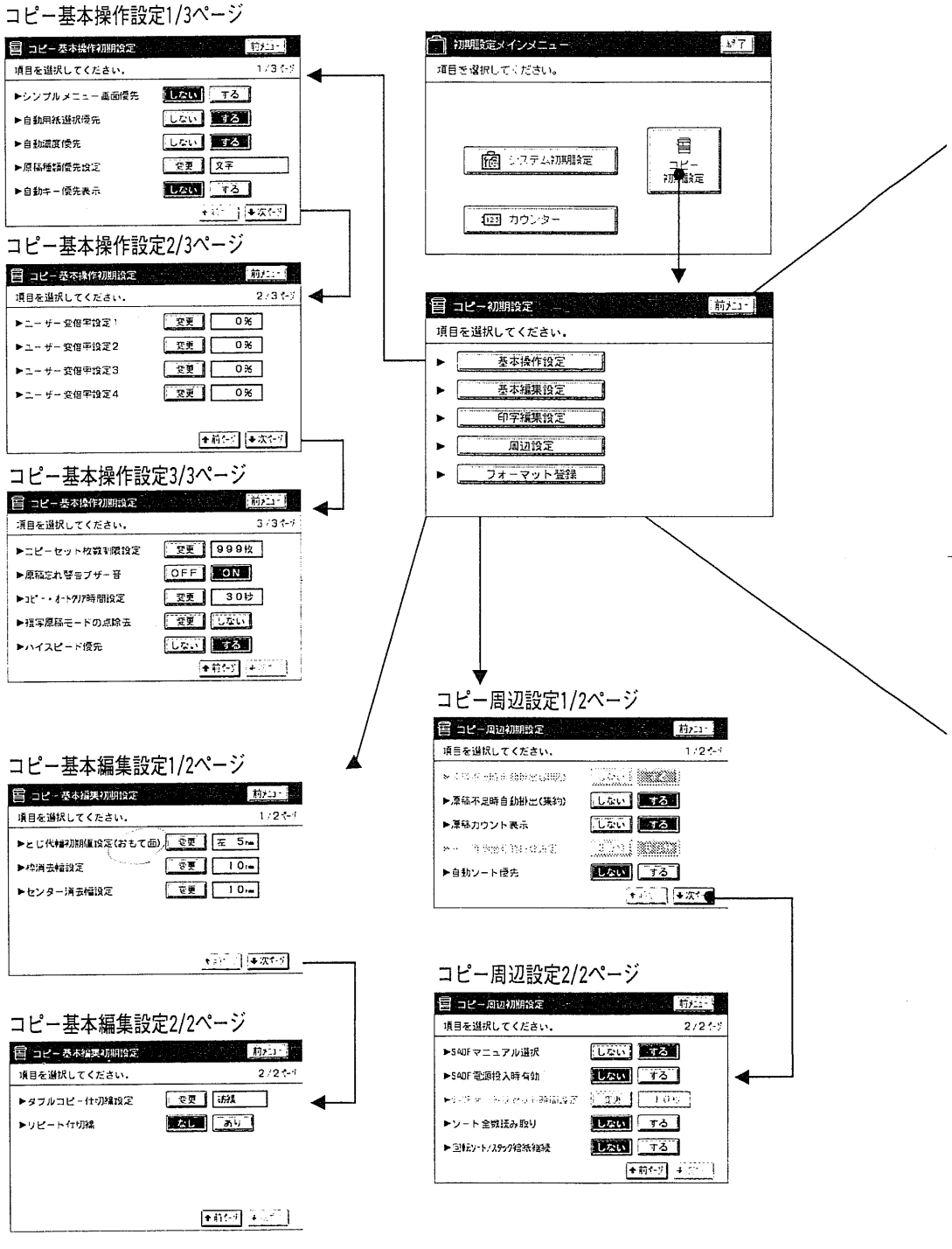
4 クリアするときは［はい］を押します。すべての初期設定値が工場出荷値に戻ります。

クリアしないときは［いいえ］を押します。

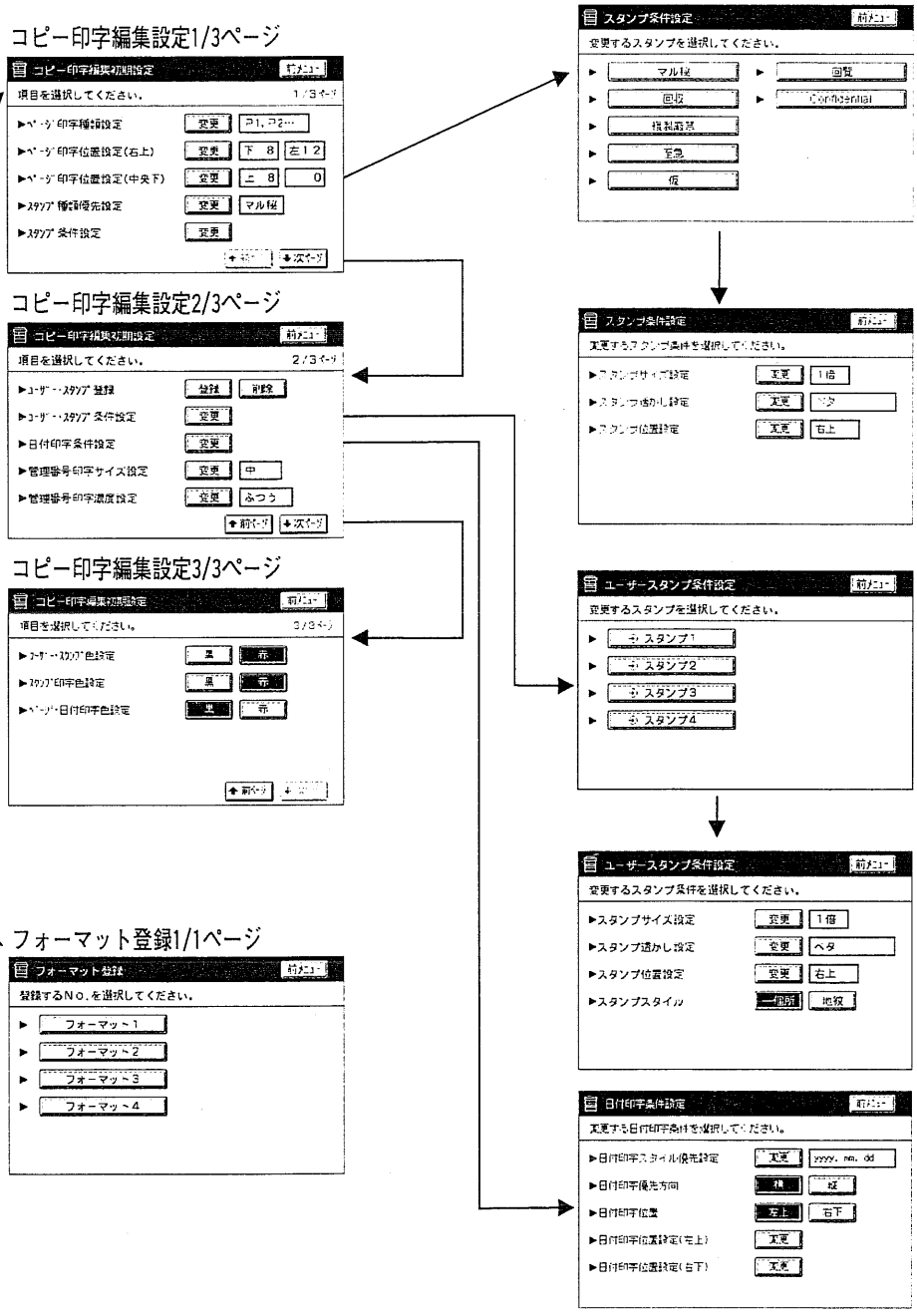
SHC2copy-F_FM.book 115 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

SHC2copy-F_FM.book 116 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

機能一覧図（コピー初期設定）



SHC2copy-F_FM.book 117 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分



4

補足

❒ 画面の表示内容は増設しているオプションによって異なります

コピー初期設定の項目

設定したい項目を表示させる方法は、P.113「コピー初期設定値の変更」を参照してください。

補足

コ ＿＿は工場出荷時の値です

コピー基本操作設定1/3

❖ **シンプルメニュー画面優先**

電源を入れた直後に予熱が解除されたときや、オートクリアされたとき、【コピー】キーを押してコピー機能に切り替わったときに、シンプルメニュー画面が優先して表示されるようにするかしないかを選択します。

- する
- しない

❖ **自動用紙選択優先**

電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、自動用紙選択が設定されるようにするかしないかを設定します。

- する
- しない

❖ **自動濃度優先**

電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、自動濃度が設定されるようにするかしないかを選択します。

- する
- しない

❖ **原稿種類優先設定**

電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、設定される原稿の種類を変更します。

- 文字
- 文字・写真
- 写真
- 複写原稿
- 淡い原稿
- 文字（線画）

❖ **自動キー優先表示**

自動濃度および自動用紙選択を設定したとき、設定値を変更できるタッチキーを表示するかしないかを選択します。

- する
- しない

SHC2copy-F_FM.book 119 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

コピー基本操作設定2/3

❖ ユーザー変倍率設定1～4
固定倍率以外でよく使用する倍率を4つまで登録しておくことができます。また、登録した倍率を変更することもできます。
「0」を入力すると未設定になります。

- 40～400%の範囲（１%単位）
- 0%

コピー基本操作設定3/3

❖ コピーセット枚数制限設定
連続コピーできる枚数の上限を変更します。

- １～999の範囲（１枚単位）
- 999枚

❖ 原稿忘れ警告ブザー音
原稿の取り忘れを警告するブザー音を鳴らすか鳴らさないかを選択します。
「ブザー音」の「すべて」を選択すると、この機能は無効になります。⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「ブザー音」

- ON
- OFF

❖ コピー・オートクリア時間設定
オートクリアされるまでの時間を設定します。
「0秒」を指定するとオートクリアされません。

- 0～180秒の範囲（10秒単位）
- 30秒

❖ 複写原稿モードの点除去
複写原稿モードを選択したとき、画像上の点状の小さな汚れを除去するレベルを設定します。

- しない
- 弱
- 中
- 強

❖ ハイスピード優先
電源を入れた直後に予熱が解除されたとき、オートクリアされたとき、【コピー】キーを押してコピー機能に切り替わったときに、ハイスピードを優先するかどうかを選択します。

- する
- しない

SHC2copy-F_FM.book 120 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

コピー基本編集設定1/2

❖ とじ代幅初期値設定（おもて面）
コピーのおもて面に設定されるとじ代幅の初期設定値を変更します。

- 0～30mmの範囲（1mm単位）
- 左5mm

❖ 枠消去幅設定
枠の消去幅を変更します。

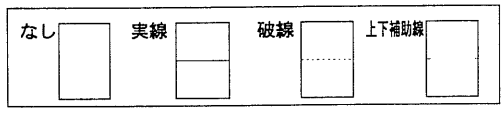
- 3～50mmの範囲（1mm単位）
- 10mm

❖ センター消去幅設定
センターの消去幅を変更します。

- 3～50mmの範囲（1mm単位）
- 10mm

コピー基本編集設定2/2

❖ ダブルコピー仕切線設定
ダブルコピーの仕切り線の種類を変更します。



- なし
- 実線
- 波線
- 上下補助線

❖ 集約／リピート仕切線（HDDユニットが必要）
集約やリピートをするときに画像を分ける仕切り線（実線）を入れるか入れないかを選択します。

- あり
- なし

SHC2copy-F_FM.book 121 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

コピー印字編集設定1/3

❖ ページ印字種類設定

ページ印字の初期値を変更します。

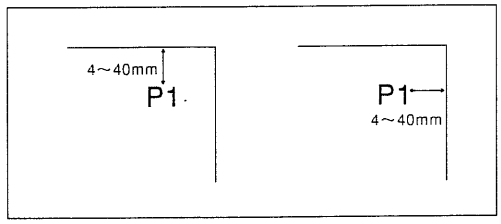
- P1,P2•••
- 1/5,2/5,•••
- -1-,-2-•••

❖ ページ印字位置設定（右上）

ページを右上に印字するときの上下、左右の位置を調整します。

補足

❒ 右上に印字できるのはP1,P2または1/5,2/5のパターンです。



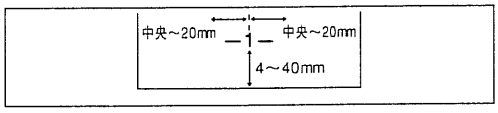
- [上][下]で指定
  - 4～40mmの範囲（4mm単位）
  - 下8mm
- [左][右]で指定
  - 4～40mmの範囲（4mm単位）
  - 左12mm

❖ ページ印字位置設定（中央下）

ページを中央に印字するときの上下、左右位置を調整します。

補足

❒ 中央に印字できるのは-1-のパターンです。



- 4～40mmの範囲（4mm単位）
- 上8mm

❖ スタンプ種類優先設定

電源を入れた直後など、優先的に選択されるスタンプの種類を変更します。

- マル秘
- 回収
- 複製厳禁
- 至急
- 仮
- 回覧
- Confidential

❖ スタンプ条件設定

スタンプ印字の印字条件を設定・変更します。

❖ スタンプサイズ設定

印字するスタンプ領域の大きさを変更します。

- [１倍]
- [２倍]
- [４倍]
- [８倍]

補足

❒ 1倍•••約32×64mm

❖ スタンプ透かし設定

印字するスタンプの透かしのパターンを変更します。

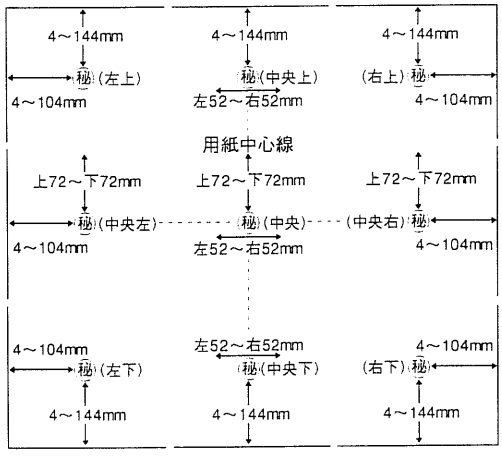
- [ベタ]
- [透かし（細かい）]
- [透かし（粗い）]

補足

- ベタ
  原稿の画像の上にスタンプが印字され、重なった部分の画像は見えません。
- 細かい
  下の原稿の画像が透けて見えます。
- 粗い
  「細かい」よりも画像がさらに透けて見えます。

❖ スタンプ位置設定

- 印字する位置を変更したり、上下、左右の位置を調整することができます。



- 設定値は等倍時の数値です。
- タテ印字で右下、中央下、左下に印字する場合、下位置設定値が8mm以下の時は12mmの位置になります。
- スタンプ位置を選択
  - [左上]

SHC2copy-F_FM.book 123 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

- [中央上]
- [右上]
- [中央左]
- [中央]
- [中央右]
- [左下]
- [中央下]
- [右下]

• [上] [下] [左] [右] で指定
  - 上下 1 ～144mm、左52～右52mmの範囲（4 mm単位）
  - 右上（下24mm右24mm）

補足

❒ 指定範囲は次のとおりです。
- 左上のとき　下4～下144mm右4～右104mm
- 中央上のとき　下4～下144mm左52～右52mm
- 右上のとき　下4～下144mm左104～左4mm
- 中央左のとき　上72～下72mm右4～右104mm
- 中央のとき　上72～下72mm左52～右52mm
- 中央右のとき　上72～下72mm左104～左4mm
- 左下のとき　上144～上4mm右4～右104mm
- 中央下のとき　上144～上4mm左52～右52mm
- 右下のとき上144～上4mm左104～左4mm

コピー印字編集設定2/3

❖ ユーザー・スタンプ登録

(HDDユニットが必要)

好みのデザインをユーザースタンプとして登録・変更・消去できます。⇒P.74「ユーザースタンプの登録／消去方法（HDDユニットが必要)」を参照してください。

- 登録
  登録できるスタンプは［スタンプ1］～［スタンプ4］までです。
- 削除

❖ ユーザー・スタンプ条件設定

(HDDユニットが必要)

ユーザースタンプ（1～4）の印字条件を設定・変更します。

❖ スタンプサイズ設定

印字するユーザースタンプの大きさを変更します。

- ［1倍］
- ［2倍］
- ［4倍］
- ［8倍］

補足

- 1倍...32×64mm。
- スタンプサイズを［2倍］［4倍］［8倍］に設定して、日付印字と合成を設定したとき、サイズが変わるのはユーザースタンプだけです。合成される日付印字の印字サイズは変わりません。

❖ スタンプ透かし設定

印字するユーザースタンプの透かしのパターンを変更します。

- ［ベタ］
- ［透かし（細かい)］
- ［透かし（粗い)］

参照

濃さについてはスタンプ条件設定のP.124「スタンプ透かし設定」を参照してください。

❖ スタンプスタイル
ユーザースタンプを1箇所に印字するか地紋のように印字するかを選択します。

- [一箇所]
- [地紋]

補足

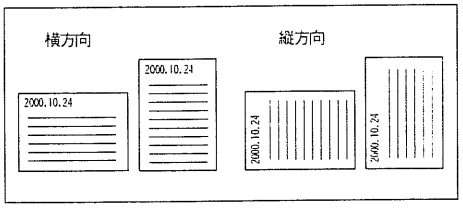
コ 地紋...用紙全体に地紋として複数印字します。

❖ 日付印字条件設定
日付印字の条件を設定・変更します。

❖ 日付印字スタイル優先設定
日付印字のスタイルを変更します。

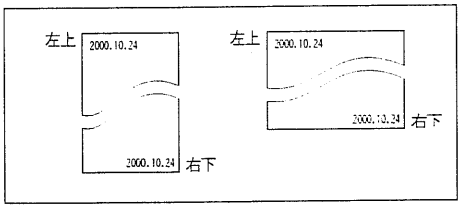
- [yyyy.mm.dd]
- [yyyy年mm月dd日]

❖ 日付印字優先方向
日付を印字する方向を選択します。



- [横]
- [縦]

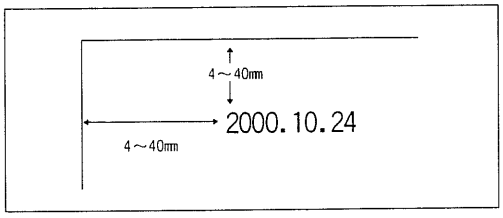
❖ 日付印字位置
日付を印字する位置を設定・変更します。



- [左上]
- [右下]

❖ 日付印字位置設定（左上）

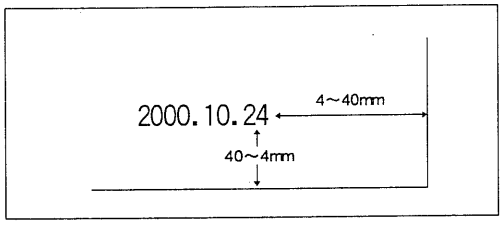
左上に日付を印字するとき、上下、左右の位置を調整します。



- ［上］［下］で指定
  - ４～40mmの範囲（４mm単位）
  - 下８mm
- ［左］［右］で指定
  - ４～40mmの範囲（４mm単位）
  - 右20mm

❖ 日付印字位置設定（右下）

右下に日付を印字するとき、上下、左右の位置を調整します。



- ［上］［下］の指定
  - ４～40mmの範囲（４mm単位）
  - 上８mm
- ［左］［右］の指定
  - ４～40mmの範囲（４mm単位）
  - 左12mm

❖ 管理番号印字サイズ設定

印字する管理番号の大きさを変更します。

- 大
- 中
- 小

補足

❒ 大...約47×31mm、中...約24×16mm、小...約6×4mm（管理番号が「0」のとき）

❖ 管理番号印字濃度設定

印字する管理番号の濃さを変更します。

- うすい
- ふつう
- ややこい
- こい

コピー印字編集設定3/3

❖ ユーザー・スタンプ色設定
(HDDユニットが必要)
印字するユーザースタンプの色を変更します

- 黒
- 赤

❖ スタンプ印字色設定
印字するスタンプの色を変更します。

- 黒
- 赤

❖ ページ・日付印字色設定
印字するページと日付の色を変更します。

- 黒
- 赤

コピー周辺設定1/2

❖ 原稿不足時自動排出（集約）
(HDDユニットが必要)
自動原稿送り装置(RADF)で集約コピーするとき、原稿が設定した集約数より少ない場合、コピーするかしないかを選択します。

- する
- しない

補足
❐ コンタクトガラスまたは自動原稿送り装置(RADF)に1枚ずつ原稿をセットしてコピーする場合、この機能は無効です。

❖ 原稿カウント表示（自動原稿送り装置（RADF）が必要）
何枚目の原稿をコピーしているかの表示をするかしないかを選択します。

- する
- しない

❖ 自動ソート優先（ステープルソーターが必要）
電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときにソートされるよう設定するかしないかを選択します。

- する
- しない

SHC2copy-F_FM.book 129 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

コピー周辺設定2/2

❖ SADFマニュアル選択（自動原稿送り装置（RADF）が必要）
自動原稿送り装置（RADF）のSADFモードへの切り替えを手動（マニュアル）で行うか、常にSADFモードとするかを選択します。

- する
- しない

❖ SADF電源投入時有効（自動原稿送り装置（RADF）が必要）
電源を入れた直後、予熱が解除されたときやオートクリアされたときに、SADFモードとなるよう設定するかしないかを選択します。（SADFマニュアル選択を「する」に設定しているとき。）

- する
- しない

❖ SADFオートリセット時間設定（自動原稿送り装置（RADF）が必要）
自動原稿送り装置（RADF）に１枚ずつ原稿をセットするとき、設定した時間が過ぎると、次の原稿をセットしても自動的に給紙されません。この時間を変更します。（SADFマニュアル選択、オートレスポンスセンサーを「しない」に設定しているとき）⇒使用説明書＜システム初期設定編＞「オートレスポンスセンサー」

- ３～60秒の範囲（１秒単位
- 10秒

❖ ソート全数読み取り（自動原稿送り装置（RADF）が必要）
原稿の読み取りの途中でメモリーがいっぱいになったとき、読み取った原稿だけをコピーした後、残りの原稿の読み取りを自動的に継続するかしないか選択します。

- 「しない」のとき
  メモリーがいっぱいになると、機械がいったん停止するので、分割されるたびに排紙トレイのコピーを取り除くことができます。
- 「する」のとき
  機械から離れていてもコピーは仕上がりますが、ページが分かれてソートされてしまいます。
- する
- しない

❖ 回転ソート／スタック給紙継続（HDDユニットが必要）

- コピー中にどちらかの給紙トレイの用紙がなくなったとき
- 同じサイズで違う方向の用紙をセットしていないとき
  一方の用紙だけでコピーするかしないか選択します。
- する
- しない

フォーマット登録

❖ フォーマット１～４（HDDユニットが必要）
よくコピーする各種フォーマットなどを登録します。頻繁なコピーによる原稿の破損を防止できます。

- フォーマット1
- フォーマット2
- フォーマット3
- フォーマット4

補足

❒ 登録した画像は、本体の電源スイッチを「Off」にしても消去されません。すでに画像が登録されているエリア番号に画像登録を行うと、前の画像は消去されてしまいます。登録した内容は、必ず控えをとるようにしてください。

参照

登録方法⇒ P.91 「フォーマットを登録する」

SHCopy_F_FM.book 131 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

使用上のお願い

> ⚠ 注意
> 夜間等で長時間本製品をご使用にならない場合は、電源スイッチ（主電源スイッチを含む）を切ってください。また連休等で長期間、本製品を使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

重要

- 【ファクス】キーを押し、ファクス初期画面のメモリー残量が100%であることを確認してから、電源プラグを抜いてください。
- 電源プラグを抜いている間は、ファクスの送受信はできません。

参照

詳しくは、使用説明書＜ファクス機能編＞をご覧ください。

- 定着ユニットの回りはヒーターの熱で熱くなっていますので、長時間触らないでください。
- 連続してコピーすると、コンタクトガラス表面が熱いと感じることがありますが異常ではありません。
- 通気口などでは排気により温かいと感じることがありますが異常ではありません。
- コピー中に電源を切らないでください。電源を切るときは、コピーが終了していることを確認してください。
- 温度の変化により機械内部に水滴が生じると適正なコピー画像が得られないことがあります。このような不具合を避けるため、本機には結露防止機能があります。電源スイッチを「Off」にしたあとも、結露防止ヒーターがはたらいていますので、機械本体はやや温かい状態を保っています。
- コピー中に前カバー、サイドカバーを開けないでください。コピーが停止し、用紙がつまります。
- コピー中に本機を動かしたり、傾けたりしないでください。また、振動を与えないでください。
- 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり、本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。登録した内容は、必ず控えをとるようにしてください。
- 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

SHC2copy-F_FM.book 132 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

清掃のしかた

> ⚠ 注意
> 本製品の清掃を行うときは安全上、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

コンタクトガラス、圧板、自動原稿送り装置（RADF）のベルトが汚れていると、きれいにコピーできません。汚れたら清掃してください。

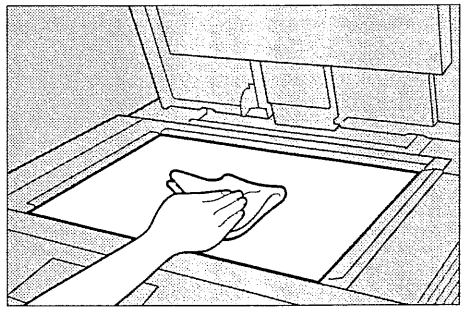
❖ お手入れの方法

やわらかい布で空拭きします。空拭きで汚れが取れないときは、水で濡らして固く絞った布で拭きます。また、水でも取れない汚れは中性洗剤を使って拭きます。水拭き後、空拭きをして水気を十分に取ります。

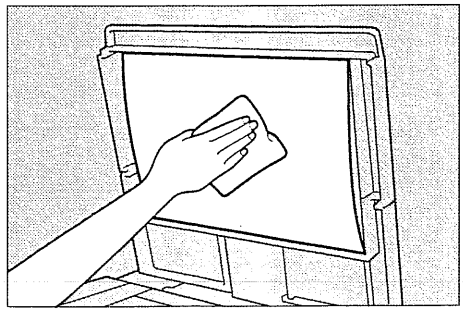
重要

- クリーナーなどの薬品類、シンナーやベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。すきまからしみこんだり、本体のプラスチックが溶けたりして、故障の原因になります。
- 機械内部の清掃はサービス担当者におまかせください。

❖ コンタクトガラスの清掃

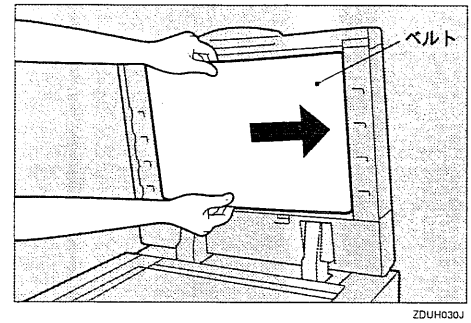


❖ 圧板の清掃



❖ 自動原稿送り装置（RADF）ベルトの清掃

ベルトを両手で動かして空拭きします。



ZDUH030J

SHC2copy-F_FM.book 133 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後１時３９分

製品の保守サービスについて

このたびは、弊社複写機をご購入いただき、ありがとうございます。保守サービス方式には次のものがございます。

- コピーセット方式
  弊社指定のコピーキットをご購入いただきますと「コピーシステム契約書」にもとづき、複写機の点検・調整・修理および感光体の提供・交換を行います
  コピーセット（BS-60）7500カウント用
- コピーチャージ方式
  トナー、用紙などの消耗品を除く、複写機の点検・調整・修理および感光体の提供・交換を行い、その対価としてコピー料金を申し受ける方式です。
- スポット方式
  保守サービスとドラムおよび消耗品の供給を、お客様の要請のつど料金を申し受ける方式です。

保守サービス契約書について

保守サービスとしてコピーセット契約を結ばれたお客様は「コピーシステム契約書」を、またコピーチャージ契約を結ばれたお客様は「コピーチャージ契約書」を、ご購入の際お買い上げ販売店もしくは弊社営業所が必要事項を記入し、お渡しいたします。

「コピーシステム契約書」、または「コピーチャージ契約書」には、お買い上げになった複写機の保守サービスの内容などが記載されておりますので、よくお読みになった後、大切に保管願います。もし、「コピーシステム契約書」、または「コピーチャージ契約書」の発行がなされていない場合は、お買い上げ販売店もしくは弊社営業所へご連絡ください。ただちに発行手続きをいたします。

※アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げ販売店もしくは、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

補修用性能部品について

補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品のことをいいます。
弊社の保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製造中止後、7年間です。

6. 付録

仕様

	KM-3510w
形式	コンソール型
感光体種類	OPC
読取方式	CCDによる一次元固体走査方式
記録方式	レーザービーム一次元走査方式
現像方式	第1:乾式2成分磁気ブラシ2段現像 第2:非磁性1成分非接触現像方式（赤）
定着方式	ヒートロール方式
原稿台方式	固定
原稿基準位置	左奥
ウォームアップタイム	180秒以内（温度20℃）
ファーストコピータイム	6.0秒以下（A4□、第1給紙トレイ1）
連続複写速度（等倍時	13枚／分（A2□のとき） 35枚／分（A4□のとき）
複写原稿	シート、ブック、フィルム、立体物
最大原稿サイズ	A2□（420×594mm）、17×22（ANSI C）
複写サイズ	A2□～はがき100×148mm、ANSI C□～HLT□□ 本体給紙トレイ　A2□～B5□、ANSI C□～HLT□ 手差しトレイ　A2□～はがき100×148mm 規格サイズ以外（縦100～432mm、横148～594mm）の用紙
用紙紙厚	52～157 g／m^2（45～135kg） 給紙トレイ　52～105g/m^2（45～90kg） 手差し　52～157g/m^2（45～135kg）
画像欠け幅	先端　3±2mm以下　　左側　2±2mm以下 後端　2±2mm以下　右側　2±2mm以下
複写倍率	等倍　100% 拡大　115%、122%、141%、200%、400% 縮小　43%、50%、61%、71%、82%、87%、93% ズーム40～400%（1%単位の任意選択） (0.1%刻みの倍率補正あり)
解像度／階調性	400dpi　256値（黒）2値（赤）
単色カラー	赤

	KM-3510w
給紙方式	500枚フロントローディングトレイ×2 ＋250枚×3 ＋手差し（50枚） （京セラミタDC用紙のとき）
両面ユニット収容可能枚数	50枚（A4、京セラミタDC用紙のとき）
用紙サイズ	A2、A3、A4、A5、A6、はがき、B3、B4、B5、B6、ANSI C、LT、LG、HLT、DLT
連続複写	1～999枚
使用電源	100V　15A　50／60Hz
最大消費電力（フルシステム時）	1.5kW
大きさ 本体（幅×奥行き×コンタクトガラスまでの高さ）	780×767×980mm
機械占有寸法 （幅×奥行き）	• 手差しトレイを開け、排紙トレイを付けたとき 1350×767mm • A2、B3サイズなどの大判サイズ用に手差しトレイ、排紙トレイを引きのばしたとき 1710×767mm
質量	約175kg

おもな付属品

品名	数量
赤トナーカートリッジ	2
ローラークリーナー	1
サイズ表示シート	1
アシ・スタンド	2
排紙トレイ	1
原稿置き台	1
使用説明書・システム初期設定編	1
使用説明書・コピー機能編（本書）	1
使用説明書入れ	1
ユーザー登録書	1
名刺ケース	1
名刺ケース用台紙	1
原稿置き台取付ネジ	2

オプションについて

❖ 両面自動原稿送り装置RADF RF3e（自動原稿送り装置（RADF））

原稿を1枚ずつ自動的に送ります

モード	RADFモード、SADFモード
原稿サイズ	• 片面原稿時 A2□～B6□ • 両面原稿時 A3□～B5□、11×17（DLT）□～8½×5½（HLT）□□
原稿紙厚（四六判）	• 片面原稿時 50～128g／m² （45～110kg） • 両面原稿時 50～110g／m² （45～90kg）
原稿積載枚数	50枚 （京セラミタDC用紙、A4のとき）
複写速度	• 1 to 1 コピー時 26枚/分
最大消費電力	61.5W以下（電源は本体から供給）
大きさ	790（幅）×670（奥行き）×212mm（高さ）
質量	約30kg

❖ 増設ハードディスクタイプW2（HDDユニット）

回転ソート、回転スタック、電子ソート、集約、ユーザースタンプ印字、リピート、フォーマット合成ができます。

❖ ステープルソーター AS-AC10

コピーを自動的に仕分けます。また、仕分けした用紙をステープラーでとじます。

ビン数		10ビン＋排紙トレイ
排紙トレイ	収納可能サイズ	A3□B4□A4□□B5□□A5□□B6□はがき 100×148mm 11×17 DLT □8½×14 LG □8½×11 LT □□8½×5½ HLT □□
	収容可能枚数	100枚 （京セラミタDC用紙、A4のとき）
	用紙紙厚（四六判）	52～157g／m² 45～135kg
10ビン	収納可能サイズ	A3□B4□A4□□B5□□A5□11×17（DLT） □8½×14（LG □8½×11 LT）□□
	1ビンあたりの収容可能枚数	• ソート時 30枚（A4以下）、25枚（B4以上） • スタック時 25枚（A4以下）、20枚（B4以上） （京セラミタDC用紙のとき）
	用紙紙厚（四六判）	52～157g／m² 45～135kg
ステープル	可能枚数	20枚（京セラミタDC用紙のとき）
	可能サイズ	A3□B4□A4□□B5□□ 11×17 DLT □8½×14（LG）□8½×11（LT） □□
	用紙紙厚（四六判）	52～80g／m² 45～69kg
	位置	1ヶ所止め平行綴じ（手前右側）
最大消費電力		33W（電源は本体から供給）
大きさ		381（幅）×548（奥行き）×443mm（高さ）
重量		12.4kg（本体のみ）

注：

第二原図用紙、普通紙45kgはT目をお使いください。

Y目は紙が丸まり紙づまりの原因となります。お使いになるときは排紙トレイ上で1枚ずつ取り除いてください。

❖ 原稿台カバータイプB

コンタクトガラス上の原稿を押さえます。

大きさ	530（幅）×606（奥行き）×92mm（高さ）
質量	約2.2kg

❖ キーカウンター

コピーの使用量を計るカウンターです。各部署に1個ずつ備えておくと、部署ごとの使用量が管理できます。

❖ キーカードMK-1
部署ごとのコピー使用量を記憶し、表示、集計するコピー量管理装置です。パソコンとのシステム化により枚数集計管理ができます。一定期間ごとのコピー量の集計やコピー使用量を簡単に確認できます。

❖ A2コントローラー タイプG1
本機をプロッタとして使用することができます。

❖ FAX System (D)
本機をファクスとして使用することができます。

Chapter6 141 ページ 2001年2月2日 金曜日 午後2時32分

消耗品

※機械の性能を維持しトラブルを未然に防止するために、消耗品は必ず弊社のものをご使用ください

用紙

〈普通紙〉
(DC用紙)
A2判 100枚×5冊 5,300円
A3判 500枚×3冊 6,900円
A4判 500枚×5冊 5,750円
A5判 500枚×6冊 4,320円
B4判 500枚×5冊 8,650円
B5判 500枚×5冊 4,350円

〈カラーペーパー〉
(DC用カラーペーパー)
(ピンク・クリーム・グリーン・ライトブルー・アイボリー)
A4判 500枚×5冊 8,000円
B4判 500枚×5冊 11,000円
B5判 500枚×5冊 5,750円

〈第2原図〉
(GNT-75)
A2判 100枚×1冊 4,500円
A3判 250枚×1冊 5,000円
A4判 500枚×1冊 5,000円
B4判 500枚×1冊 7,500円
B5判 500枚×1冊 3,750円

〈PPCフィルム〉
(EK-300)
A2判 100枚×1冊 24,000円

※上記表示価格は、2001年1月現在のものです。また表示価格及び料金には消費税は含まれておりません。ご購入の際は、消費税が別途付加されますので、ご了承願います。

SHC2copy-F_FM.book 142 ページ ２００１年１月２６日 金曜日 午後３時３分

索引

アルファベット索引

A2コントローラー タイプG1 140
FAX System (D) 140
OHPフィルム 26
RADF→自動原稿送り装置 16, 18, 39, 138
SADFオートリセット時間設定 129
SADF電源投入時有効 129
SADFマニュアル選択 129

あ行

圧板 139, 18
エラーメッセージ 93
エンター 19
オートクリア 36
オートスタート 58
オートステープル 47
オートレスポンスセンサー 16
オプション 138, 16
オプション名称 18

か行

回転スタック 49
回転ソート 49
回転ソート／スタック給紙継続 129
拡大コピー 59
紙づまり 105
画面切り替えキー 9, 19
カラー現像ユニット 104
カラー現像ローラー 112
カラー選択 42
管理番号印字サイズ設定 127
管理番号印字濃度設定 127
給紙トレイ 16
キーカード 18, 111
キーカードMK-1 140
キーカウンター 18, 111, 139
キーカウンターセット口 17
輝度調整つまみ 19
機能キー 19
機能組み合わせ 92
基本設定 9
機密管理ナンバリング 69
クリア／ストップキー 19
結露防止機能 131
原稿 23
原稿置台 16
原稿押さえ→圧板 18
原稿カウント表示 128
原稿サイズ混載 40
原稿種類選択 43
原稿種類優先設定 118
原稿のセット 38
原稿不足時自動排出（集約） 128
原稿忘れ警告ブザー音 119
原稿忘れ検知 58
合成 90
コーナリング 87
コピーオートクリア 36
コピー・オートクリア時間設定 119
コピーセット枚数制限設定 119
コピートレイガイド 36, 16
コンタクトガラス 16

さ行

集約 67
集約／リピート仕切線 120
縮小コピー 59
主電源スイッチ 16
消耗品
　用紙 141
初期設定 113
初期設定キー 19
除湿ヒーター 16
ジョブリコール 58
ジョブリコールキー 19
システムオートクリア 36
指定色消去 83
指定色変換 84
自動キー優先表示 118
自動原稿送り装置→RADF 16, 18
自動ソート優先 128
自動濃度調整 43
自動濃度優先 118
自動用紙選択 44
自動用紙選択優先 118
地肌除去 43
仕様 135
白黒反転 88
シンプルメニュー画面 9, 14
シンプルメニュー画面優先 118
ズーム 60
スタック 46
スタートキー 19
スタンプ印字 70
スタンプ印字色設定 128
スタンプ種類優先設定 121
スタンプ条件設定 122
　スタンプ位置設定 122
　スタンプサイズ設定 122
　スタンプ透かし設定 122
ステープラーの針 109, 110
ステープル 47
ステープルソーター 16, 18, 46, 109, 110, 139
ステープル補給 109
ストップキー 19
寸法変倍 61
設定確認 9
清掃 132
センター消去 81
センター消去幅設定 120
センタリング 87
操作部 19
ソート 46
ソート全数読み取り 129

た行

第二原図用紙→トレーシングペーパー 82
ダブルコピー 82
ダブルコピー仕切線設定 120
通気口 17
定形変倍 59
定着切り替え 54, 102
手差しコピー 53
手差しトレイ 17
テンキー 19
電源キー 16
電子ソート 49
等倍 44
独立変倍（%） 64
独立変倍（mm） 65
とじ代 86
とじ代幅初期値設定 120
トナー 31
トナー補給 103
トレーシングペーパー（原稿） 23
トレーシングペーパー（用紙） 26, 28, 30

な行

濃度 43

は行

排紙トレイ 16
ハイスピード優先 119
倍率補正 62
はくり紙（用紙）26
針づまり 110
針の補給 109
反転 88
標準操作画面 12
日付印字 76
日付印字条件設定 126
　日付印字位置 126
　日付印字位置設定（左上）127
　日付印字位置設定（右下）127
　日付印字スタイル優先設定 126
　日付印字優先方向 126
ファクス操作部 19
フィルム（用紙）26
フォーマット１～４ 130
フォーマット登録 130
フォーマットの登録 91
複写原稿モードの点除去 119
縁取り紙（原稿）23
縁取り紙（用紙）28
プログラム 56
プログラムキー 19
プログラム登録 56
プログラム変更 56
プログラム呼び出し 57
分割 66
ページ印字 78
ページ印字位置設定
　（中央下）121
　（右上）121
ページ印字種類設定 121
ページ・日付印字色設定 128
ホッチキスの針→ステープラーの針 109, 110

ま行

前カバー 16
マニュアルステープル 47, 48
右サイドカバー 17
ミラー 89
メッセージエリア 8, 10
モアレ 96

や行

ユーザーコード 58
ユーザー・スタンプ色設定 128
ユーザースタンプ印字 72
ユーザー・スタンプ条件設定 124
　スタンプ位置設定 125
　スタンプサイズ設定 124
　スタンプ透かし設定 124
　スタンプスタイル 126
ユーザースタンプ登録 124
ユーザースタンプ登録／削除（消去）74
ユーザー変倍率設定1～4 119
用紙 26, 141
用紙厚切り替え 54, 102
用紙サイズの変更 33
用紙指定変倍 45
用紙選択 44
用紙の補給 101
用紙ミスフィード 105
予熱キー 19

ら行

リセット／予熱キー 19
リピート 85

わ行

枠消去 81
枠消去幅設定 120
割り込みキー 19
割り込みコピー 58
•/*キー 19

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

●電波障害について

・他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。
  - テレビやラジオなどからできるだけ離す
  - テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
  - コンセントを別にする

本機器は社団法人日本事務機械工業会が定めた複写機及び類似の機器の高調波対策ガイドライン（家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠）に適合しています。

QUALITY CERTIFICATE

この製品はすべての品質管理および最終検査に合格しました。

京セラミタ株式会社

<お客様ご相談窓口> (06) 6764-3678

受付時間：9:00~12:00 13:00~17:00（但し、土曜日、日曜日及び祝日は除く）

京セラミタ本社：〒540-8585 大阪市中央区玉造1丁目2番28号

京セラミタジャパン株式会社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1－9－15 03-3279-2112

営業所名	〒	住所	電話番号
北海道営業本部	003-0012	**札幌市白石区中央2条6丁目9－22（オガワビル）**	011-862-4495
札幌ブランチ	003-0012	札幌市白石区中央2条6丁目9－22（オガワビル）	011-862-2631
札幌特販ブランチ	003-0012	札幌市白石区中央2条6丁目9－22（オガワビル）	011-862-2631
旭川ブランチ	078-8349	旭川市東光9条2丁目4番11号	0166-34-0711
釧路ブランチ	085-0007	釧路市堀川町1－24	0154-25-8666
函館ブランチ	040-0001	函館市五稜郭町28－4	0138-52-2622
東北営業本部	983-0035	**仙台市宮城野区日の出町2－2－41**	022-232-3223
仙台ブランチ	983-0035	仙台市宮城野区日の出町2－2－41	022-232-3225
山形ブランチ	990-0832	山形市城西町5－29－19	023-645-3551
盛岡ブランチ	020-0866	盛岡市本宮字小幅16－14	019-635-2354
秋田ブランチ	010-0946	秋田市川尻総社町7－1	018-863-2422
郡山ブランチ	963-8851	郡山市開成4－28－7	024-932-4414
青森ブランチ	030-0843	青森市大字浜田字玉川355番地	017-739-8951
北関東営業本部	330-0033	**大宮市本郷町780－1**	048-652-4361
大宮ブランチ	330-0033	大宮市本郷町780－1	048-666-4515
新潟ブランチ	950-0862	新潟市竹尾卸新町811－6	025-272-1133
宇都宮ブランチ	321-0933	宇都宮市簗瀬町769－1	028-636-5077
熊谷ブランチ	360-0024	熊谷市問屋町2－2－15	048-525-3242
前橋ブランチ	371-0013	前橋市西片貝町5－18－20（鈴木ビル1F）	027-221-1547
川口ブランチ	333-0811	川口市戸塚2－18－4（厚川ビル1F）	048-297-0946
所沢ブランチ	350-1304	狭山市狭山台4丁目10－2	042-956-2022
東関東営業本部	260-0001	**千葉市中央区都町1－55－1**	043-233-3550
千葉ブランチ	260-0001	千葉市中央区都町1－55－1	043-233-3550
水戸ブランチ	311-4151	水戸市姫子1－67－1	029-254-7677
土浦ブランチ	300-0848	土浦市西根西1－13－7	0298-42-4151
市川ブランチ	272-0004	市川市原木1－9－3	0473-28-3711
東京第1営業本部	103-0023	**東京都中央区日本橋本町1－9－15**	03-3279-2050
城東ブランチ	136-0071	東京都江東区亀戸2－18－1	03-3636-3671
城北ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2050
東京第2営業本部	103-0023	**東京都中央区日本橋本町1－9－15**	03-3279-2051
東京ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2051
城西ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2051
東京第3営業本部	103-0023	**東京都中央区日本橋本町1－9－15**	03-3279-2053
城南ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2053
東京第4営業本部	103-0023	**東京都中央区日本橋本町1－9－15**	03-3279-2053
杉並ブランチ	167-0041	東京都杉並区善福寺1－3－3（ラルゴ108）	03-3394-4640
西東京ブランチ	190-0022	立川市錦町6－19－12（戸所ビル）	042-527-0651
神奈川営業本部	222-0036	**横浜市港北区小机町1521－5**	045-471-0232
横浜ブランチ	222-0036	横浜市港北区小机町1521－5	045-471-0231
横浜特販ブランチ	222-0036	横浜市港北区小机町1521－5	045-471-0231
厚木ブランチ	243-0814	厚木市妻田南1－16－32	0462-23-1691
川崎ブランチ	211-0025	川崎市中原区木月1536－5（誠和電通工業ビル1F）	044-411-3332
山梨ブランチ	400-0043	甲府市国母4－15－15	055-224-2181
沼津ブランチ	410-0000	沼津市寿町10－15	0559-25-6066
東京MA営業本部	103-0023	**東京都中央区日本橋本町1－9－15**	03-3279-2057
第1ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2057
第2ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2122
第3ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2057
第4ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2057
第5ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2057
第6ブランチ	103-0023	東京都中央区日本橋本町1－9－15	03-3279-2057

営業所名	〒	住所	電話番号
中部営業本部	450-0003	**名古屋市中村区名駅南3－6－18（第5ワカサビル）**	052-551-1280
名古屋ブランチ	450-0003	名古屋市中村区名駅南3－6－18（第5ワカサビル）	052-582-7411
岐阜ブランチ	500-8262	岐阜市茜部本郷1－7	058-271-9423
名古屋北ブランチ	482-0041	岩倉市東町長山102番地	0587-37-5166
北陸ブランチ	921-8802	石川県石川郡野々市町押野4－38（中藪ビル1F）	076-248-5626
岡崎ブランチ	444-0840	岡崎市戸崎町1丁田31－3	0564-54-8181
富山ブランチ	939-8087	富山市大泉町2－4－16	0764-24-3531
静岡ブランチ	422-8005	静岡市池田241	054-263-1456
浜松ブランチ	430-0803	浜松市植松町258－4	053-463-1209
三重ブランチ	514-0103	津市栗真中山町字下沢4－1	059-231-1159
長野ブランチ	380-0915	長野市稲葉上千田沖122－1	026-226-8145
松本ブランチ	399-0005	松本市野溝木工1－6－58	0263-26-4679
中部MA営業本部	450-0003	**名古屋市中村区名駅南3－6－18（第5ワカサビル）**	052-582-7411
第1ブランチ	450-0003	名古屋市中村区名駅南3－6－18（第5ワカサビル）	052-582-7418
第2ブランチ	450-0003	名古屋市中村区名駅南3－6－18（第5ワカサビル）	052-582-7418
関西営業本部	543-0014	**大阪市天王寺区玉造元町3－9**	06-6764-3207
大阪ブランチ	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3－9	06-6764-3210
京阪ブランチ	572-0846	寝屋川市高宮栄町11番6号	072-880-2201
阪和ブランチ	591-8032	堺市百舌鳥梅町3－43－3	0722-53-7077
京都ブランチ	605-0846	京都市東山区五条橋東2－32－1	075-525-2131
奈良ブランチ	630-8452	奈良市北之庄西町1－4－13	0742-63-3202
大阪南ブランチ	547-0016	大阪市平野区長吉長原4丁目16番1号	06-6769-7201
北大阪ブランチ	564-0063	吹田市江坂町3－44－1	06-6337-2485
和歌山ブランチ	640-8341	和歌山市黒田35－2	0734-73-5136
滋賀ブランチ	523-0032	近江八幡市白鳥町36－1	0748-32-1530
兵庫営業本部	652-0895	**神戸市兵庫区小河通5－2－8（赤浦合名ビル3F）**	078-651-9010
神戸ブランチ	652-0895	神戸市兵庫区小河通5－2－8（赤浦合名ビル2F）	078-651-7500
姫路ブランチ	670-0952	姫路市南条字前田511-532	0792-81-0250
尼崎ブランチ	661-0012	尼崎市南塚口町5丁目17－7	06-6427-3176
四国営業本部	760-0078	**高松市今里町1－28－18**	087-837-5312
高松ブランチ	760-0078	高松市今里町1－28－18	087-861-3861
松山ブランチ	790-0056	松山市土居田町67－2	089-946-3411
徳島ブランチ	770-0941	徳島市万代町5－7－3	088-626-1761
関西MA営業本部	543-0014	**大阪市天王寺区玉造元町3－9**	06-6764-3207
第1ブランチ	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3－9	06-6764-3200
第2ブランチ	543-0014	大阪市天王寺区玉造元町3－9	06-6764-3215
中国営業本部	733-0032	**広島市西区東観音町2－5**	082-295-2626
広島ブランチ	733-0032	広島市西区東観音町2－5	082-295-2001
広島特販ブランチ	733-0032	広島市西区東観音町2－5	082-295-2001
山口ブランチ	754-0021	山口県吉敷郡小郡町黄金町13－36	0839-73-0332
岡山ブランチ	700-0975	岡山市今8－14－25	086-241-8481
福山ブランチ	721-0974	福山市東深津町1－10－18	0849-21-5075
徳山ブランチ	745-0066	徳山市岡田町10－37	0834-21-3006
松江ブランチ	690-0049	松江市袖師町7－22	0852-22-0630
三次ブランチ	728-0006	三次市畠敷町1506－3	0824-63-3454
九州営業本部	812-0016	**福岡市博多区博多駅南6－2－2**	092-471-8651
福岡ブランチ	812-0016	福岡市博多区博多駅南6－2－2	092-441-2721
鹿児島ブランチ	890-0063	鹿児島市鴨池1－12－14	099-255-9001
北九州ブランチ	802-0045	北九州市小倉北区神岳2－6－26（第1共立ビル）	093-551-4065
大分ブランチ	870-0906	大分市大州浜1丁目8番19号	097-558-2747
久留米ブランチ	830-0018	久留米市通町7－245	0942-35-3633
熊本ブランチ	862-0968	熊本市馬渡2－16－8	096-370-3900
長崎ブランチ	852-8131	長崎市文教町7－22（東文教ハイツ1F）	095-843-8248
宮崎ブランチ	880-0024	宮崎市祇園3－176－1	0985-29-7511
沖縄ブランチ	902-0073	那覇市上間356－1	098-834-5192

2000年9月 B011-8512

2001.1
5F480020A